

平成29年度
徳島県幼児教育推進体制構築事業
報告書



目次

■ 幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究

はじめに	1
調査研究の目的	1
調査研究の方法	2
調査研究の体制	4
調査研究の計画	5
本年度（29年度）の計画の具体	7
本年度（29年度）のスケジュール	9
調査研究の内容	12
訪問指導の成果	34
アンケートの結果及び考察	34
「訪問指導の手引（仮題）」作成に向けて	55
「Q&A集（仮題）」作成に向けて	68
成果と課題	74

■ 推進事業の資料

資料1 徳島県における幼児教育の状況	78
資料2 徳島県教育委員会幼児教育研修一覧	79
資料3 「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の進捗状況	80
資料4 幼児教育推進体制構築事業に関するアンケート結果	84
資料5 徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣のご案内	93

■ 幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究

はじめに

徳島県保育・幼児教育センター 2年目の取組

「全ての幼児に提供される質の高い幼児教育」を目指す「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」（平成27年3月策定）を、より実効性のあるものとして長期的に推進していくため、幼児教育推進体制を構築し、訪問指導の充実、保幼小連携・接続の普及、大学等との強固な連携を図りたい。そして、これらの取組が、現在の幼児教育の充実、将来の徳島における幼児教育充実のための確かな基盤となり、全ての幼児の健やかな成長を支えていくことを期して、本調査研究に取り組んでいる。

幼児教育推進体制の中核として、県教育委員会学校教育課内に「徳島県保育・幼児教育センター」を設置し、アドバイザー・スーパーバイザー訪問指導、幼保小連携推進モデル事業を中心に取組を進めてきた。その過程で、現場の保育者が日々の保育に誠実に取り組みつつ、さらに学ぶ意欲が旺盛であること、県内には経験豊富な人材が多数おられること、大学・研究機関・団体等の方々が非常に協力的であることなどを強く実感した。折しも、昨年度末に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が同時に改訂・公示され、各施設が同じ方向性をもって保育・教育に取り組むことが強調された。これは、各施設が連携し、学び合って、保育・教育に取り組むことが社会の要請となったということである。各施設の所管が違うことから、研修体制も異なっているのが本県の現状であるが、「徳島県保育・幼児教育センター」の取組が、各施設・大学・研究機関・団体等の連携に資する「鏝（かすがい）」となることを目指してきた。

保育者の資質向上については、勤務形態の変化や多忙化により、研修への参加と園内研修の実施が難しいこと、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園それぞれの課題意識が異なり、一斉に行う園外研修では、教育・保育現場のニーズに対応しきれないことが現状としてある。このような状況を踏まえ、施設訪問による指導の必要性和有効性に着目し、指導者として、「県保育・幼児教育アドバイザー」を養成・配置した。なお、今年度は、スーパーバイザー・アドバイザー共に増員し、訪問指導のさらなる充実を目指したが、様々な機関・方々の御理解と御協力もあり、施設の種類、数ともに、昨年度以上の実績を上げることができた。並行して、来年度作成を目指す「訪問指導の手引（仮題）」「Q&A集（仮題）」のための情報の蓄積にも取り組んだ。それらの指導資料を活用することにより、アドバイザーによる指導内容の共有化、保育者の実践力の向上を図り、引き続き幼児教育全体の底上げにつなげたい。

調査研究の目的

「全ての幼児に提供される質の高い幼児教育」の実現のために、「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ（H27.3策定）」の具現化をめざすにあたり、幼児教育推進体制の構築と保育者の研修機会の確保が課題である。そこで、「保育・幼児教育センター」を設立し、それを中核として、首長部局・教育委員会、大学、各施設と連携した推進体制を構築する。また、公立幼稚園等に対して行っている訪問指導の対象を公私幼保等に広げ、実践的な研修の機会の場による保育者の資質向上と各施設の教育・保育の質向上を図る。

また、調査研究課題は次のとおりとした。

- 「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築
- 「幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実
- 保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進
- 大学・附属幼稚園等と連携した研修の充実と指導資料の作成

1. 「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築

(1) 「保育・幼児教育センター」の設置と機能の充実

「保育・幼児教育センター」として、主に次の5つの事業を実施する。

- ① 「保育・幼児教育アドバイザー」を養成・配置することにより、幼稚園・保育所・認定こども園への訪問指導を充実させ、保育者の資質向上と園の教育力向上を図る。
- ② 保育所・認定こども園・幼稚園の保育者を対象とした幼児教育研修の充実させることにより、保育者のライフステージやニーズに応じた研修を実施し、保育者の資質向上を図る。保育士対象の研修、幼稚園教諭対象の研修の交流を拡大する。また、教員育成指標の作成と研修モデル計画の作成に取り組む。
- ③ 保幼小連携推進モデル事業を実施・普及させることにより、保育所と幼稚園・小学校との連携、就学前教育と小学校教育の接続の取組を推進する。
- ④ 保育者のための具体的な指導資料の作成し、配付・活用することにより、保育者としての基本となる事項を身に付けられるようにし、各保育者・各施設における教育・保育の質の底上げを図る。
- ⑤ 市町村や設置者に対する指導・支援の機会を設定することにより、各市町村・各施設における取組の充実を図る。

(2) 関係部局間の連携

- ① 幼児教育推進連絡協議会事務局会を設置し、定期的に協議することにより、幼児教育充実に向けた取組を、部局を越えて展開できるようにする。
- ② 公立・私立の保育所・幼稚園・認定こども園の実態を把握し、各部局が実施する施策の統合や共有を検討することにより、実施施策の効率化と充実を図る。

(3) 大学、研究機関等との連携

- ① 教員養成大学及び附属幼稚園教員を「保育・幼児教育スーパーバイザー」として委嘱し、「保育・幼児教育センター」の在り方や実施施策に対する助言・協力を得ることにより、施策の充実と幼児教育の拠点としての在り方をより有益なものにする。
- ② 研究団体に指導資料作成委員の委嘱し、具体的な資料作成に協力を得ることにより、具体的な資料の作成と効果的な活用を進める。

2. 「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実

(1) 「保育・幼児教育アドバイザー」の配置

- ① 幼児教育・保育の専門的知見や豊富な実践経験を有する人材を「保育・幼児教育アドバイザー」として委嘱し、県に配置する。
- ② 東西南北の4管区ごとに担当者（教育担当及び保育担当）を置き、各管区の施設に派遣し、教育・保育内容や指導方法、指導環境の改善について助言・指導を行う。

(2) 「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・資質向上

- ① 「保育・幼児教育アドバイザー研修」を実施することにより、アドバイザーとして必要とされる資質を身に付けさせる。その際、養成大学等との連携により、研修内容等について助言を得るとともに、研修の実施を依頼する。
- ② 現在行っている施設訪問（幼稚園等への訪問指導・保育所等への監査）に同行し、各施設における保育者の資質や、資質向上に関するニーズを把握する。

- ③ 施設訪問により把握した実態と研修をもとに、施設訪問における指導内容を協議する場を設け、指導内容の共有と充実を図る。

(3) 「保育・幼児教育アドバイザー」による訪問・指導

- ① 現在行っている施設訪問（幼稚園等への訪問指導・保育所等への監査）に同行し、担当者と共に、指導・助言にあたる。
- ② 訪問園を順次拡大するとともに、各施設に対する訪問指導体制を統合し、3年間を通して、全ての施設に対して、教育・保育内容に関する訪問指導ができるようにする。
- ③ アドバイザー連絡会を実施し、各施設の実態把握と情報の共有、指導内容・方法等の協議を重ねる。この協議を指導資料作成に生かし、指導内容の共有と充実を図る。

3. 保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進

(1) 保幼小連携推進モデル事業の実施

- ① 国研研究指定校事業（「幼小接続」H24・H25）の取組を基盤にし、新たに保育所を対象とした連携・接続の研究に取り組む。
- ② 指定地域において、保育所と小学校の連携・接続の取組、行政主導による就学前教育と小学校教育の接続の取組を進める。
- ③ 推進協議会を設置し、大学教員等による指導・助言を得ながら進める。

(2) 研究内容の普及等による県下全域での取組の推進

- ① 県内教職員500名が参加する「あわ（OUR）教育発表会」において研究発表を行うとともに、HPでも公開し、成果の普及を図る。
- ② 連携・接続のポイントやモデル事業の実践例を掲載した「保幼小連携実践集」を作成・配付し、他地域での取組を推進する。

4. 大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実

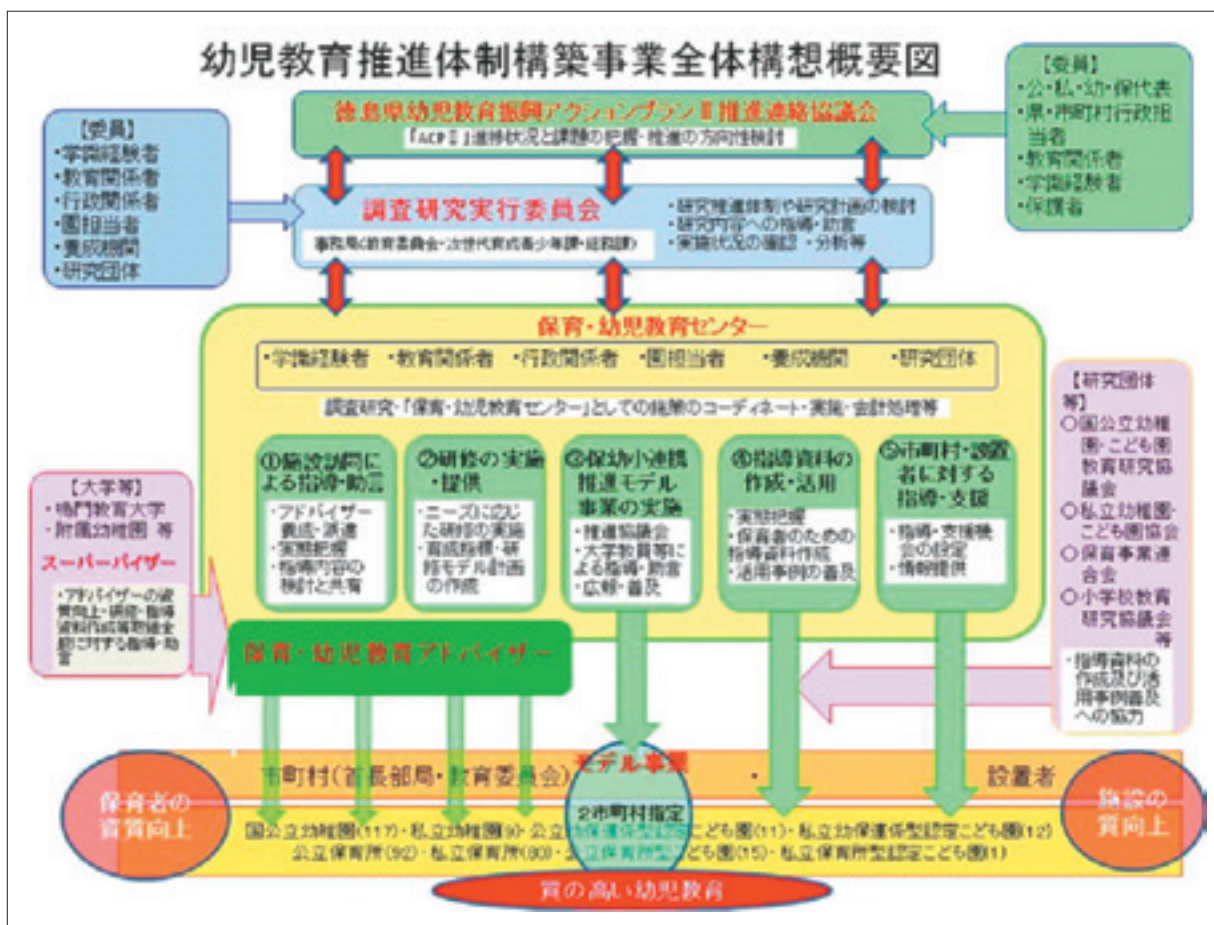
(1) 大学・附属幼稚園の「保育・幼児教育スーパーバイザー」としての関与

- ① 地域の幼児教育の拠点となる「保育・幼児教育センター」の在り方についての助言を得ることにより、「保育・幼児教育センター」としての機能を充実させる。
- ② 「保育・幼児教育アドバイザー」として必要とされる資質や研修内容についての指導・助言を得るとともに、研修講師を依頼することにより、「保育・幼児教育アドバイザー」の資質を高める。
- ③ 保育者のライフステージやニーズに応じた研修、保育士・保育教諭・幼稚園教諭に求められる資質・専門性を培う研修についての助言を得るとともに、研修講師を依頼することにより、充実した研修を実施する。
- ④ 指導資料の作成についての助言・指導を得ることにより、教育・保育実践に即した資料を作成する。

(2) 研究団体との連携した取組の充実

- ① 県幼稚園教育研究協議会、保育事業連合会、私立幼稚園・認定こども園協会等から指導資料作成委員を委嘱し、指導資料作成に協力を得ることにより、実践事例を踏まえた具体的な指導資料を作成する。
- ② 研究団体における指導資料を用いた実践や研修事例を普及することにより、県下全域での活用を促進し、保育者の質の底上げを図る。

調査研究の体制



1. 調査研究実行委員会

- (1) 学識経験者・教育関係者・行政関係者・園担当者・養成機関・研究団体等で構成する。
- (2) 年間2回開催し、研究推進体制や研究計画の検討、研究内容への指導・助言、実施状況の分析等を行う。
- (3) 必要に応じて専門部会を実施することも検討する。

2. 徳島県幼児教育推進連絡協議会(「徳島県幼児教育振興アクションプラン推進連絡協議会」)

- (1) 学識経験者、県・市町村行政担当者、公私立幼保各施設の代表者、保護者等で構成する。
- (2) 年間2回開催し、それぞれの立場から幼児教育推進について協議し、県全体の幼児教育の振興を図ることを目的とする。
- (3) 保育・幼児教育センターとしての機能の整理・課題と取組の方向性の検討を行う。

3. 徳島県幼児教育推進連絡協議会事務局

- (1) 県の関係各課実務担当者で構成する。
- (2) 保育・保育・幼児教育センターの機能の整理・充実、諸施策の調整・実施、事務処理・会計処理等、調査研究に係る全ての事項について調整し進める。
- (3) 徳島県幼児教育推進連絡協議会開催に関する年間4回の定期開催に加え、調査研究に係る事項について、随時協議・対応する。

※ 調査研究体制の特徴

- (1) 県教育委員会のリーダーシップにより、取組を進める。

- (2) 保育・幼児教育センターを核にしたネットワークづくりを進める。
- (3) 大学・附属幼稚園等と連携し、取組の質を向上させる。
- (4) アドバイザーを県に配置し、養成や課題の検討、指導事項の共有化を図る。
- (5) 研究団体の協力による指導資料作成と活用事例の広報による活用の促進を図る。
- (6) 調査研究立ち上げに要する事務の増加に対応する補助員を配置する。

調査研究の計画

	具 体 的 な 取 組
1 年目	<p>1. 「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 調査研究実行委員会を設置，開催し，事業推進に関する協議を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進体制や研究計画の検討 ・ 研究の実施状況の確認と研究内容 ○ 幼児教育推進連絡協議会において，調査研究の実施について協議する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「保育・幼児教育センター」の機能の整理・市町村等との連携 等 ○ 事務局会において，研究計画の詳細について検討・協議する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問指導体制・研修計画・保幼小連携推進モデル事業・指導資料作成 等 ○ 指導資料の内容検討を行う。 <p>2. 「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイザーに必要な専門性を検討し，人選・委嘱を行う。 ○ 研修を実施（6回）し，アドバイザーとしての指導力の向上を図る。 ○ 施設に訪問し（一人5園程度），実態把握と訪問指導についての協議を行う。 <p>3. 保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2地域を指定し，保幼小連携・接続の研究（第1年次）に取り組む。 ○ 推進協議会の実施，大学教員及び指導主事による指導を行う。 ○ 指定地域において，第1年次の研究をまとめ研究発表を行う。 ○ 「実践事例リーフレット」を作成・配付する。 <p>4. 大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学・附属幼稚園に「スーパーバイザー」としての関与を依頼する。 ○ 「保育・幼児教育センター」「保育・幼児教育アドバイザー」の在り方について助言を得る。 ○ 講師を依頼し，「保育・幼児教育アドバイザー」研修を実施する。
2 年目	<p>1. 「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児教育推進連絡協議会を実施し，取組の進捗状況と今後について協議する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問指導・保幼小連携推進モデル事業・研修の実施・指導資料の作成 ○ モデル園（市町）を指定することにより，域内での取組実績をつくり，研究大会等をとおして，他の地域に徐々に波及させる。 ○ 数園を対象として，アドバイザーの訪問による効果や必要性を検証する。

	具 体 的 な 取 組
2年目	<p>2. 「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設に対する「保育・幼児教育アドバイザー」訪問指導体制を順次整備する。 ○ 研修及び連絡会議を実施（6回）し、指導力の向上と指導内容の共有を図る。 ○ 訪問指導を行う。（一人7園程度） ○ 訪問指導における研修の形態の多様化を図る。 ○ 各施設に必要と思われる指導内容を協議し、指導資料作成に反映させる。 ○ 後の各市町のアドバイザー候補者に対する研修補助をする。 <p>3. 保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保幼小連携・接続の研究（第2年次）に取り組む。 ○ 推進協議会の実施、大学教員及び指導主事による指導を行う。 ○ 第2年次の研究をまとめ、研究発表を行う。 ○ 「実践事例パンフレット」を作成・配付する。 <p>4. 大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「保育・幼児教育アドバイザー」の訪問指導体制について助言を得る。 ○ 「保育・幼児教育アドバイザー」連絡会議における指導を依頼する。 ○ 研究団体に指導資料作成委員を委嘱し、大学等の指導のもと、作成に取り組む。
3年目	<p>1. 「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児教育推進連絡協議会を実施し、取組の進捗状況と成果・課題を協議する。 ・訪問指導・保幼小連携推進モデル事業・研修の実施・指導資料の作成 <p>2. 「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各施設に対する「保育・幼児教育アドバイザー」訪問指導体制を整備し、全園の半数に訪問指導を行う。（一人10園程度） ○ 研修及び連絡会議を実施（8回）し、指導力の向上と指導内容の共有を図る。 ○ 連絡会議において、「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・訪問指導における成果と課題についてまとめる。 <p>3. 保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2年間の取組の成果の普及を図る。特に保育所と小学校の連携・接続を推進する。 ○ 他地域において、2年間の取組を踏まえた新たな指定研究を行う。 ○ モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進の成果と課題についてまとめる。 <p>4. 大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学等と連携し、「保育・幼児教育センター」「保育・幼児教育アドバイザー」の在り方についての成果と課題を明確にする。 ○ 研究団体による指導資料活用事例を普及し、指導資料の活用を図る。

本年度（29年度）の計画の具体

平成28年度（第1年次）の成果（6項目）と課題（7項目）は次のとおりであり、それらを考慮しつつ、具体的に平成29年度計画を作成した。

【成果】

1. 県内の幼児教育施設・機関との連携への足がかり
2. 新たな研修スタイルの拡大
3. 「見える」化（視覚化）、「語る」化（言語化）に必要なことばの獲得
4. 保育の現場の要請（課題・悩み事等）の把握
5. 「遊び・学び」の連続性の充実に向けた改善
6. 人材の活用

【課題】

1. 訪問指導先の施設の拡大
2. 保育・幼児教育アドバイザーへの負担
3. 多様なアドバイザー研修の必要性
4. 「訪問指導」に対する保育現場の意識
5. 訪問先との継続的な関わり
6. 調査指標の設定と調査の実施
7. 「遊び・学び」の連続性を充実させる手立て

	具 体 的 な 取 組
2年目	<p>1. 「保育・幼児教育センター」を中核とした幼児教育推進体制の構築に関して</p> <p>○ 調査研究実行委員会を設置，開催し，事業推進に関する協議，指導助言を得る。 調査研究実行委員会は，県内教員養成系の各大学の教員（県保育・幼児教育アドバイザー及びスーパーバイザーも含む），前県幼児教育担当主事，県の各幼児教育施設を所管する部署の長で構成する。</p> <p>※ 研究推進体制や研究計画の検討 ※ 研究の実施状況の確認と研究内容</p> <p>○ 幼児教育推進連絡協議会において，調査研究の実施について協議する。 幼児教育推進連絡協議会は，市町村教育長会，県内の教員養成系大学，国公立幼稚園・こども園長会，私立幼稚園・こども園協会，保育事業連合会，市町村福祉担当部局，国公立幼稚園・こども園PTA，私立幼稚園・こども園PTA，県の各幼児教育施設を所管する部署からの代表で構成する。</p> <p>※ 「保育・幼児教育センター」の機能の整理 ※ 私立幼稚園，公私立保育所，公私立認定こども園の実態把握 ※ 市町村等との連携体制 等</p> <p>○ 事務局会において，研究計画の詳細について検討・協議する。 (前述の調査研究実行委員会，幼児教育推進連絡協議会の事前及び必要に応じて適宜)</p> <p>※ 訪問指導体制・研修計画・保幼小連携推進モデル事業・指導資料作成 等</p> <p>○ 教員育成指標を踏まえた研修モデル計画を検討する。</p> <p>○ 指導資料の内容を検討する。</p>

	具 体 的 な 取 組
2年目	<p>県幼稚園・こども園教育研究協議会と連携して進めたいと考えているが、新年度の組織も未定である段階では、話を進めにくいとの回答を受けている（特に、スケジュール面）。内容面に関しては、以下のような案をもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 保育・教育を質を評価する観点／「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体／育成指標等に関する意見 ○ モデル園（市町）を指定することにより、域内での取組実績をつくり、研究大会等をとおして、他の地域に徐々に波及させる。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 県下全幼稚園に対してアンケート実施（年度初めと年度末の2回予定） ○ 数園を対象として、アドバイザーの訪問による効果や必要性を検証する。 ○ 積極的な広報活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 「保育・幼児教育アドバイザー」案内状配付 <ul style="list-style-type: none"> ・案内状のなかに、前年度の活動の様子や訪問園からの声を盛り込む。 ・対象を28年度の保育所・幼稚園・こども園に、小学校を加える。 ・県（他課も含めて）及び県幼稚園・こども園教育研究協議会、県保育事業連合会事務局、県私立幼稚園・こども園協会等が主催する研修会や役員会、担当者会議等において、広報する場をいただけるよう努める。 ・県教育委員会のホームページに「徳島県保育・幼児教育センター」のサイトの作成を検討する。 <p>2. 「保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣による訪問指導の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アドバイザーに必要な専門性を検討し、人選・委嘱（新規・継続）を行う。（30名に委嘱予定） ○ 各施設に対する「保育・幼児教育アドバイザー」の訪問体制を順次整備する。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 5月より訪問指導開始。 ※ 10～11月 各郡市における研究大会或いは研修会において、要請があれば、指導助言或いは講演講師を務める（既に2市から要請を受けている。） ○ 保育の様子を撮影したり、音声を録ったりして、保育研究会の場でプロジェクターで映し出して協議する等、研修形態の多様化を図る。 ○ アドバイザーによる研究視察、研修及び情報交換会議を行い、指導力の向上と指導内容の共有を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 保育・幼児教育アドバイザー会議・研修会（研修も兼ねる）…（第1回5月、第2回9月、第3回2月） ※ 保育・幼児教育アドバイザー研修…（11月・鳴門教育大学附属幼稚園、1月・四国大学、2月・鳴門教育大学附属小学校） ○ 後のアドバイザー候補者に対する研修助成を行い、指導力の向上と指導内容の共有を図る。 ○ 施設に訪問（一人4園程度）し、実態把握と助言についての協議を行う。 <p>訪問にあたっては、可能な範囲で、事前に質問を頂いている。その内容に関して、資料を作成し、研究会で使用する。また、購入したDVDも、研修資料の1つとして使用する。ワークショップの話題に使ったり、保育の質について考える題材としたりする。</p>

	具 体 的 な 取 組
2 年目	<p>3. 保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 保幼小連携推進モデル事業協議会（2地域とも，第1回5月，第2回2～3月） ※ 各地域の保育園・幼稚園・小学校における訪問指導（年間数回適宜） ※ 阿南市椿中学校区による あわ（OUR）教育発表会発表（12月26日） <ul style="list-style-type: none"> ○ 2地域を指定し，保幼小連携・接続の研究（第2年次）に取り組む。 ○ 推進協議会の実施，大学教員及び指導主事による指導を行う。 ○ 指定地域において，第2年次の研究をまとめ研究発表を行う。 ○ 「実践事例パンフレット」を作成・配付する。 <p>3. 大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学・附属幼稚園に「スーパーバイザー」としての関与を依頼する。 スーパーバイザー会議（第1回5月，第2回6月，第3回7月） ○ 「保育・幼児教育センター」「保育・幼児教育アドバイザー」の在り方について助言を得る。 ○ 講師を依頼し，「保育・幼児教育アドバイザー」研修を実施する。 ○ 研究団体等との連携を強化する。 <ul style="list-style-type: none"> ※ 県幼稚園・こども園教育研究協議会役員理事会（4月，9月，2月） ※ 県私立幼稚園・こども園協会（毎月の園長会のどこかの場で） ※ 県保育事業連合会（適宜）

本年度（29年度）のスケジュール

4月 ①県保育事業連合会，②県幼稚園・こども園教育研究協議会との相談

〈場所〉各事務局設置施設或いは電話

〈対象〉①は会長・事務局対象，②は会長・副会長・各郡市研修担当係

〈内容〉調査研究事業に関する協力依頼

5月 「保育・幼児教育アドバイザー」案内状配付

〈場所〉県下全域の保育所・認定こども園・幼稚園・小学校及び自治体（教育委員会・福祉部局）

〈対象〉前述の施設に勤める教員，職員

〈内容〉案内状のなかに，前年度の活動の様子や訪問園からの声を盛り込み，広報に努める。

・県保育事業連合会事務局や私立幼稚園・こども園協会に依頼し，研修会や役員会，担当者会議など，広報する場をいただけるよう努める。

5月 保幼小連携推進モデル事業協議会

〈場所〉三好郡東みよし町庁舎 ・ 阿南市椿町椿小学校

〈対象〉教育長，教育委員会職員，各学校・園・所長と評議員，連携コーディネーター等

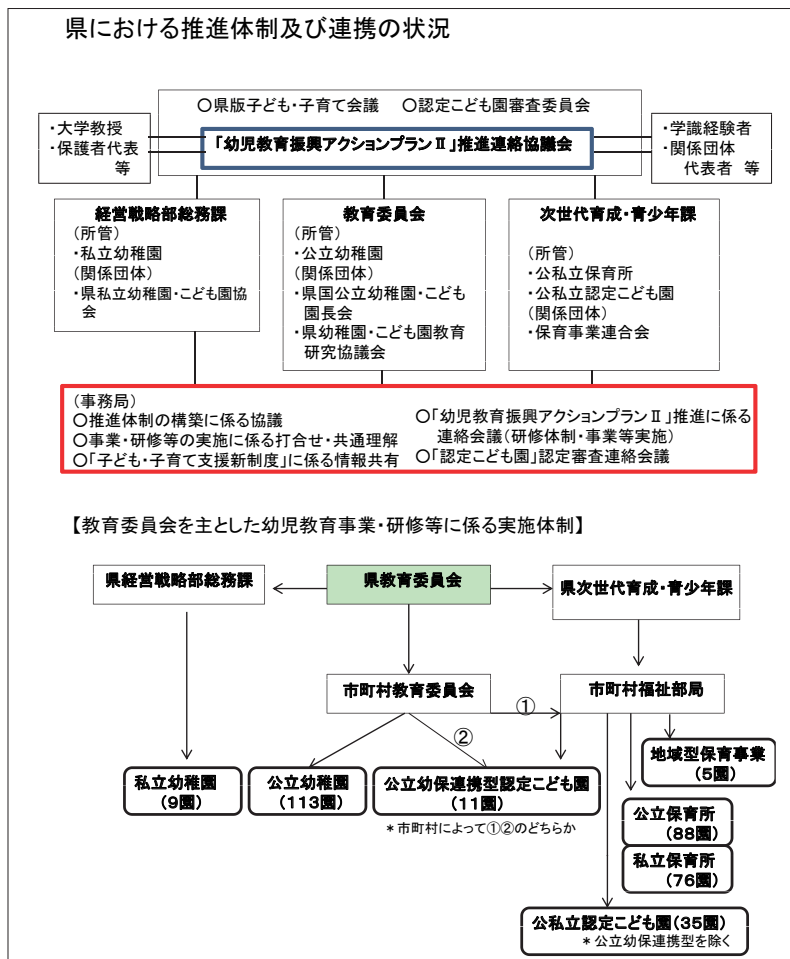
- 〈内容〉・今年度の方向性について協議
 - ・年間スケジュール（特に，大学教員の訪問指導）の確認
 - ・あわ（O U R）教育発表会発表の依頼
 - ・パンフレット作成の依頼 等
 以降，各地区・各校園の実態に即して実践を重ねる。
- 6月 第1回保育・幼児教育アドバイザー会議・研修会
 - 〈対象〉平成29年度アドバイザー・スーパーバイザー
 - 〈内容〉・委嘱
 - ・今年度の方向性について協議
 - 訪問指導にあたっての共通理解を図る研修 等
- 6月 第1回スーパーバイザー会議
 - 〈対象〉徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
 - 〈内容〉・次年度完成の指導資料作成のための計画，意見交換，育成指標等について
- 6月 前期訪問指導開始（於 各園等）
- 7月 第1回幼児教育推進連絡協議会
 - 〈対象〉市町村教育長会，県内の教員養成系大学，幼稚園・こども園長会，私立幼稚園・こども園協会，保育事業連合会，市町村福祉担当部局，国公立幼稚園・こども園PTA，私立幼稚園・こども園PTA，県の各幼児教育施設を所管する部署からの代表
 - 〈内容〉・私立幼稚園，公私立保育所，公私立認定こども園の実態把握
 - ・「保育・幼児教育センター」の機能の整理
 - ・市町村等との連携依頼 等
- 8月 第2回スーパーバイザー会議
 - 〈対象〉徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
 - 〈内容〉・育成指標
 - ・アンケート 等
- 8月 第3回スーパーバイザー会議
 - 〈対象〉徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
 - 〈内容〉・「訪問指導の手引」の原稿
 - ・育成指標
 - ・前期のアドバイザーの取組 等
- 8月 県下全幼稚園・全保育所・全こども園にアンケート依頼
- 9月 第1回調査研究実行委員会
 - 〈対象〉県内教員養成系の各大学の教員（県保育・幼児教育アドバイザーも含む），前県幼児教育担当主事，県の各幼児教育施設を所管する部署の長
 - 〈内容〉・前期のアドバイザーの取組
 - ・後期のアドバイザーの業務の方向性
- 9月 後期訪問指導開始（於 各園等）
- 10月 第2回保育・幼児教育アドバイザー会議・研修会
 - 〈対象〉平成29年度アドバイザー・スーパーバイザー
 - 〈内容〉・前期を振り返っての意見交換，成果と課題の確認
 - ・アドバイザーの資質向上を意図した研修実施 等

- 10月 第4回スーパーバイザー会議
 〈対象〉徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
 〈内容〉・育成指標 等
- 10～11月 各郡市における研究大会或いは研修会
 〈場所〉各郡市の会場園
 〈対象〉県内幼稚園・こども園教員
 〈内容〉・(要請があれば)指導助言或いは講演講師 等
- 11月 保育・幼児教育アドバイザー研修
 〈場所〉鳴門教育大学附属幼稚園
 〈対象〉平成29年度アドバイザー・スーパーバイザー
 〈内容〉公開保育, 保育研究会, 講演(湯川秀樹先生)
- 12月 28年度(昨年度)訪問園と29年度(本年度)訪問園にアンケート依頼
- 12月 あわ(OUR)教育発表会
 〈場所〉徳島県立総合教育センター
 〈対象〉県内幼稚園・こども園・小学校・中学校・高等学校等の教員
 〈内容〉阿南市椿町における保幼小連携推進モデル事業の取組
- 1月 保育・幼児教育アドバイザー研修
 〈場所〉四国大学
 〈対象〉平成29年度アドバイザー・スーパーバイザー
 〈内容〉乳幼児・児童教育研究大会に参加し, 自らの知見の向上を図るとともに, 機を捉えて発言し, 参会者の知見拡充にも協力する。
- 1月 第3回保育・幼児教育アドバイザー会議・研修会
 〈対象〉平成29年度アドバイザー・スーパーバイザー
 〈内容〉・後期を振り返っての意見交換
 ・成果と課題の確認
 ・来年度の取組について意見交換 等
- 2月～3月 保幼小連携推進モデル事業協議会
 〈場所〉三好郡東みよし町庁舎 ・ 阿南市椿町のどこかの校園
 〈対象〉教育長, 教育委員会職員, 各学校・園・所長と評議員, 連携コーディネーター等
 〈内容〉・今年度の取組における成果と課題の報告
- 2月 第2回調査研究実行委員会
 〈対象〉前述の調査研究実行委員
 〈内容〉・今年度の成果と課題の報告
 ・課題解決を含めた次年度の方向性に関する協議 等
- 3月 第2回幼児教育推進連絡協議会
 〈対象〉前述の委員
 〈内容〉・今年度の幼児教育に関する取組の進捗状況の報告
 ・今年度の幼児教育推進体制構築事業の成果と課題
 ・課題解決を含めた次年度の方向性に関する協議 等

調査研究の内容

1. 「保育・幼児教育センター」の設置と機能の充実

本事業・本調査研究にあたり、徳島県教育委員会学校教育課内に、「保育・幼児教育センター」を設立した。また、従来より保育・幼児教育を所管していた各部署と連携し、担当者で事務局を編成した。



- 徳島県教育委員会学校教育課……………公立幼稚園を所管
 - 県経営戦略部総務課……………私立幼稚園を所管
 - 県県民環境部次世代育成・青少年課………公私立保育所、公私立認定こども園を所管
- 以下の会の際には、事前に事務局会を開き、取組に対する共通理解を図った

(1) 徳島県内の幼児教育の実態把握

県内で幼児教育に携わる様々な立場の方々で構成し、把握している実態、課題と感じていること、要望等について協議した。また、今年度から取り組む本調査研究についても理解と協力を求めた。

○ 平成29年度第1回徳島県幼児教育推進連絡協議会

(平成29年度第1回「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」推進連絡協議会)

ア 目的 「子ども・子育て支援新制度」及び「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の趣旨を踏まえ、徳島県における幼児教育の現状と課題、今後の幼児教育推進の方向性について、連絡・協議する。

イ 日時 平成29年7月14日（金）

ウ 場所 徳島県庁

- エ 出席者
- ・鳴門教育大学教授
 - ・鳴門教育大学附属幼稚園長
 - ・前学校訪問指導員，元幼稚園教育担当指導主事，人権教育指導員
 - ・徳島県市町村教育長会副会長，鳴門市教育委員会教育長
 - ・徳島市子ども施設課長
 - ・徳島県国公立幼稚園・こども園PTA連合会長
 - ・徳島県私立幼稚園・認定こども園PTA連合会長
 - ・徳島県保育事業連合会長
 - ・徳島県国公立幼稚園・こども園長会長
 - ・徳島県私立幼稚園・認定こども園協会副会長
 - ・吉野川市こども園長
 - ・徳島市公立小学校教頭，前県教育委員会幼稚園担当指導主事
 - ・県経営戦略部総務課長
 - ・県県民環境部次世代育成・青少年課長
 - ・県教育委員会学校教育課長

(事務局)

- ・県経営戦略部総務課係長
 - ・県次世代育成・青少年課課長補佐
 - ・県教育委員会学校教育課学力向上推進幹
 - ・県教育委員会学校教育課統括管理主事
 - ・県教育委員会学校教育課指導主事
- オ 議 事
- ・徳島県における幼児教育の状況と課題について
 - ・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の概要について
 - ・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」に基づく取組の進捗状況について
 - ・「幼児教育推進体制構築事業」の概要について

○ 平成29年度第2回徳島県幼児教育推進連絡協議会

(平成29年度第2回「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」推進連絡協議会)

イ 日 時 平成30年3月7日(水)

- オ 議 事
- ・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」に基づく取組の進捗状況について
 - ・「平成29年度幼児教育の推進体制構築事業」の取組の進捗状況について
 - ・「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」推進上の課題と方向性について

(2) 保育・幼児教育アドバイザーの配置とサポート

保育・幼児教育の専門的知見や豊富な実践経験を有する人材を「保育・幼児教育アドバイザー」として委嘱し，県内に配置した。今年度は，昨年度からの継続を了承した方に加え，17名を増員し，総計30名とした。主な職歴としては，これまでの元公私立幼稚園長，元公立保育所長，大学教員，元特別支援教育担当指導主事，小学校教員，県学校訪問指導員，国立

大学附属幼稚園長，現幼児教育担当指導主事等に加え，幼稚園等初任者研修指導員，NPO法人理事長，県教育委員会生活科担当指導主事に依頼した。前年度は配置に地域的な偏りが生じ，遠方に派遣せざるをえないことになり，移動に負担が生じた。また，面識のないアドバイザーであると，園側が安心感・信頼感をもって悩み等も口にしにくい実情もあったため，各地域において勤務経験のある者を求めた。

ただ，新たに多数の保育・幼児教育アドバイザーを配置したため，業務に対する不安の声も聞かれた。そこで，以下のようなサポート体制を行った。

① 一堂に会してのアドバイザー会議・研修会の開催

② 県内・県外への研究会等への参加呼びかけ

県内の教員養成系大学或いは附属校園で開催される研究会や県外での研究大会について，その都度広報し，参加を募った。参加後には，報告書を提出いただき，アドバイザー会議等において情報共有を図った。

③ スーパーバイザーによる訪問指導観察の場の設定

スーパーバイザーは，県内教員養成系大学教員と国立大学附属幼稚園長で構成された6名であり，これまでも県内外各所における指導・助言の経験が豊富である。また，そのうちの3名は昨年度のアドバイザー経験者であり，5名は保育現場における勤務経験もある。したがって，アドバイザー自身が学べる知見・技能も豊富であるため，スーパーバイザーに園の訪問指導を依頼する際には，その旨をアドバイザーに伝え，園の許可をいただき，「スーパーバイザーによる訪問指導の様子を参観し学ぶ場」を設定した。

④ 研修会等の講師への依頼

「人前で話すこと」に抵抗を示すアドバイザーは少なくない。そこで，経験を重ね，場に慣れていただくため，県教育委員会主催の研修会の講師に依頼した。こうすることにより，各アドバイザーに関する認知度も高まり，派遣要請の増加にもつながった。

⑤ 指導主事の同行

アドバイザーには，「新しい動向に対する理解」への不安が強い。したがって，可能な限り，指導主事が同行し，アドバイザーの指導内容に，新幼稚園教育要領等の情報を絡めて解説を加えた。

⑥ 訪問指導の手引きの作成

訪問指導終了後，アドバイザーには訪問記録を提出いただいている。また，指導主事が保育・幼児教育アドバイザーに同行した場合には，その発言内容を書き留めている。それらから得られた指導内容を分類・整理し，「アドバイザーの金言」と称した冊子にし，アドバイザー会議・研修会において配付した。アドバイザーにとっては，他のアドバイザーの指導内容を知る一助となり，「指導の目の付け所」として参考とすることができた。

(3) **保育所・認定こども園・幼稚園の保育者を対象とした幼児教育研修の充実**

徳島県内において，各担当部局が主となり，様々な研修を実施している。以前は，それぞれの担当部局が担当する施設の保育者を対象とした研修であったが，県私立幼稚園・認定こども園協会，県保育事業連合会とも連携し，参加の門戸を広げる取組を拡大してきた。このことにより，研修の場において，異なる立場の交流が活発になり，徳島県の保育の質の向上に向けて，互いを理解し，連携を強めることが期待できる。これは，新幼稚園教育要領等においても重要視されている「全ての幼児教育施設のヨコの連携」強化にも資すると考える。

ア 県教育委員会主催研修

平成29年度幼稚園等諸研修について

「徳島県幼児教育振興アクションプラン」全ての幼児に提供される質の高い幼児教育を目指して

ライフステージに応じた研修

ライフステージ	県教育委員会が主催する研修講座	各団体等が主催する研修
園長 (30年)	幼稚園等マネジメント研修(推薦)* 園長等運営管理協議会(推薦) *新任園長	(自主研修)・研修大会 ・教育課程研究協議会に向けた勉強会
副園長・主任 (20年)	幼稚園等マネジメント研修(推薦)* *10年～	幼稚園各団体が主催する研修 ・幼稚園教育研究協議会 (県・市町研究大会・研修会等) ・園長会 (西国・全国研究大会) ・全国幼児教育研究会 (徳島支部・西国・全国)
(10年)	中堅教諭等資質向上研修(基本)	人権教育に関する研修 ・就学前人権教育研究会 ・県指定幼稚園人権教育研究発表会 ・無人権関係
	保育技術協議会(推薦) *5～10年	
初任 (0年)	幼稚園等新規採用教諭研修Ⅰ(基本) 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ(基本)	等

- 【私立幼稚園，私立幼保連携型認定こども園も参加可能】
 - ・ 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅰ
 - ・ 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ
- 【公私立保育所，私立幼保連携型認定こども園も参加可能】
 - ・ 徳島県幼稚園教育課程研究協議会
 - ・ 保育技術協議会
 - ・ 幼稚園等マネジメント研修
- 【私立幼稚園，公私立保育所，私立幼保連携型認定こども園も参加可能】
 - ・ 幼稚園長等運営管理協議会

平成29年度においては，次の研修において，保育・幼児教育アドバイザー或いはスーパーバイザーが講師等を務めている。

《保育・幼児教育アドバイザー》

- ・ 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅰ
- ・ 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ
- ・ 保育技術協議会
- ・ 中堅教諭等資質向上研修
- ・ 幼稚園教育課程研究協議会

《保育・幼児教育スーパーバイザー》

- ・ 幼稚園長等運営管理協議会
- ・ 幼稚園等マネジメント研修
- ・ 学力向上推進員研修会
- ・ 幼稚園教育課程研究協議会

イ 保育事業連合会主催の研修

- 【公立幼稚園も希望参加】
 - ・ 新任保育士研修
 - ・ 中堅保育士研修
 - ・ 保育所リーダー研修
 - ・ 乳児保育担当者研修
 - ・ 特別支援保育担当者研修
 - ・ 子育て支援担当者研修
 - ・ 健康及び安全研修
 - ・ 保護者支援研修
 - ・ 保育課程等研修
 - ・ アレルギー及び食育研修

平成29年度においては，次の研修において，保育・幼児教育スーパーバイザーが講師等を務めた。

- ・ 中堅保育士研修
- ・ (市町村単位の) 保育士研修

(4) 保幼小連携推進モデル事業を実施・普及

徳島県内の2地域を、「幼・小・中連携推進事業『学びのかけ橋』プロジェクト」研究地域に指定し2年間にわたり実践をふまえた研究を進めた。平成28年度に指定をうけ、2年目の取組となる両地域では、昨年度からの成果と課題を受けて、さらに充実した取組が実現できるよう、鳴門教育大学教員に指導を仰ぎながら次のような取組を行った。

【東みよし町】

① 第1回推進協議会

- ア 日 時 平成29年5月29日（月）
- イ 出席者 推進協議会委員24名 事務局3名
- ウ 協議内容 研究を進めるための具体的方策等

② 鳴門教育大学教員による訪問指導

- ア 日 時 平成29年7月20日（木）
- イ 訪問指導者 鳴門教育大学教授 木下光二
- ウ 指導内容 東みよし町幼小中合同研修会における講演

③ 第2回推進協議会

- ア 日 時 平成30年2月21日（水）
- イ 出席者 推進協議会委員24名 事務局3名
- ウ 協議内容 平成29年度研究実践報告・研究内容の広報及び成果の普及等

【阿南市椿町中学校区】

① 第1回推進協議会

- ア 日 時 平成29年5月31日（水）
- イ 出席者 推進協議会委員15名 事務局3名
- ウ 協議内容 研究を進めるための具体的方策等

② 鳴門教育大学教員による訪問指導

- ア 日 時 平成29年6月13日（火）
- イ 訪問指導者 鳴門教育大学特命准教授 森 康彦
- ウ 指導内容 交流年間計画について

③ 門教育大学教員による訪問指導

- ア 日 時 平成29年7月11日（火）
- イ 訪問指導者 鳴門教育大学特命准教授 森 康彦
- ウ 指導内容 椿保育所・椿小学校合同水生生物調査について

④ 鳴門教育大学教員による訪問指導

- ア 日 時 平成29年7月18日（火）
- イ 訪問指導者 鳴門教育大学特命准教授 森 康彦
- ウ 指導内容 椿小学校・椿泊小学校・椿町中学校の児童生徒交流会について保小連絡協議会について

⑤ 鳴門教育大学教員による訪問指導

- ア 日 時 平成29年11月16日（木）
- イ 訪問指導者 鳴門教育大学特命准教授 森 康彦
- ウ 指導内容 椿小学校・椿泊小学校・椿町中学校の児童生徒交流会について保小連絡協議会について

⑥ 鳴門教育大学教員による訪問指導

- ア 日 時 平成29年11月28日（火）
- イ 訪問指導者 鳴門教育大学特命准教授 森 康彦
- ウ 指導内容 1年間の取組について

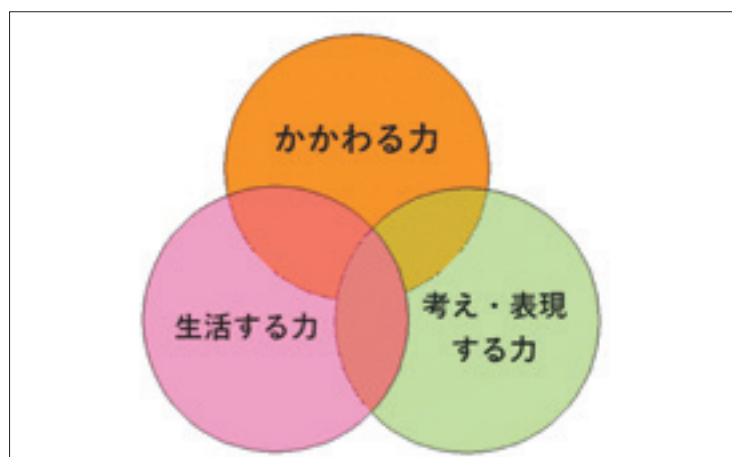
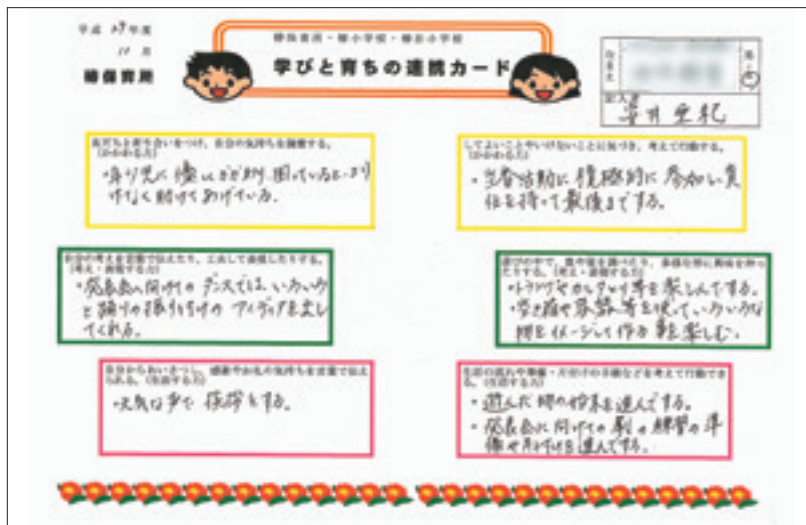
⑦ あわ（OUR）教育発表会による成果の普及

- ア 日 時 平成29年12月26日（火）
- イ 出席者 県内小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員

⑧ 第2回推進協議会

- ア 日 時 平成30年3月6日（火）
- イ 出席者 推進協議会委員15名 事務局3名
- ウ 協議内容 平成29年度研究実践報告・研究内容の広報及び成果の普及等

今年度は、「保育所・幼稚園・小学校教員で幼児期から児童期にかけて育てたい力とめざしたい子どもの姿を明らかにし、共通理解を図りながらの取組」「一人一人の見取り個人カルテを作成し、より丁寧な育ちを繋いでいく取組」「保・幼・小の教員が協力しスタートカリキュラムに基づいて具体的な指導案を作成し、それに基づいた授業実践」等によって、幼児期において培った力を活かし、滑らかな接続に向けた取組が一層深まった。さらに、その成果を広く県内に普及するため、あわ（OUR）教育発表会で発表するとともに、取組についてのパンフレットを作成し県内全ての公私立保育所・幼稚園・認定こども園・小学校へ配布した。



2. 保育・幼児教育アドバイザー」の養成・派遣及び「保育・幼児教育及びスーパーバイザー」の派遣による訪問指導の充実

(1) 「保育・幼児教育アドバイザー」の委嘱及び資質向上

① アドバイザー会議及び研修会

保育・幼児教育アドバイザー・スーパーバイザーを招聘し、「平成29年度 第1回徳島県保育・幼児教育アドバイザー会議」を開催した

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ア | 目 | 的 | 徳島県保育・幼児教育センターにおける保育・幼児教育アドバイザーの業務について、連絡・協議する。 |
| イ | 日 | 時 | 平成29年6月1日（水） |
| ウ | 場 | 所 | 徳島県立総合教育センター |
| エ | 議 | 事 | ・「幼児教育推進体制構築事業」の概要について
・「保育・幼児教育アドバイザー」の業務について
・今後の予定 |

本会議は、保育・幼児教育アドバイザー全員の初顔合わせの場であり、第1回「保育・幼児教育アドバイザー研修」の場を兼ねることとした。「徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー」である鳴門教育大学・湯地宏樹教授より「保育所保育指針の改定」に関して、県幼児教育担当主事より「幼稚園教育要領の改定」等現在の動向について講義を行った。また、昨年度より業務に携わっていた者、徳島県幼稚園等新規採用研修・園内研修指導員も兼ねているメンバーより、園に訪問し、保育の現場でアドバイスを行う様子、方策、留意点等について、報告・協議し、アドバイザー業務の参考とした。



アドバイザーには、専門的な識見をもつ者が多い。特別支援教育、保育者の自己研修の場等、貴重な情報を提供し合うことができる場ともなった。今回は、新規のアドバイザーが多く、業務に対する不安の声が聞かれた。アドバイザー同士のヨコの連絡を密にすることへの協力を呼びかけた。その結果、数名で研修や情報交換が行われるようになった。

第2回徳島県保育・幼児教育アドバイザー会議

- | | | | |
|---|---|---|--|
| イ | 日 | 時 | 平成29年10月10日（火） |
| エ | 議 | 事 | ・今年度前半期の取組
・研修報告（訪問指導の手引き「アドバイザーの金言」配布）
・アドバイザーからの意見 等 |

第3回徳島県保育・幼児教育アドバイザー会議

- | | | | |
|---|---|---|--|
| イ | 日 | 時 | 平成30年1月31日（水） |
| エ | 議 | 事 | ・今年度の取組
・アドバイザーからの意見
・来年度の計画
(訪問指導の手引き「アドバイザーの金言」改訂版配布) 他 |

② 県内の研究会への参加

県教育委員会が関連している県内の研究会への参加も研修の場とし、案内している。

ア 平成29年度 幼児教育研究会	日時 平成29年11月4日(土)
	場所 鳴門教育大学附属幼稚園
イ 第11回 徳島乳幼児・児童教育実践研究大会	日時 平成30年1月27日(土)
	場所 四国大学
ウ 第66回全国幼児教育研究大会	日時 平成29年8月1日(火)～2日(水)
	場所 岡山シンフォニーホール 他
エ 第97回愛媛教育研究大会 〈幼稚園・小学校の部〉	日時 平成30年2月2日(金)～3日(土)
	場所 愛媛大学教育学部附属幼稚園 ・附属小学校

これらの研修で学んだことは、後のアドバイザー会議・研修会で報告するようにした。

③ 先進地視察

ア 横浜市教育委員会他	日時 平成29年12月4日(月)
	内容 保幼小連携について 等
イ 札幌市幼児教育センター 札幌市厚別区民センター	日時 平成30年1月10日(水) ～11日(木)
	内容 保幼小連携、研究・研修体制 (教育支援員制度)について 等

④ アドバイザー研修会（スーパーバイザー業務に学ぶ）

スーパーバイザーが行う業務の際、訪問先に了承をいただいたうえで、都合のつくアドバイザーは、研修の一環として、訪問指導の様子を参観することにした。



現場からの様々な悩みや質問に対して、スーパーバイザーがどのように対応するかを学ぶ。



素材の扱い方について、スーパーバイザーが具体的に実演する様子から学ぶ。

(2) 「保育・幼児教育アドバイザー」「保育・幼児教育スーパーバイザー」による訪問

① 業務内容

今年度の訪問については、大きく以下の業務に区別される。

ア 保育の時間帯に訪問し、保育参観をし、後の研究会のなかで、助言或いは講演等をする。

イ 保育の時間帯に訪問し、保育参観をしながら、保育者に語りかけたり、関わり方を実践したりする。

ウ 保育者対象の研修会に参加し、講演等をする。

エ 保護者対象の会合に参加し、講演等をする。

オ 保育者からの相談にのる。

なお、保育・幼児教育スーパーバイザーの業務も重複するところが多いが、市町単位を対象とすること、アドバイザー研修の講師を兼ねること等の業務として、アドバイザーと区別化を図った。

② 業務実績（平成30年 3月7日現在）

業務実績は、次のとおりである。

※ ○園は園数

※ ○回は訪問回数

※ ○人は訪問したアドバイザー・スーパーバイザー数

※ 同日・同場所に複数のアドバイザーが訪問し、それぞれ指導対象者が違う場合もあるが、回数は1回として数えている。

A 保育（授業）時間の訪問（【○人】…実働したアドバイザー・スーパーバイザー数）

○ 公立幼稚園	53 園	(63 回)	【94人】
○ 私立幼稚園	1 園	(1 回)	【3人】
○ 公立幼保連携型認定こども園	9 園	(26回)	【34人】
○ 私立幼保連携型認定こども園	3 園	(3回)	【6人】
○ 公立保育所（含 保育所型認定こども園）	3 園	(1回)	【7人】
○ 私立保育所（園）	4 園	(4回)	【5人】
○ 小学校	1 校	(6回)	【6人】

B 保育者対象の研修会（助言或いは講演講師）

○ 県教育委員会主催の研修会等	19回
○ 市町の園長会主催の研修会等	2 回
○ 市町の県幼稚園・こども園研究協議会等の研修会等	20回
○ 市町の保育士・保育教諭対象の研修会	4回

C 行政担当者、地域の方、保育者対象の協議会（講師）

○ 保幼小連携モデル事業推進連絡協議会	4回
---------------------	----

D 保育者からの相談対応

○ 公立幼稚園	8回
---------	----

保育時間の訪問を担当したアドバイザーには、昨年度同様、以下の観点から訪問記録を記すようにした。

- ア 幼稚園教育要領等に基づいた教育
- イ 教育（保育）課程の編成・指導計画の作成と保育の展開
- ウ 環境の構成と保育者のかかわり
- エ 発達や学びの連続性を踏まえた保育・教育
- オ 園（所）運営

記入例（幼稚園等）徳島県教育委員会 学校教育課 提出用									
平成29年度 徳島県教育委員会幼稚園・幼保連携型認定こども園 訪問記録用紙（訪問指導員用）									
課長	副課長	推進幹	統括	教科指導主事	世話係	担当	訪問指導員		
							印		
市・町		園		平成29年 月 日 曜日		天候			
①幼稚園教育要領等に基づいた教育									
②教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開									
③環境の構成と教師のかかわり									
④発達や学びの連続性を踏まえた教育									
⑤園運営									
協議事項 及び 指導助言									
所見									
（備考）訪問日より一週間以内に、徳島県教育委員会 学校数意見 へ提出して下さい。									

平成29年度 徳島県教育委員会 保育所等訪問記録用紙									
課長	副課長	推進幹	統括	教科指導主事	世話係	担当	訪問指導員		
							印		
市・町		所・園		平成29年 月 日 曜日		天候			
①保育所保育指針等に基づいた教育									
②全体的な計画及び指導計画の作成と保育の展開									
③環境の構成と保育者のかかわり									
④発達や学びの連続性を踏まえた保育・幼児教育									
⑤所運営									
協議事項 及び 指導助言									
所見									
（備考）訪問日より一週間以内に、徳島県教育委員会 学校数意見 へ提出して下さい。									

③ 保育・幼児教育アドバイザー訪問指導 —施設別— (○は話題となったこと)

ア 公立幼稚園

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について
- 研究のあり方について



訪問を繰り返すことにより、教職員との信頼関係も強まり、和やかな雰囲気の中、納得のいくまで協議を重ねることもできた。



公開保育の場面。自らで高さを選んで遊び、より高い目標をもって、試行錯誤を繰り返すことに誘う環境の構成に学び、外部の参観者に説明した。

イ 私立幼稚園

- 環境の構成及び援助について
- 当園が取り組む保育・教育について



送迎バスの添乗等多用のなか、園長先生・各主任の先生方が対応してくださり、熱心に話し合いが続いた。



節分を前に、3・4・5歳児それぞれが鬼の面を作っているが、発達に配慮した素材・技法等との出合わせ方に感動した。

ウ 公立認定こども園（保育所型）

- 小学校との接続を意識した保育・教育について。
- 幼稚園教育との関連について。



←幼稚園勤務経験が豊富なアドバイザーが、「育ちの連続性に配慮した保育・教育」を意識し、0歳から5歳まで全ての保育を参観した。



←保育者の準備や、子どもの姿に即した環境の再構成についてその場でつぶやく。

エ 私立認定こども園（幼保連携型）

- 新幼保連携型認定こども園教育・保育要領の具現化について。
- 独自の方針やその方針を反映させた環境構成について。



←表現活動に重きを置き、心地よい感覚とともに画材とふれあう場を大切にする姿勢への意味づけをした。



毎日の子供の姿・保育の様子を写真に記録し、お知らせ等とともに、玄関のモニターに常時流しておく取組への意味づけをした。

オ 公立保育所

- 乳児保育について



一つの遊具に対して、子ども一人一人の思いがあり、ときには行き違いも生じる。一人一人の遊具との関わりの過程を把握し、援助する取組について、保育士から丁寧な説明を受ける。

- 一人一人にあった援助について



保育士一人一人が吟味したデイリープログラムを準備し取り組んだ保育。午睡の時間帯を工夫し、できるだけ多くの保育者が集まり、アドバイザーの言葉に耳を傾ける。

カ 私立保育所

- 気になる乳幼児の接し方について。



保護者の協力により、昼食に工夫を加えて食育を行う取組への意味づけ。

- 環境構成について。



表現物から、子どもの育ちを読む。

④ 保育・幼児教育アドバイザー及び保育・幼児教育スーパーバイザー訪問指導
— 業務内容別 —

ア 保育参観

後の保育研究会における助言の話題とするため、細かく保育の様子を参観した。また、建物の構造や環境構成について、園長等と園内を見学した。



一人で遊んでいる3歳児に思わず駆け寄る。混合学級のなかでの彼の様子をつかむべく言葉をかけて関わる。



昨年度より新任研修で関わっている園に訪れたアドバイザー。昨年度からの好ましい変容をうかがわせる場面を目ざとく見つける。

イ 遊びへの参加・園児への語りかけ

園児とことばを交わしながら遊びに関わった。



シャボン玉あそびに熱中する子どもたち。最初はシャボン玉の「大きさ」に向いていた関心が、風によって「どこまで飛んでいくか」に移ってきている。できあがるシャボン玉の「大きさ」「形」「色」に対して、言葉を駆使して反応していたアドバイザー。子どもの関心の移り変わりに合わせ、「遠くまで飛んだね。」「〇〇まで飛んだよ。」と声を上げていた(左図)が、ある子どもの「どこまで飛んだの。見てきて。」という声に「ようし。」と、走ってシャボン玉を追いかけ始めた(右図)。シャボン玉を作っていた園庭の端から、向かい側の園舎の端まで追いかけた。「子どもの声に行動で応えないと。思わず体が動いていたわ。」とアドバイザー。脇で様子を見ていた保育者にとって、学びの場となった。

ウ 保育者への関わり

保育中の保育者に寄り添い、言葉をかけたり、ときには保育に加わったりした。



二人の子供と保→
育教諭がいる場で会
する二人のアドバイ
ザー。幼稚園教諭出
身と保育士出身の二
人が、子供のみとり
について交流する場
となった。また、保
育教諭にとっても学
びの場となった。



↑ 保育教諭の傍らに寄り添い、子供の特徴を聞いたり、日々の様子を聞いた。自然と出てきた悩みや取組について、意味づけたり、アイデアを話しかけたりした。

エ 保育研究会での意見交換や助言

当日の保育について、保育者から意図の説明を受けたうえで、意見を交流したり、受けた質問に答えたりした。

昨年度も新規採用研修の指導のため、当園を訪れていたアドバイザーからは、長期的な視点に立った子供の見方など、ひと味違った話も聞くことができた。また、保育記録も交えた話合いの場となった。 →



←こども園だが、本日の訪問指導にあたり、「先生たちの勉強の日だから。」と、正午過ぎほとんどの保護者が訪れ、子供と帰っていった。アドバイザーは、そのような信頼関係を築いていることに対して感動し、その根拠となるであろう保育の姿勢を想起し、具体的に挙げていった。

オ 保育者の研修会で講演・演習



子供を惹きつけ、明日からの保育にすぐ使ってみたくなる製作あそびのいくつかを教えていただき、自ら取り組んで楽しさを味わった。1つの遊びについて、その前後をどう考えていくかまで、話題は広がった。



市単位の保育士の研修会において。幼稚園教育に携わる立場から、ヨコの連携強化を意識して保育所保育指針について解説する。

⑤ 保育・幼児教育アドバイザー及び保育・幼児教育スーパーバイザー訪問指導

— キャリアステージ等別 —

ア 新規採用者に対して — 幼稚園等新規採用教諭研修の講師として —



保育者が保育をしているその場で、動きや言葉で実演し、指導することを心がける。



参会者の日頃の悩みについて、理論を交えながら、話をかみ砕いて全参会者に伝え、子供の言動の分析の仕方、対応の仕方等に丁寧に答えた。

イ 教職5年程度の保育者に対して — 保育技術協議会の講師として —



その場その場の対応だけでなく、自らの保育に一貫性をもたせたり、常にカリキュラム・マネジメントを意識したりすることを講義・演習を交えて指導した。また、集団で取り組みたくなる即興劇などの実践について、その指導の過程を再現した。

ウ 教職10年の保育者に対して — 中堅教諭等資質向上研修の講師として —



1日中、講師を務めた。午前は、教職10年目の保育者8名がプレゼンソフトを使って作成した「保護者に対する自園のアピール」を使用しての発表会に対して、一人一人の内容に指導を行った。午後は、その8名が2名ずつペアを組み、合流した今年度新規採用者38人を見立て、30分ずつ保育を行った。その各保育に対して指導した。

最後に、自らの人生体験にも触れつつ講話した。保育者としてだけでなく、人間としていかにありたいかという参加者の琴線にふれる話であった。

エ 教職10年以上の保育者に対して — 幼稚園等マネジメント研修の講師として —



長い教職経験と、他県へも多数指導に出かけ情報収集をされている実績を生かし、多くの画像を紹介し、マイクをもって部屋内を歩き、参会者と意見を交流する楽しい時間となった。また、保育記録の書き方についても演習を行い、他の参会者の保育記録を写真に収める意欲的な姿が顕著で、お土産の多い会を展開した。

オ — 教育課程研究協議会／学力向上推進員研修会の講師として —
勤務年数に関わりなく、ほぼ県下全園から1名が参加する場である。



DVD映像を題材に、子供の姿、保育者の関わり等について交流するワークショップ型の演習を展開した。

また、新幼稚園教育要領等、最新情報について説明した。



現在最も関心が高い「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、DVD映像を題材に演習を行い、長年の経験から、これまでの幼児教育との関わりを踏まえ解説を加えた。

カ — 保育士研修会の講師として —



保育士出身のアドバイザー（スーパーバイザー）が幼稚園教諭に対して、幼稚園教諭出身のアドバイザー（スーパーバイザー）が保育士に対して研修を行う要請がときに見られるようになった。自らが勤務する施設以外の保育・幼児教育について理解を深めること、県下の幼児教育施設のヨコの連携を強化することなどを目指して、要請に応じるようにした。

3. 保幼小連携推進モデル事業による就学前教育と小学校教育の接続の推進に関して (別刷パンフレット「学びのかけ橋」参照)

4. 大学・附属幼稚園・研究団体等との連携による取組の充実に関して

鳴門教育大学教授2名、同大学特命准教授1名、同大学附属幼稚園長、徳島文理大学准教授1名、四国大学講師1名と、保育・幼児教育スーパーバイザーには、県内教員養成系大学及び研究機関の教員6名に委嘱している。昨年度のアドバイザー経験者や、以前より保育・幼児教育の現場に関わっていた者がおり、経験豊富である。したがって、次の業務を依頼した。

- アドバイザー会議・研修会における講師
- 県或いは市町村単位の研修会等の講師
- 県の幼児教育関連の事業における協力

また、今年度は、スーパーバイザー会議の場を設定し、次の議題を中心に協議した。

- 保育・幼児教育関連の情報入手
- 本県幼児教育推進体制構築事業の経過報告に対する指導・助言
- 「教員育成指標」「教員研修計画」の検討
- 来年度の指導資料作成に対する指導・助言 等

アドバイザーの声は、日頃から連絡をとり合う保育・幼児教育センターがある程度把握することはできるが、その声に対する指導・助言について、アドバイザー・スーパーバイザーが一堂に会して行うことは難しい。スーパーバイザー会議の場で、その都度とりまとめたものに対して指導・助言いただき、アドバイザーに返すかたちをとっている。また、スーパーバイザーは、市町や県内全域に関わる業務を担当しており、さまざまな場の声など実態を把握しているため、それらの情報を入手する場とした。

さらには、アドバイザーによる指導に有効な「教員育成指標」作成、来年度に予定している指導資料（訪問指導の手引、Q&A集）作成に向けての、今年度の取組についても示唆を得た。

第1回 平成29年6月1日（水）

第2回 平成29年8月5日（土）

第3回 平成29年8月31日（木）

第4回 平成29年10月16日（月）



幼稚園等教諭 教員育成指標モデル

キャリアステージ 資質・能力		採用時に本県が求める姿	〈第1ステージ〉		〈第2ステージ〉		〈第3ステージ〉
		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期	
素 養	使命感・情熱・たくましさ	○教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人財」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。			
	倫理観	○社会人としての常識やマナー、道徳性を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○教育公務員としての自覚をもち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○家庭や地域の信頼に応え、法令等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。			
	人権尊重の精神	○自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○幼児一人ひとりの抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○園や地域の人権に関する課題の解決に向けて、地域・関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。			
	識見・学び続ける力	○学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。			
	社会性・コミュニケーション力	○コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。			
担 任 力	幼児理解・援助力	○幼児理解の意義や幼児教育における環境の意味を理解し、教育支援や教育相談等の基本的な方法を身に付けている。	○幼児に向き合い、一人ひとりの人格を尊重し、共感的理解に努めるとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導や環境の構成をしている。	○幼児の発達や個性等をより多面的に理解し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導や環境の構成をするとともに、若手教員に助言をしている。	○幼児を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で幼児の理解や指導の方針について共通理解を図り、環境づくりをしている。		
	集団づくり力	○担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導をしている。	○異年齢集団等様々な集団活動に対して、よりよい集団に高めるとともに、集団相互の関わりを活性化させている。	○園全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。		
	課題解決力	○園の生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○様々な課題に気づき、幼児、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら、課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○園が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導が行われるよう働きかけている。		
	別な配慮を要する幼児への理解・支援力	○特別支援教育の重要性を理解し、基本的な理解・支援の方法を身に付けている。	○一人ひとりの教育的ニーズを把握し、他の教職員や保護者と相談しながら、適切に指導・支援をしている。	○教育的ニーズに対応するための専門性を高め、幼児の成長を促す指導・支援を行うとともに、関係機関とも連携し、特性に応じた指導・支援の在り方を提案している。	○インクルーシブ教育システム構築に向けた体制づくりを推進している。		
	未来ビジョン育成力	○キャリア教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○キャリア教育の視点を踏まえ、自分の役割を自覚できる場や、学ぶことの意味を考える活動を設定し、幼児の自己有用感を高めている。	○グローバルな視野とキャリア教育の視点を踏まえ、他校種や家庭・地域・企業等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導をしている。	○園の教育活動全体を通じて、キャリア教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言している。		

※ 表内の「幼児」については幼稚園教育要領に拠る。なお、保育教諭の場合、本表の「幼児」を「園児」と置き換えて解釈する。
 ※ 幼稚園教育要領においては、「指導」に「援助」「支援」の意味を含む。したがって、「特別な配慮を要する幼児への理解・支援力」に関わる育成指標以外は、「指導」としている。

キャリアステージ		採用時に本県が求める姿	〈第1ステージ〉		〈第2ステージ〉		〈第3ステージ〉	
資質・能力	保 育 力	養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期		
		カリキュラム・マネジメント力	○幼稚園教育要領等の「ねらい」「内容」や発達の連続性・関連性を理解している。	○幼児の実態に応じ、作成の意図を考えながら園のカリキュラムを活用している。	○幼児の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にした保育内容を提案している。	○園の特色を生かし、発達の連続性・関連性や小学校教育との接続を見通して、園の特色を生かした創意工夫のある全体的な計画を作成している。	○地域の実態や園の教育活動の全体を踏まえながら、全体的な計画を見直し、組織的に改善したり調整したりしている。	
保育構想力	○幼児の活動の姿や興味・関心を想定しながら、教材を分析し、指導案を書いている。	○幼児の実態に応じ、重視する資質・能力の育成に向け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、ねらいと評価を関係付けて保育を構想し、環境の構成を行っている。	○幼児一人ひとりに応じ、重視する資質・能力の育成を図るため、豊かな環境との関わりを生み出す創意工夫のある保育を構想したり、教材研究・教材開発（含 環境構成）に取り組んだりしている。	○このこれまでの実践や経験を基に単元・題材の開発や授業構想に関する保育の専門性を高め、改善につながる助言をしている。		○これまでの実践や経験を基に単元・題材の開発や授業構想に関する保育の専門性を高め、改善につながる助言をしている。		
保育実践力	○基本的な保育技術を身に付け、幼児の遊びの様子を把握しながら保育を実践しようとしている。	○重視する資質・能力の育成に向け、言葉がけ・環境の構成を工夫し、ICT機器等の指導技術を活用している。	○最新の知見に基づいた保育技術や指導方法を活用し、保育を展開するとともに、若手教員に助言している。	○幅広い情報を基に自分の保育技術や指導方法を更新しつつ、教職員に範を示したり、保育力向上を働きかけたりしている。		○個と集団の質的な学びの深まりを把握し、意図的・計画的な指導をしている。		
保育省察力・改善力	○保育を見直して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○自分の実践を振り返り改善する習慣や、他の教員の実践に学び、日々の取組を記録し反省するなどの習慣が身に付いている。	○園内や都市の研究会等で研究保育を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の保育を客観的に評価し、改善につなげている。	○園全体の保育の省察をもとに、保育改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。		○園全体の保育の省察をもとに、保育改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。		
組織マネジメント力	○組織の一員として目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○園の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○園の強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。	○園の目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるような率先して工夫改善に努め、園全体の計画の作成に参画している。		○組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。	
OJT推進・人材育成力		○互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○園内研修の中心的な役割を果たして充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。		○人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。	
危機管理能力	○安全教育・防災教育をはじめ危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○安全教育・防災教育をはじめ危機管理に関する知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安全に配慮した環境づくりをしている。	○緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって未然防止に向け行動している。	○これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育の取組を発信したり、危機管理体制づくりに積極的に参画したりしている。		○これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育の取組を発信したり、危機管理体制づくりに積極的に参画したりしている。	
家庭・地域とのネットワーク構築力	○家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○家庭、地域、小学校との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に活動している。	○地域の自然や社会資源（人材・施設・伝統行事等）についての情報を把握し、その活用を図っている。	○家庭、地域、小学校に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○園の地域における幼児教育のセンター的役割（子育て支援）を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。		○園の地域における幼児教育のセンター的役割（子育て支援）を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	

幼稚園等教諭 教員育成指標モデル

職位		主任	副園長・園長補佐	園長
資質・能力				
素 養	使命感・責任感	○園長を補佐する自覚をもち、園務全般を把握するとともに、それらが円滑に機能するよう、責任感をもって自分の役割を果たしている。	○園の最高責任者としての覚悟をもち、法令等に基づいて適正な園経営を行い、よりよい幼児の育成に使命感をもって取り組んでいる。	
	倫理観	○法令を遵守し、鋭い人権感覚のもと、誠実かつ公正に職務を遂行するとともに、教職員に対してもコンプライアンスに関する的確な指導・助言をしている。	○鋭い人権感覚と規範意識に基づき、職務を遂行するとともに、教育公務員としての職責や義務を教職員に示している。	
	リーダーシップ・決断力	○組織の中核教員としての自覚をもち、的確で迅速な判断のための材料を集めたり、助言と指示を行い、園務を遂行している。	○豊かな人間性と経験に裏打ちされた高い識見に基づき、冷静に状況を見極めて最終決断をし、園の教育目標或いは「めざす幼児像」実現のために、リーダーシップを発揮している。	
	先見性・識見	○最新の情報を収集し、園に対する社会の要請を自覚し、情報を基に適切な判断をしている。	○園を取り巻く状況を把握し、時代を見通した園の経営ビジョンの形成に生かしている。	
	社会性・人間関係構築力	○家庭、地域、園の関係者や関係機関等との関係性を高め、協働的な関係を築いている。	○家庭、地域、園の関係者や関係機関等と広く関わり、信頼関係を築いている。	
学 校 マ ネ ジ メ ン ト 力	企画経営力	○「徳島教育大綱」及び「教育振興計画」の理念を理解し、園長の指導のもと、具体目標の立案やその実現に向けた方策を提案している。 ○常に新しいものを創り出すチャレンジ精神をもち、教育を取り巻く社会の変化に対応した企画力を備えている。 ○園の経営方針に基づき、園や地域の実態を踏まえたカリキュラム・マネジメントを推進するために、教職員に指導・助言し、園全体で取り組む体制づくりをしている。 ○学校評価等の結果を分析し、PDCAサイクルに基づいて教育活動の改善及び環境の再構成を提案・実践している。	○「徳島教育大綱」や「教育振興計画」の趣旨を生かした中・長期的な経営ビジョンを明確にし、園の経営方針を策定している。 ○国の動向や県の教育施策を熟知し、新たな保育・教育環境を生み出す企画経営力を備えている。 ○園の経営方針に基づき、具体的目標や重点目標を掲げ、家庭や地域を巻きこんだカリキュラム・マネジメントを確立している。 ○園の教育活動や園の経営の課題を的確に把握するための計画的な評価改善に努め、新たな企画に生かしている。	
	企画経営力	○教職員の力量や経験、学級の状態等、組織の全体像を把握するとともに、園の教育目標に沿った体制整備を提案している。 ○組織運営に関わる外部・内部環境を把握し、園の強みを見出している。 ○教員評価の取組を生かし、その結果を基に一人ひとりのもつ能力を積極的に引き出すとともに、教職員の自己有用感を高め、「チーム学校」を活性化している。	○園の教育目標の実現のために、多面的な視点から組織を統括している。 ○組織全体を俯瞰し、園の強みを生かした組織づくりを行っている。 ○園の保育・教育活動が効率よく最大の効果があげられるように、教員評価の結果を生かし、「チーム学校」を牽引している。	

職 位		主 任	副園長・園長補佐	園 長
資質・能力				
学 校 マ ネ ジ メ ン ト カ	危機管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ○災害や想定外の事態の発生に備え、訓練を工夫・実践するとともに、危機管理マニュアルを絶えず見直し、発生時には迅速に対応している。 ○園の運営上必要な園内人事・施設・事務（財務・文書等）を管理している。 ○園の環境の安全を絶えず点検し、課題について適切に対応している。 		<ul style="list-style-type: none"> ○災害や想定外の事態の発生に備え、危機管理体制を確立し、発生時には、状況を見通し、的確な指示を出している。 ○園の経営上必要な所属職員の管理・監督を行い、施設、事務（財務・文書等）の管理状況を把握している。
	園の資源整備・活用力	<ul style="list-style-type: none"> ○教育予算を把握し、施設の適切な管理や予算運用をしている。 ○外部との様々な調整の実務担当者として、地域の実態を把握し、実情に応じて園の資源を整備・活用している。 		<ul style="list-style-type: none"> ○園の資源を把握し、教育予算等を有効活用する中で、組織の持続・成長の方策を打ち出している。 ○園、地域の人的・物的資源を正確に把握し、地域の状況に応じて園の資源活用の方針を策定している。
	人材育成力	<ul style="list-style-type: none"> ○経験を生かし、キャリアステージに応じた教職員の育成のために、的確に指導・助言している。 ○人材発掘に努め、常に意図的・計画的に中核教員を育成している。 ○園長の指示のもと、教職員が幼児一人ひとりに応じた適切な援助を行える資質・能力向上のための体制づくりに積極的に関わっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人ひとりの資質・能力や実績を適切に把握し、人材活用に生かすとともに、それぞれの職務の立場からキャリアステージに応じた育成指導を行うよう指示している。 ○意図的・計画的な人材育成に努め、マネジメント能力に長けたリーダーを育成している。 ○教職員が幼児一人ひとりに応じた適切な援助を行えるよう、資質・能力向上のための学び合いの場をつくっている。
	連携・交渉力	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の長時間労働解消やメンタルヘルスの保持増進に率先して取り組んでいる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ワーク・ライフ・バランスを推進し、職場環境における課題の解決を図り、効率がよく働きやすい職場づくりを行っている。
	職場環境づくり力	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間のコミュニケーションを活性化し、相互理解を促進するとともに、課題の解決や合意形成が協働的に行われるようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間の関係性に配慮し、互いに信頼し、認め合う風通しのよい職場づくりを行っている。

1. アンケート結果及び考察

★マークのしかた



徳島県幼児教育推進体制構築事業に関する調査ご協力をお願い

このアンケートは、本年度、徳島県保育・幼児教育アドバイザー（スーパーバイザー）が訪問した幼稚園、保育所、こども園等に対して依頼しています。訪問以降の取組等について、お教えてください。貴重な時間をお借りし、ご負担をおかけしますが、みなさまのご協力をお願いいたします。

徳島県教育委員会学校教育課内 徳島県保育・幼児教育センター

TEL 088-621-3196（直通） FAX 088-621-2882

園（所）名 _____

徳島県保育・幼児教育アドバイザーについて

(1) 保育・幼児教育アドバイザー訪問時、どのような助言等がありましたか。ひとつだけ選んでマークしてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 幼稚園教育要領等に基づいた保育・教育について	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 保育・教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開について	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 保育者とのかかわりと環境の構成について	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 他との連携について	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 園経営について	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

A 保育について

(2) 保育・幼児教育アドバイザー訪問後の保育についてお答えください。ひとつだけ選んでマークしてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 助言内容を意識して、子供とかかわるようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 助言内容を意識して、言葉を発するようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 助言内容を意識して、援助するようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 助言内容を意識すると、子ども理解が進むようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 助言内容を意識して、環境を構成するようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 助言内容を意識して、保育を振り返り、環境の再構成をするようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 助言内容を意識して、子どもの安心・安全に配慮するようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して保育をするようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 助言内容を意識して、保護者と対話するようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 助言内容を意識した保育記録を心がけるようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11 助言内容を意識して、カリキュラム・マネジメントを試みるようになった。（大規模な改定作業ではなく、次年度に備え、現在の教育課程にメモを付け足す、保育記録に残す、記録写真を撮る等の細やかな作業も含む。）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

★マークのしかた



(3) その他、上記のことのいずれかについて、具体的に教えてください。

B 園内研修について

(4) 保育・幼児教育アドバイザー訪問後の園内研修についてお答えください。ひとつだけ選んでマークしてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 同僚・管理職に相談をすることが増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 他の保育者の動きや言葉に学んだり、自らの保育に取り入れたりするようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 (小集団或いは全員で) 保育について話し合いをする場が増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 他の保育・幼児教育施設との連携・接続について、話し合う場が増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 小学校との交流・連携・接続について、話し合う場が増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 これまで以上に、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読むようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 より学びたいことができた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 助言内容を意識して、指導案・保育案を書くようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(5) その他、上記のことのいずれかについて、具体的に教えてください。

C 他との連携について

(6) 保育・幼児教育アドバイザー訪問後の他との連携についてお答えください。ひとつだけ選んでマークしてください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 当初の計画より、他の保育・幼児教育施設との交流・連携の場を増やした。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 当初の計画より、小学校との交流・連携の場を増やした。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 当初の計画より、地域との交流・連携の場を増やした。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

★マークのしかた



		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
4	小学校の授業を見るようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	小学校教員と保育について会話をすることが増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	小学校教育との違いを意識して保育に取り組むことが増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(7) その他、上記のことのいずれかについて、具体的に教えてください。

D 園運営について（園長・副園長・園長補佐・主任等 対象）

(8) 保育・幼児教育アドバイザー訪問後の園運営についてお答えください。ひとつだけ選んでマークしてください。

		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	助言内容を意識して、園を運営するようになった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	助言内容を意識して、職員に対する声かけが増えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(9) その他、上記のことのいずれかについて、具体的に教えてください。

E 助言内容を生かして教育・保育に取り組んだ成果を実感した「子供の姿」がありましたらお教えてください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

徳島県保育・幼児教育アドバイザー訪問後の保育に関する調査のまとめ

(1) 調査目的

本調査は、徳島県幼児教育推進体制構築事業に関する調査の一環として、平成28年度及び平成29年度に徳島県保育・幼児教育アドバイザー（スーパーバイザー）が訪問した徳島県内の幼稚園、保育所、認定こども園を対象に実施した。徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業事後の保育や園内研修等への効果を明らかにすることを目的としている。

(2) 調査方法

2017年12月～2018年1月に実施した。調査対象は、表1のとおり、徳島県内の幼稚園69園、保育所2園、認定こども園17園、計88園である。平成28年度は30園、平成29年度は58園から回答が得られた（回収率90%）。各園に調査用紙を配布し、園長・施設長など代表者に回答してもらうようにした。質問項目に回答した後、郵送やファックスによって回収した。

表1 調査対象園

平成28年度			平成29年度			全 体		
幼稚園	保育所	認定こども園	幼稚園	保育所	認定こども園	幼稚園	保育所	認定こども園
25園	0園	5園	44園	2園	12園	69園	2園	17園
30園			58園			88園		

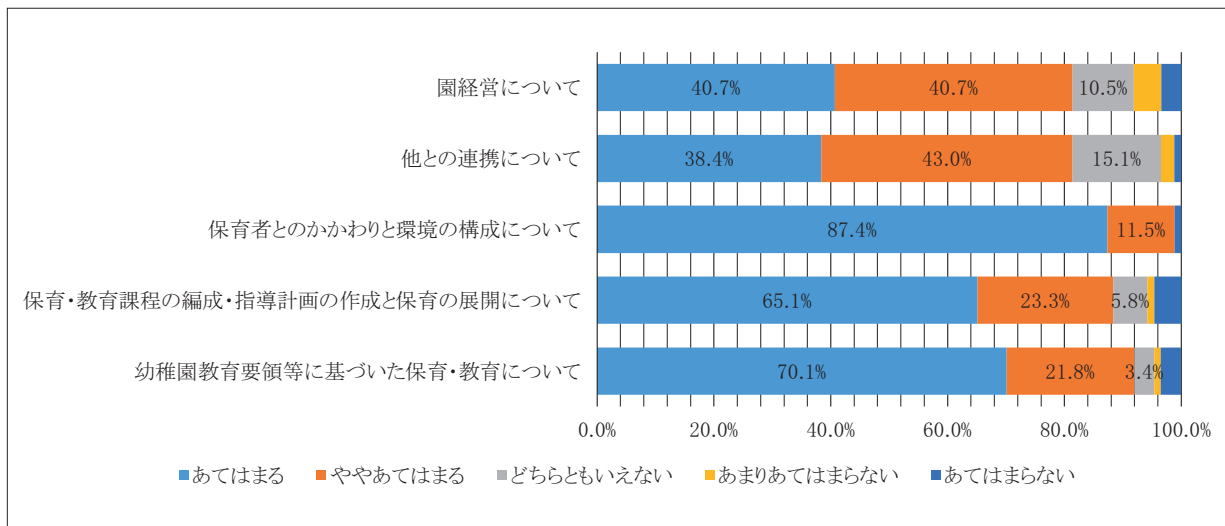
(3) 調査内容

「徳島県保育・幼児教育アドバイザーについて」5項目、「A 保育について」11項目、「B 園内研修について」8項目、「C 他との連携について」6項目、「D 園運営について（園長・副園長・園長補佐・主任等 対象）」2項目について、それぞれ「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の5件法で尋ねた。A～Dのそれぞれについて、自由記述の欄もある。「E 助言内容を生かして教育・保育に取り組んだ成果を実感した「子供の姿」については、自由記述で回答を求めた。

(4) 結果概要

徳島県保育・幼児教育アドバイザーについて

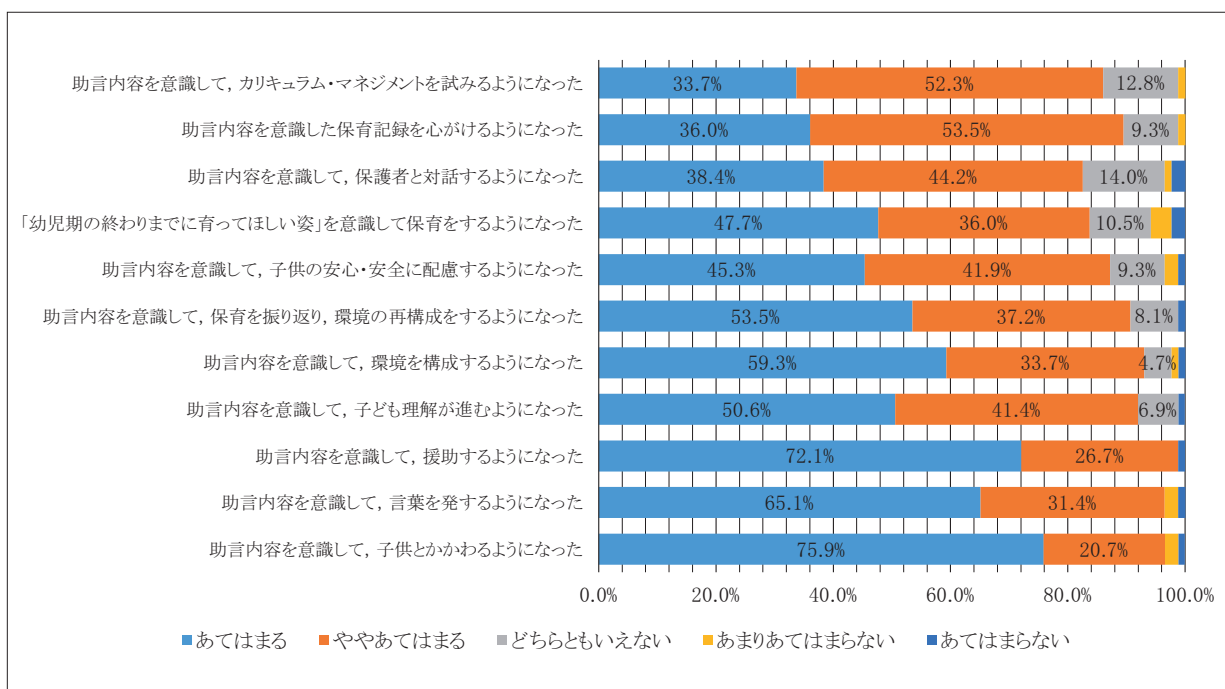
保育・幼児教育アドバイザー訪問時、どのような助言等があったか、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合を見ると、「保育者とのかかわりと環境の構成について」98.9%、「幼稚園教育要領等に基づいた保育・教育について」92.0%が9割を超え、その後も8割以上だった。なお、「幼稚園教育要領等に基づいた保育・教育について」は平成28年度と平成29年度で差が見られ、平成29年3月の幼稚園教育要領等の告示を受けて助言がなされたと思われる（表2）。



A 保育について

保育・幼児教育アドバイザー訪問後の保育について何か変化が見られたのだろうか。「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合を見ると、助言内容を意識して「援助するようになった」「子供とかかわるようになった」「言葉を発するようになった」「環境を構成するようになった」「子ども理解が進むようになった」「保育を振り返り、環境の再構成をするようになった」が9割以上、その他の項目も8割以上と、保育・幼児教育アドバイザーの成果が見られる。

自由記述において「話を聞いてもらうことで、心が軽くなった」「悩みや迷いを相談することができた」「具体的な言葉がけや関わり方を教えていただいたことで気持ちが楽になった」などの意見が見られ、保育・幼児教育アドバイザーの指導助言の内容が、幼児理解や日々の保育における援助や環境構成などに反映したり、保育記録やカリキュラム・マネジメントにつながったり、保育の質や保育者の資質向上のきっかけになっていることがわかる。



〈自由記述（一部抜粋）〉

子供理解

- 学級活動の中で、子供たちの多様なアイデアを取り入れてより柔軟に進めるようになった。
- 教師が子供たちの思いを把握し、見守り、認めることで、活動の広がりが見られた。
- 一人一人の幼児の言葉や表情から、思いや考えなどを理解し、受け止め、1日を振り返ったとき、幼児から「楽しかった」という声が聴かれるような取組を心がけている。
- 子供の小さな心の動きなどに気付くようになり、幼児理解がより一層深まった。

子供とのかかわり・言葉がけ・援助

- 子供を見る視点が広がったことで、子供との関わりや言葉がけが少しだが変わったように思う。
- 一人一人の幼児の育ち方を考えるにあたり、子供の自主性や自己肯定感を育むには、どのような援助が適切であるかを考える機会が増えてきた。
- 主体性を引き出すために、ときには見守り、待つ姿勢も大切と考え、日々の保育の中、信頼関係を深め、内面に寄り添いながら、必要に応じた言葉がけ等を心がけるようになった。
- 異年齢児の中で育つ3歳児の姿から、同年齢の中で生活する3歳児との相違点を知ることができ、年齢や個の育ちに添った援助・働きかけの大切さを再確認することができた。

子供への支援

- 支援児に対して、職員間一人一人のねらいをしっかりと共通理解し、保育に取り組むようになった。
- 気になる子供の支援について、一人一人の良さを認めていけるような活動を取り入れるようになった。
- 特別支援教育に特化した依頼であった。支援の必要な幼児に、視覚から入るよう、写真やイラストを活用して環境を構成したり、見通しをもって生活できるように1日の流れを表示したりした。
- 気になる幼児について、具体的な援助方法や環境構成について助言いただき、幼児の成長している姿が見られる。
- 支援を要する園児一人一人に対して、どこで困っているか、なぜそのような行動をとるのかが分かり、園児に対する接し方や保護者への対応も変わってきた。

環境構成・環境の再構成

- 異年齢のつながりをより深められるよう、園全体での遊びや活動の場を工夫するように努めている。
- 環境面では、乗り物に番号を書き片付けをしやすくしたり、遊具のペンキ塗りなど、幼児たちに返していけるアドバイスを実践し、再構成していった。
- 砂遊びの重要性を再確認させていただき、子供たちの目線に立って用具を整理したり、不足している物については、十分に検討して購入したりした。
- 具体的指導・助言をいただいたことで、すぐに保育や環境構成を取り入れるようになった。
- 環境構成、援助の在り方、可視化などについて具体的に学び、それを元に、環境の見直しや再構成を行うことで、遊びがより充実し、教師の資質向上にもつながった。
- 環境構成や保育者の関わり方の大切さや捉え方を見直し、今でしかできない体験や子供たちが何に興味を示しているかをしっかり見極め、主体的に遊び込める環境を再構成していく中で、発達や学びの連続性につなげていけるように努めている。

安心・安全

- 保育をしているときに死角ができてしまうため、人的・物的環境の見直しをするとともに、職員一人一人が気を付けるようになり、より子供たちの安全に配慮するようになった。
- 保育の中のごくわずかな配慮不足から生じる事故を未然に防ぐため、職員一人一人が「ヒヤリハット」を作成し、共通理解をするようになった。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- アドバイザーの指導・助言を参考に意識して、環境構成や指導案作成時に10の姿など考えて取り組むようになった。
- 10の姿を常に意識し、自分のクラスの幼児だけでなく、園全体の幼児に職員全体が目を向け、話し合いの場を多くもつことで、それぞれの時期に必要な指導を行うようにしている。
- 子供が活動をしているときに、この活動の内容が10の姿のこういった部分につながっていくかを、保育者が考え話し合う機会が増えてきている。
- 子供と関わる際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら言葉がけをするようになった。例えば、「紙をほしい」と言ってきた子供に対して、「なぜ?」「色は?」「大きさは?」「厚い?薄い?」等を子供に考えさせるような言葉がけをするようになった。
- 5歳児が、今年度修了するときに育ってほしいことを見つめなおし、日々の保育の中でも、大切にするようになった。

保護者との対話

- 保護者との関わり方・環境などを様々な対応の仕方などについて、職員間で連携を大切にしていって共通理解をしていくためにも話し合いや相談をすることが増えた。
- 気になる幼児の対応について、アドバイスにしたがい、保護者を受け止め、信頼関係に努めたところ、安心感を抱き、いろいろ話してくれるようになった。
- 保護者との連携について、助言いただいたことを意識し、「伝える」ことを大切にしてきた。
- 発達や家庭環境における情緒の不安定な子に対し、病院や施設への受診を勧め、現状を保護者にも知ってもらうことができた。
- 一人一人の育ちを把握し、保護者と会話することで、より子供への理解が深まった。

保育記録

- 保育記録の書き方の見直しを図った。そして、自らの指導の姿を振り返ることができるように思えた。
- 保育記録の仕方を各々見直し、子供の育ち（遊びの読み取り）や援助の振り返りに努めた。
- 保育記録の大切さ・意義・取り組み方などを意識して、忙しい合間をぬって記録をとるようになってきている。
- 日々、教師の援助や環境構成について、記録をとっている。さらに、そこに教師の願いを絡ませながら見直しをしていくようにしている。
- 日々の保育の振り返りや記録などが、幼児理解に結び付き、園児一人一人に応じた援助ができるように努めている。
- 写真を取り入れ、より具体的に週録等の記録を残すようになった。
- 週録を書くときに、週のめあてや反省について記入することで、幼児の姿を振り返り、週のめあてと照らし合わせて、自分の保育の振り返りや反省をすることができるようになった。また、次の週に特に意識するめあて等を明確にし、意識をもって保育に取り組めるようになった。

- 日々の保育の中で、幼児の行動やつぶやきから思いを読み取り、日誌や反省を生かして、次の日の保育の内容を決めるように心がけていった。

カリキュラム・マネジメント

- 保育内容を見直し、年間を通して、運動遊びを取り入れるようにしている。
- 園全体で幼児理解を深め、全ての職員が共通理解して関わるようになった。
- 教育課程・指導計画の見直しを短期・長期のスパンで行うようになった。
- 指導計画において、次年度に生かせる取り組みを評価していただいたことで、自信をもって続けることができている。

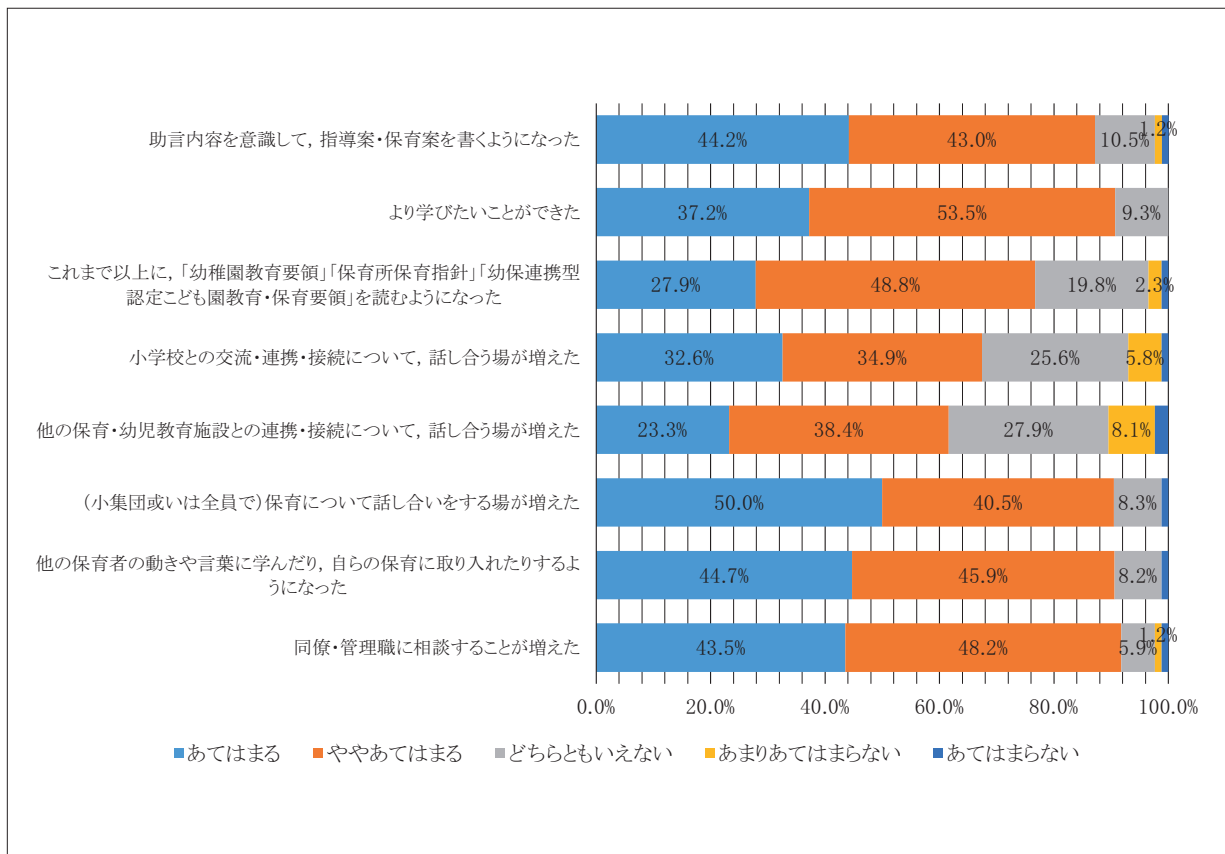
保育者の意識の変化

- 話を聞いてもらうことで、心が軽くなった。
- 悩みや迷いを相談することができた。具体的な言葉がけや関わり方を教えていただいたことで気持ちが楽になった。
- 保育の様々な面において、教師一人だと課題への視点が広がりづらいので、職員全体の力で明日へつなげていくよう協働的に取り組む姿勢が見られてきた。
- 実践することで、子供が落ち着いてきたり、遊びが充実したりと実感できたようで、教師の意欲につながっていると思う。
- 保育終了後、その日の保育や子供の様子等、話し合い時にできるだけ、その場で記録に残すように心がけるようになった。
- 職員間で連携を大事にして、保護者との関わり方・環境・様々な対応の仕方について共通理解していくために話し合いや相談をすることが増えた。

B 園内研修について

保育・幼児教育アドバイザー訪問後の園内研修について、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合を見ると、「同僚・管理職に相談することが増えた」「より学びたいことができた」「他の保育者の動きや言葉に学んだり、自らの保育に取り入れたりするようになった」「(小集団或いは全員で)保育について話し合いをする場が増えた」「助言内容を意識して、指導案・保育案を書くようになった」は8割を超えているが、「小学校との交流・連携・接続について、話し合う場が増えた」「他の保育・幼児教育施設との連携・接続について、話し合う場が増えた」は6割台であった。

自由記述を見ると、保育について話し合う場が増えたことで共通理解が促されたり、小学校との連携を図ったり、指導案・保育案や保育記録の見直しにつながったりする意見が多く見られた。しかし、その中には、園内研修等の時間を確保して話し合う機会が取りづらい状況や職員の資質向上は力量の問題もあるという意見なども見られた。



〈自由記述（一部抜粋）〉

同僚・管理職への相談，他の保育者から学ぶ

- 園長の職務などを理解して，自分のすべきことを考えるように意識することを心がけるようになった。主任・保育主任として，どのようなことができるか，今後も考えていきたいと思うようになった。
- 指導案の作成にあたり，先輩の保育に関心をもって見たり，同僚や管理職に相談したり話し合ったりする機会が増え，職員のチームワークがよくなってきた。
- 先輩も具体的な指導方法を教えるのではなく，その場やその子供に応じたアドバイスを与え，見守りながら，後輩を育てていく意識が見られるようになった。
- 互いに年限に合った保育内容を教え合ったり，公開保育等の研究会で学んだことを参考に取入れたりしている。
- 日頃の保育についての相談や悩みなどを相談したり，話し合ったりする機会がもてている。

保育についての話し合う場

- 職員間の悩みや気付きや悩みを個々の職員で話す機会はあるが，園内研修等の時間を確保して話し合う機会は取りづらい状況にある。意識して研修時間を確保していくことが課題と認識するようになった。
- 学んだことを園内で共通理解したことで，その後の園内研修の中で，子供の姿や援助の方法，環境設定などをより具体的に話し合うことができた。
- 園内研修で，話し合いの場をもったとき，アドバイザーの発言された内容を振り返りながら，自らの保育に取り入れるようになった。
- 職員間で話をする場が増えた。その日の子供の変化や気付いたことなど話をし，明日への活動に生かせるようになってきた。

- 職員同士互いに認め合える関係ができてきたと思う。みんなで保育について話し合い、相談し合いながら、少しでも自信をもってできるようになったと思う。
- 職員と保育や子供についてなど話すことが増え、午前中の子供の様子、午後からの子供の様子を知ることができ、子供にとってよりよい環境・保育など、共通理解できるようになった。
- 保育の捉え方や、目指す方向性など、今回の研修を通して、職員で共通理解できたことで、改善や向上に向けて、視点を明確にした話し合いが行われるようになった。
- 保育について話し合う場が増え、自分の保育を振り返ったり、子供の姿を伝え合ったり、アドバイスをもらったり取り入れたり、互いに学び合っている。子供一人一人の課題や保護者の思いなど、園全体で考え、共有できるようにし、子供たちの確かな育ちを支えていけるよう、職員の意識向上につながってきている。
- 園内研修において、互いの保育を見せ合う機会を増やし、より深く考えたり、他の先生方の意見を聞いて、より幼児理解を深めたりすることで、自分の保育に取り入れようとするようになった。

他の保育・幼児教育施設との連携・接続

- 子供の気になるところや問題が発生した場合は、その日のうちに職員間で情報を共有し、話し合いの機会をもっている。
- 市内の全幼稚園で研究保育会を実施し、各園のテーマに合った公開保育を行い、公開保育後、研究協議を行い、話し合いをもった。また、この公開保育は、保育所・認定こども園にも参加を呼びかけ、共に研修を深めた。
- 事前研修をして、市内各園で公開保育を行った。その際、今まで以上に職員間で話し合う場をもち、子供たちの育ちについて、共通理解を図るようになった。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識するようになった。
- アドバイスをいただいた援助の方法や環境構成について実践してみた後の幼児の様子の変化など職員間で話し合い、PDCAサイクルによって、次の実践につなげている。

小学校との交流・連携・接続

- 隣接する小学校と、書類の様式を統一しているが、様式の見直し・改善を進めようとしている。
- 小学校への就学を控え、支援の必要な幼児の保護者と話し合う場が増え、保護者が支援学級見学や担当職員と話し合う等、小学校との連携が増えてきた。
- 兼任園ではあるが、小学校との連携が不足しがちだと思うので、今後の課題として、具体的方策を立てていきたいと考えるようになった。
- 小学校との交流の機会を積極的に設けるように計画し行動した。小学校の先生方とは仕事の形態が異なるため、早朝・放課後等で話し合ったり交流の計画をしたりするようにしている。
- 園長が小学校長と兼務であるため、よりいっそう小学校の職員研修にも参加できる回数も増えた。
- 園長先生（小学校と兼務）と幼稚園教育要領や幼稚園教育について話す機会が増えた。小学校の学習指導要領の理解を深めることができ、幼小の相互理解や接続を進めることができた。
- 就学に向けて、園の職員だけでなく、小学校の先生方と話し合う場が増え、交流の場が広がり、子供同士のかかわりも深まっている。
- 小学校との連携・接続については、今まで以上に大切さを感じているため、小学校長を講師に招き、園内研修を行う予定である。

幼稚園教育要領等を読む

- これまで以上に、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を改めてきちんと読むことの大切さも共通理解した。
- 幼稚園教育要領の改訂により、冊子を見る機会が増え、参考になっている。保育者の資質と専門性の向上が不可欠で、相互に連携しながら、指導体制を確立し、充実・改善を図るよう努めている。
- 幼稚園教育要領などを読み込み、保育の質を高めていけるように努めたいと考えるようになった。
- 改訂された教育要領について、3つの柱や10の姿を意識して、話し合いを行ったり、園内の掲示物のコメントに、文言を取り入れたりするようになった。

より学びたいこと

- より学びたいことが増えてきた。園内研修の時間をもつことが増えてきたのはもちろんだが、毎日15分くらいの終礼の時間を利用し、その日のエピソードや課題を少しずつではあるが、職員間で話し合っている。毎日の積み重ねや職員全体で話を聞き、幼児理解を深め、保育に生かせることは教師自身の成長にもつながっていった。
- 特別支援教育について具体的に深く学びたいと思うようになった。
- 非認知的能力についてより学ぶべきと感じた。達成感、充実感、満足感、挫折感、葛藤などを味わうことで、精神的にも成長していくということを日々の保育のなかでより具体的に示して、可視化していくことが大切だということを実感した。
- 職員の資質向上をめざすが、受けとる職員に受けとる容量がなければ、向上も望めない。

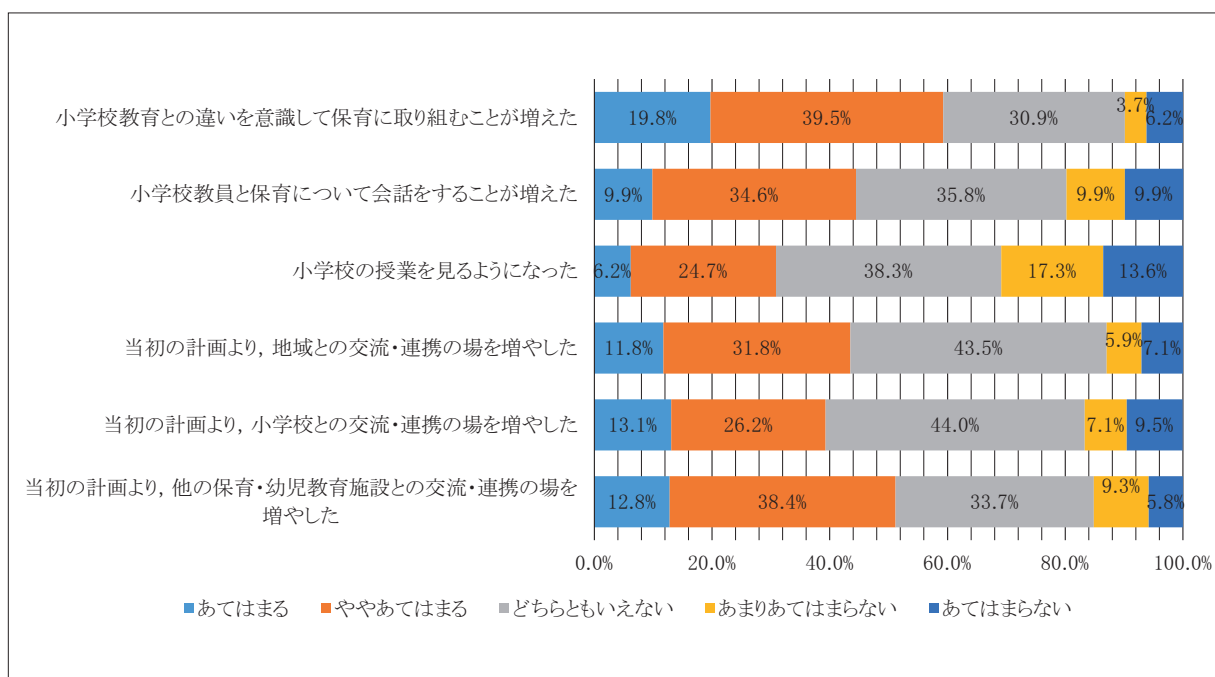
指導案・保育案

- クラス毎に、また他の年限とのかわりにも留意しながら指導案を書くようになった。
- 保育計画の見直しや年齢別研修などを行い、子供の実態を把握して、職員間で話し合い、指導案・保育について、共通理解をしていくうえで、話し合いの場が増えた。
- 指導案作成し保育を行ってみて、その反省点を職員で話し合ったり、先輩や同僚に相談したりすることで、保育を深く考えるようになってきた。指導の要点を環境構成、また配慮事項に、その反省が生かされるようになった。
- 保育日誌や記録の書き方について、「子供たちが今、何を学んでいるか」という視点で書くなど、適切なアドバイスをいただいて、今後の研修にも役立てている。
- 助言いただいたときの記録やメモを何度も見返しながら話し合ったり、指導案を書いたりした。
- 保育計画の見直しや年齢別研修などを行い、子供の実態を把握して、職員間で話し合い、指導案・保育について共通理解していくうえで、話し合いの場が増えた。

C 他との連携について

保育・幼児教育アドバイザー訪問後の他との連携について、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合を見ると、「小学校教育との違いを意識して保育に取り組むことが増えた」「当初の計画より、他の保育・幼児教育施設との交流・連携の場を増やした」は5割を超えているが、その他は、5割を下回っており、他との連携を即実行に移すということはむずかしいようである。なお、「小学校教員と保育について会話をすることが増えた」において、平成28年度「ややあてはまる」17.2%、平成29年度44.2%と差が見られる（表2）。

自由記述をみると、他との連携を引き続き行っている園、新たに連携を試みた園、来年度から計画に取り組もうとしている園など積極的な意見が多く見られた。しかし、「これまでの交流や連携の在り方のままで停まってしまっている」「公立保育所とは距離があり、子供同士の交流がなかなか難しい」という園や今後の課題としている園もあった。



〈自由記述（一部抜粋）〉

他の保育・幼児教育施設との交流・連携の場

- 近隣の幼稚園や保育所との交流はもともと計画していたが、助言していただいた「少人数のよさ・多人数のよさ」の話を聞いて、教師がより明確なねらいをもって、交流に臨むことができた。
- 保育所や地域との交流の場が少なかったので、年度途中から回数を増やしていった。内容については、もう少し検討していく必要があるように思う。
- これまでの交流や連携の在り方のままで停まってしまっている。
- 公立保育所とは距離があり、子供同士の交流がなかなか難しい。

小学校との交流の場

- 小学校の行事に参加したり、休み時間などを利用して、一緒に遊ぶ機会をつくったり、児童・幼児がかかわる機会を増やすようにしてきた。
- 本園は離れているが、小学校への滑らかな接続のためにも、小学生や小学校教諭とも話し合える機会を増やしていきたいと考えている。
- 幼保小中校区内での保育所公開保育・小学校公開授業に参加する折に、交流・連携をもつ場では、意見交換することがあり、意識して参加することができた。
- 兼任園ではあるが、小学校との連携が不足しがちだと思うので、今後の課題として、具体的方策を立てていきたいと考えるようになった。
- 就学に向け、1年生の授業や給食準備、清掃時間の様子など、小学校での生活を見せてもらう予定である。
- 次年度は、助言内容を教育計画の中に入れていくことができればと考えている。小学校にも

積極的に投げかけていきたい。

小学校の授業見学

- 小学校と距離が離れたが、今まで以上に、意識的に交流に取り組んでいる。お互いの保育・授業を見る機会は設けられていないため、今後はその点についても話し合っていきたい。
- 1年生の授業を、年少・年長児の担任3名が参観させていただいた。授業の流れを見せていただくなかで、昨年 of 修了児の成長が見えたり、就学前の園児にどんなことを身に付けさせればよいのかを考えたりするようになった。
- 小学校の授業研修会に参加することで、幼稚園での活動が小学校の授業や教育活動にどのようにつながっていくかを考えることができた。育てたい10の姿を改めて認識する機会となった。
- 2ヶ月に一度、本町の幼小中が参観日を設け、交流を行っている。また、年に2・3回ほど、合同研修を行っている。
- 幼保小中校区内での保育所公開保育・小学校公開授業に参加する機会がある。その後、交流・連携をもつ場では、意見交換することがあり、意識して参加することができた。
- 交流以外にも、授業を参観させてもらったり、教頭先生や担任の先生と、子供たちの課題について話し合ったりする機会を増やしていくようにし、小学校の接続を充実させていきたいと考えている。

小学校教員との交流

- 小学校長を兼任している園長と、保育や幼児の姿について話し合う機会が増えた。
- 小学校の研修に積極的に参加するようにし、教師同士も交流するようになってきた。
- 小学校の1年生の先生と話をする機会が増えた。
- 小学校の先生と、支援を要する子供の様子について、より話し合いをもった。
- 他の施設や小学校との連携については、計画以上の交流は難しかった。しかし、隣接している小学校の先生方とは、「幼稚園では、こういう考えで、こういう保育をしているんです」と、幼児の姿を説明できるようになったと思う。
- 小学校の先生方に日々の子供の様子など伝えることが多くなった。
- 小学校といろいろな交流をさせていただいている。職員間の交流が今後の課題である。
- 保・幼・小・中・高の先生方と話し合う機会があるが、幼稚園のことを理解してもらったり、あるいは他校種の先生方の話をしっかり聞いて、縦のつながりを今まで以上に意識して参加することができた。
- 小学校教員との連携や学び合いをあげているため、より意識して、こちらから関わりを増やす努力をした。

小学校教育との接続

- 小学生となると、様々な経験や知識から、「一瞬の判断」ができるようになるが、幼児期はそこまでいかないので、基礎から積んでいきたいと思うようになった。
- 遊びが学びという思いで、園の環境構成を大切にしていこうとする意識が高まった。
- アプローチカリキュラムの作成をするとともに、一人一人の子供に何が必要なのか（就学に向けて）職員間で話をし、考える場が増えた。
- 「接続期カリキュラム」により、小学校との滑らかな接続ができるよう取り組んでいる。
- 「はげみ表」を作成し、小学校と連携し、同じ3つの目標（あいさつ・あんぜん・あとしまつ）から、月ごとに一つ重視する目標を挙げ、進めている。

- 併設している小学校と常に連携はとっているが、次年度の年間計画について話し合う等、深く話し合うことになった。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、保育教諭一人一人がしっかりと意識しながら保育することの大切さを改めて強く感じるようになった。
- 秋の自然物を使った遊び等、具体的に園が行った記録を残し、アドバイスいただいたように小学校に伝えようと思っている。
- 接続カリキュラムに基づき、小学校と連携をとりながら、気軽に交流できる回数を増やすよう努めている。

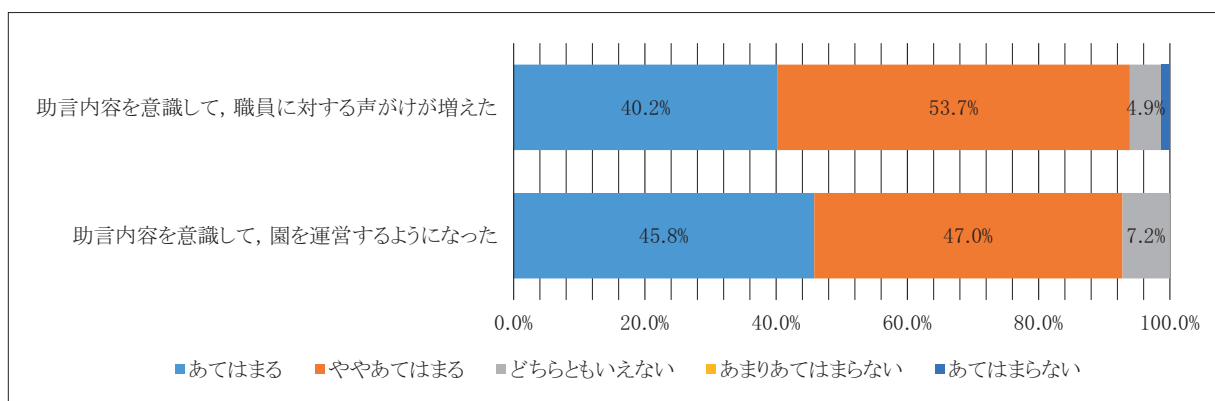
地域との交流・連携の場

- 保幼小、地域との連携の中で、公立幼稚園として相互に生かし合えるような交流を図りたいと改めて思うようになった。
- 「地域の子どもを地域で育てる」という機運を高め、地域の会や小学校との研究会で幼児の育ちを具体的に表して理解を求めた。カリキュラムをつなぐ・人をつなぐ・子どもをつなぐ・先生をつなぐ・組織をつなぐなど、連続性をもった教育・地域との協働による幼稚園教育を進めようと心がけた。
- 小規模園同士の交流については、それぞれの年齢の子供たちが、生き生きと活動できるよう各担任で個々の育ちも踏まえて、電話や研修等で会ったときに話し合い、活動内容に生かすことができた。
- 同じ地区内の園とは、毎月2回交流を行っているが、他園のもっと多くの友達と切磋琢磨しながら遊べる場や職員の連携の機会を設けることにも、情報交換をしながら、互いの関係を深めていきたいと考えている。今年度は2回実施し、次年度の計画にも積極的に取り入れたいと考えている。

D 園運営について（園長・副園長・園長補佐・主任等 対象）

保育・幼児教育アドバイザー訪問後の他との連携について、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合を見ると、「助言内容を意識して、園を運営するようになった」92.8%、「助言内容を意識して、職員に対する声がかげが増えた」93.9%と、いずれも9割を超えており、保育・幼児教育アドバイザーの成果がみられたといえる。

自由記述を見ると、保育・幼児教育アドバイザーの助言内容が園の経営や園内研修のあり方まで及んでおり、園全体で保育について話し合う機会や園内研修が職員同士の共通理解や資質向上につながっていることがわかる。園長や主任などのリーダーシップとともに、職員一人一人の声や意見が相互に交わされる対話的關係が重要だと思われる。



〈自由記述（一部抜粋）〉

園の運営

- 職員それぞれの個性や技能を生かし、子供たちが幅広い経験ができるよう、また同時に職員の資質向上につながるような機会を設けた。
- 小学校長との兼務の利点を生かして、小学校以降のつながりを踏まえて、園運営を意識するようになってきた。
- 兼任園長のため、なかなか連絡がとりにくいこともあるが、必ず毎日最低1回は、幼稚園・小学校へお互いが出向き、連絡等の機会をもち、職員間にも伝え合い、共通理解がより一層密になった。
- 子供たちの思いや考えを大切にする保育を展開するために、園全体で話し合う機会が増えた。また、園内研修や職員会も、機会と捉えて実施するようになった。
- 副園長が、若い教師育成のために、計画等を立てて園運営に努めた。
- 園の指導計画や「めざす子供像」などを見直すきっかけとなっている。
- 互いに意見が言いやすい関係づくりを心がけ、園運営に生かせるように取り組んでいる。
- 指導していただいた支援方法を職員間で共通理解して進め、よりよい成長につなげていけるように配慮するようになった。
- 職員数が多くなると、情報の共通理解が難しくなるため、機会を捉えて、話し合うことができるよう心がけた。
- 職員間で話をする場が増え、全員が共通理解をするようになった。
- 職員全体の共通理解を図りながら、一人一人の幼児の成長・発達を話し合い、ねらい・課題・目標を定めていくようになった。
- 職員間での話し合いの場が増え、毎日の保育についての報告や問題点・悩み等の他に、職員からの提案や意見などにも積極的になるようになった。全教職員が幼児に対する共通理解をもち、園全体による協力体制がより深まった。
- 子供の姿について、話し合う機会が多くなってきている。
- 一人一人の子供の行動を深く考慮することで、保育教諭の資質向上や意欲が見られ、園のまとまりが良くなってきたと感じている。
- 研修で学んだ内容やアドバイスについては、園長が書面にまとめてくださり、他の職員に情報を提供している。
- 研修を繰り返すことにより、職員会で行事での学年の役割や活動への協力依頼などが、気兼ねなく話し合えるようになり、認定こども園としてまとまってきた。
- これまで以上に、指導計画や環境の在り方についての見直しを全職員で話し合う機会をもつようになり、日々の保育についてのカンファレンスをどんなに忙しい中でも必ず行うようになった。
- 園内研修のあり方について、効率よく皆が集まる時間帯に話し合うことを改めて見直した。
- 指導にあった研修計画を早速作成した。研修の内容、時期などが振り返りやすくなった。
- 幼児教育の専門家にアドバイスをしていただき、安心感をもって学ぶことができた。

職員に対する声かけ

- 補助員により具体的（ピンポイント）に補助してもらいたいことを伝え、保育に対して理解してもらおうようにした。
- 助教諭の方との連携のとり方について助言いただき、意識して声をかけ合うようにして保育

を進めた。

- 報告・連絡・相談を心がけるようになった。
- 職員に積極的に声をかけ、保育に対しても、子供の様子と連動しながら、どの場面・声かけがよかったかを具体的に指導した。その職員のよいところをしっかりと認め、振り返りの工夫や自信につなげていけるようなアドバイスにも心がけた。園のビジョンを分かりやすく発信し、一人一人の教師がそこに向けて何をすべきかを具体的に示した。
- それぞれの職員の保育に対する熱い思いや頑張りをアドバイザーが認めてくださったのを見て、自身も職員に対してそのような声かけをしなければという意識になった。
- 職員が安心して保育できるように、話を聞いたり、他園の取組を伝えたりすることを増やしたいと心がけるようになった。
- 職員会でも、一人一人の発言が多くなり、活発な協議ができるようになった。幼児理解や保育の方向性の共通理解もより深まり、職員同士のかかわりや声かけも増えた。
- 職員一人一人の輝いている所を努力し、認めていく声かけを増やした。
- 職員同士での連携や協力をして、子供たちの保育安全面、また環境を整えるようになった。
- 記録をとること等に対してあまり声かけができていなかったが、日々の話し合いの中でできるだけ事例や子供の様子を記録に残すよう声をかけることが多くなった。

E 助言内容を生かして教育・保育に取り組んだ成果を実感した「子供の姿」

年度別の自由記述を見ると、子供たちが自分からしたい遊びに取り組んだり、挑戦したり、集中してかかわったり、友達と協同で遊んだり、主体的な遊びの充実が安定や積極性や自信などにつながっていくようになる「子供の姿」が浮かび上がる。それこそが幼児期に育ってほしい姿や三つの資質・能力であると思われる。

〈自由記述（一部抜粋）〉

〈平成28年度〉

- 幼児たちのつぶやきから、「～したい」「明日は～しよう」という遊びの広がりが見えるようになった。
- 集中して話を聞いたり、安定したりする。
- 伸び伸びと広がりをもった遊びをしている。
- 運動遊びに消極的だった幼児が、3学期にはドッジボールやなわとびなどの遊びに喜んで参加するようになった。
- 子供たちがだんだんと主体的に活動するようになった。
- 自信をもって大きな声を出しながら、演じることができるようになった。
- 幼児自らコースをつくるなど、遊びが発展していった。
- 園児用の小さなほうき・ちりとりを用意すると、最後まできちんと片付けをするようになった。次に使うときも気持ちがいいことが分かり、「きれいになったなあ」「明日もきれいにしよう」と言いながら、継続されている。
- 物の取扱いが乱暴な幼児の姿に落ち着きが見られ始め、挨拶ができるようになる等、周りの人や物との関わりが変わってきた。
- (雲梯に段階ごとにカラーテープを巻いたところ)「○ 色までいけた」「○ 色まで頑張れ」と、色を目標に練習したり、応援したりする様子が見られた。

- 物事に対して意欲をもって取り組むことが苦手だったが、何事も「失敗しても大丈夫！次が大事」を合い言葉にし、今では、友達と一緒に教え合ったり、工夫して作ったりすることができるようになってきた。
- (ルールを守る, いろいろな遊びをする, 一緒に遊ぶ等) 異年齢児との関わりの楽しさが分かるようになってきた。

〈平成29年度〉

- 自分からしたい遊びに取り組んだり、気の合う友達には自分の思いを出せるようになってきている。
- 戸外遊び(鉄棒・なわとび・フラフープ・大縄跳び・ドッチボールなど)意欲的に取り組み成果が出ている。また、頑張る姿と子供同士で応援したり、アドバイスしたりする姿が見られてきている。
- 少しずつ自信につながり、生活に落ち着きが出てきたように思われる。
- 要支援の幼児が最後まで自分で食事ができるようになり、このことがきっかけになり、身の回りのことを最後まで自分でやる姿が見られるようになってきた。
- 子供たちや園全体の遊びがとても活発になり、いろいろなことに挑戦するようになり、達成感や満足感を味わえるようになってきている。最初から「できない！無理」と言っていた幼児だが、自分で目標を立てたり毎日のレベルアップをしたりしながら、継続して楽しんでいる。また、できた・達成したことを、友達にアピールできたり、友達と一緒に競い合いながら遊んだりしている。
- (教師が選択肢を示すようになり) 幼児の視野が広がるようになり、自分から様々な遊びを考えだすようになった。
- 遊んだ後の片付けがみんなで力を合わせ、形や色分けをしながら最後まで片付けられるようになった。自分が遊んだ後の片付けが終わると、周りの友達の片付けも手伝えるようになった。
- 友達とのかかわりが活発になり、共に考えたり、工夫したり、役割をもったり、自分たちでルールをつくったりしながら、友達との幼稚園生活を楽しむ姿が多く見られるようになった。
- クラス活動に加わりにくかった幼児が、教師に対して、次第にうちとけた態度を示すようになった。ことば数も増え、本来もっているその子の良さ(発想力・想像力等)を周りの子供たちも気付くようになると、友達とのかかわりも増えてきている。
- 色水遊びをしている子供が、香りにも着目して遊ぶようになった。
- 子供同士が考え、主体性をもって活動に取り組んでいる。
- 積極的に遊ぶようになった。
- 遊びに挑戦している。
- 全員が意識して気持ちよい挨拶や礼ができるようになってきた。
- 体を動かすことが好きでなかった子供が、自ら楽しんで体を動かすようになった。
- ごっこ遊びのイメージが広がり、豊かな感性や表現の育ちにつながっていった。
- 支援が必要な幼児に対して、「追いかけない」「悪くなるような場を作らない」「より具体的に提示する」「幼児理解(なぜそうなるのか、してしまうのか、どう思っているか)」の指導内容を2学期間取り組んだ。すぐには結果も出ず、日々違っているが、一学期より、協力学級から出て行く機会が減り、集団で行うことも、支援は必要であるが、一緒にできるように

なっている。

- 教師の話をよく聞くようになり、また周りの幼児も教師と同じように、肯定的な言葉で、支援を要する幼児に関わるようになった。
- 教師が話しかけても黙り込んでしまう幼児が、話をしたり、態度で自分の思いを表現するようになった。現在は黙ってしまうことも少なくなり、友達との関わりももてるようになった。
- 片付けがスムーズになり、子供同士で、おもちゃの貸し借りができるようになっている。
- 気になる子供に対して、周りの幼児が、温かく関わっている。
- 異年齢児との関わりのおもしろさが分かるようになってきた。
(ルールを守る、いろいろな遊びをする、一緒に遊ぶ等)
- 異年齢で学び育ち合う姿。
- 受け身だった姿が、試行錯誤しながら、たっぷり遊びこめるようになり、満足感や達成感を味わいながら、主体的に取り組もうとする姿。
- 集中して遊んでいる。
- 「もっと遊びたい」と声にし、その日だけでなく、満足するまで遊びを継続している。
- 自信をもって取り組んでいる。

表2 単純集計表（平成28年度・平成29年度別）

徳島県保育・幼児教育アドバイザーについて		28年度	29年度
幼稚園教育要領等に基づいた保育・教育について	あてはまる	70.0%	70.2%
	ややあてはまる	16.7%	24.6%
	どちらともいえない	10.0%	0.0%
	あまりあてはまらない	3.3%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	5.3%
保育・教育課程の編成・指導計画の作成と保育の展開について	あてはまる	66.7%	64.3%
	ややあてはまる	16.7%	26.8%
	どちらともいえない	13.3%	1.8%
	あまりあてはまらない	3.3%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	7.1%
保育者とのかかわりと環境の構成について	あてはまる	80.0%	91.2%
	ややあてはまる	20.0%	7.0%
	どちらともいえない	0.0%	0.0%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
他との連携について	あてはまる	23.3%	46.4%
	ややあてはまる	56.7%	35.7%
	どちらともいえない	13.3%	16.1%
	あまりあてはまらない	3.3%	1.8%
	あてはまらない	3.3%	0.0%
園経営について	あてはまる	23.3%	50.0%
	ややあてはまる	53.3%	33.9%
	どちらともいえない	16.7%	7.1%
	あまりあてはまらない	3.3%	5.4%
	あてはまらない	3.3%	3.6%
A 保育について		28年度	29年度
助言内容を意識して、子供とかかわるようになった	あてはまる	70.0%	78.9%
	ややあてはまる	26.7%	17.5%
	どちらともいえない	0.0%	0.0%
	あまりあてはまらない	3.3%	1.8%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
助言内容を意識して、言葉を発するようになった	あてはまる	53.3%	71.4%
	ややあてはまる	43.3%	25.0%
	どちらともいえない	0.0%	0.0%
	あまりあてはまらない	3.3%	1.8%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
助言内容を意識して、援助するようになった	あてはまる	66.7%	75.0%
	ややあてはまる	33.3%	23.2%
	どちらともいえない	0.0%	0.0%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
助言内容を意識して、子ども理解が進むようになった	あてはまる	46.7%	52.6%
	ややあてはまる	43.3%	40.4%
	どちらともいえない	10.0%	5.3%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
助言内容を意識して、環境を構成するようになった	あてはまる	50.0%	64.3%
	ややあてはまる	40.0%	30.4%
	どちらともいえない	10.0%	1.8%
	あまりあてはまらない	0.0%	1.8%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
助言内容を意識して、保育を振り返り、環境の再構成をするようになった	あてはまる	46.7%	57.1%
	ややあてはまる	40.0%	35.7%
	どちらともいえない	13.3%	5.4%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.8%

助言内容を意識して、子供の安心・安全に配慮するようになった	あてはまる	33.3%	51.8%
	ややあてはまる	53.3%	35.7%
	どちらともいえない	10.0%	8.9%
	あまりあてはまらない	3.3%	1.8%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して保育をするようになった	あてはまる	40.0%	51.8%
	ややあてはまる	36.7%	35.7%
	どちらともいえない	13.3%	8.9%
	あまりあてはまらない	3.3%	3.6%
	あてはまらない	6.7%	0.0%
助言内容を意識して、保護者と対話するようになった	あてはまる	30.0%	42.9%
	ややあてはまる	53.3%	39.3%
	どちらともいえない	13.3%	14.3%
	あまりあてはまらない	0.0%	1.8%
	あてはまらない	3.3%	1.8%
助言内容を意識した保育記録を心がけるようになった	あてはまる	26.7%	41.1%
	ややあてはまる	63.3%	48.2%
	どちらともいえない	10.0%	8.9%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
助言内容を意識して、カリキュラム・マネジメントを試みるようになった	あてはまる	23.3%	39.3%
	ややあてはまる	60.0%	48.2%
	どちらともいえない	16.7%	10.7%
	あまりあてはまらない	0.0%	1.8%
	あてはまらない	0.0%	0.0%

B 園内研修について

		28年度	29年度
同僚・管理職に相談することが増えた	あてはまる	40.0%	45.5%
	ややあてはまる	53.3%	45.5%
	どちらともいえない	6.7%	5.5%
	あまりあてはまらない	0.0%	1.8%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
他の保育者の動きや言葉に学んだり、自らの保育に取り入れたりするようになった	あてはまる	43.3%	45.5%
	ややあてはまる	50.0%	43.6%
	どちらともいえない	6.7%	9.1%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
(小集団或いは全員で)保育について話し合いをする場が増えた	あてはまる	36.7%	57.4%
	ややあてはまる	53.3%	33.3%
	どちらともいえない	10.0%	7.4%
	あまりあてはまらない	0.0%	1.9%
	あてはまらない	0.0%	0.0%
他の保育・幼児教育施設との連携・接続について、話し合う場が増えた	あてはまる	13.3%	28.6%
	ややあてはまる	50.0%	32.1%
	どちらともいえない	20.0%	32.1%
	あまりあてはまらない	13.3%	5.4%
	あてはまらない	3.3%	1.8%
小学校との交流・連携・接続について、話し合う場が増えた	あてはまる	30.0%	33.9%
	ややあてはまる	36.7%	33.9%
	どちらともいえない	23.3%	26.8%
	あまりあてはまらない	10.0%	3.6%
	あてはまらない	0.0%	1.8%
これまで以上に、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読むようになった	あてはまる	30.0%	26.8%
	ややあてはまる	43.3%	51.8%
	どちらともいえない	20.0%	19.6%
	あまりあてはまらない	6.7%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.8%

より学びたいことができた	あてはまる	30.0%	41.1%
	ややあてはまる	56.7%	51.8%
	どちらともいえない	13.3%	7.1%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	0.0%
助言内容を意識して、指導案・保育案を書くようになった	あてはまる	26.7%	53.6%
	ややあてはまる	56.7%	35.7%
	どちらともいえない	16.7%	7.1%
	あまりあてはまらない	0.0%	1.8%
	あてはまらない	0.0%	1.8%

C 他との連携について		28年度	29年度
当初の計画より、他の保育・幼児教育施設との交流・連携の場を増やした	あてはまる	13.3%	12.5%
	ややあてはまる	43.3%	35.7%
	どちらともいえない	26.7%	37.5%
	あまりあてはまらない	10.0%	8.9%
	あてはまらない	6.7%	5.4%
当初の計画より、小学校との交流・連携の場を増やした	あてはまる	20.0%	9.3%
	ややあてはまる	23.3%	27.8%
	どちらともいえない	43.3%	44.4%
	あまりあてはまらない	6.7%	7.4%
	あてはまらない	6.7%	11.1%
当初の計画より、地域との交流・連携の場を増やした	あてはまる	13.3%	10.9%
	ややあてはまる	30.0%	32.7%
	どちらともいえない	43.3%	43.6%
	あまりあてはまらない	6.7%	5.5%
	あてはまらない	6.7%	7.3%
小学校の授業を見るようになった	あてはまる	6.9%	5.8%
	ややあてはまる	17.2%	28.8%
	どちらともいえない	48.3%	32.7%
	あまりあてはまらない	13.8%	19.2%
	あてはまらない	13.8%	13.5%
小学校教員と保育について会話をすることが増えた	あてはまる	17.2%	5.8%
	ややあてはまる	17.2%	44.2%
	どちらともいえない	48.3%	28.8%
	あまりあてはまらない	13.8%	7.7%
	あてはまらない	3.4%	13.5%
小学校教育との違いを意識して保育に取り組むことが増えた	あてはまる	27.6%	15.4%
	ややあてはまる	37.9%	40.4%
	どちらともいえない	31.0%	30.8%
	あまりあてはまらない	3.4%	3.8%
	あてはまらない	0.0%	9.6%

D 園運営について（園長・副園長・園長補佐・主任等 対象）		28年度	29年度
助言内容を意識して、園を運営するようになった	あてはまる	34.5%	51.9%
	ややあてはまる	55.2%	42.6%
	どちらともいえない	10.3%	5.6%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	0.0%
助言内容を意識して、職員に対する声かけが増えた	あてはまる	31.0%	45.3%
	ややあてはまる	62.1%	49.1%
	どちらともいえない	6.9%	3.8%
	あまりあてはまらない	0.0%	0.0%
	あてはまらない	0.0%	1.9%

2. 「訪問指導の手引（仮題）」作成に向けて

訪問指導の際、アドバイザーから発せられた指導言を記録し分類を試みたが、現段階では聞き書きが多く、課題も多い。アドバイザー会議の際に配布し、その次の回では改訂版を配布できるよう継続して加筆に取り組んだ。訪問指導に不安を覚えるアドバイザーにとっては、訪問指導の目安になった、或いは、自らの指導内容を振り返る手立てになったとの意見もあった。今後、保育現場に示すならば、保育・教育の手引や自己評価の視点等としての可能性も広がる。来年度の完成を目指し、今後も記録の蓄積に努め、表現の検討、分類整理の精度を高めることを、アドバイザー・スーパーバイザーの業務に加えたいと考えている。

現段階で記録しているのは、以下の内容である。なお、それぞれのアドバイザーがそのときどきの文脈で話した内容をそのまま記録したため、用語（例 「子供」と「子ども」, 「子供」と「幼児」等）の統一は行っていない。

1 【保育者の姿勢】

- ① 先生の声ばかりが大きくないか。
- ② 否定語が先行していないか。
「走ったらいかんよ」→「歩いていこうね」
むやみに制止や禁止をしていないか。
- ③ 不必要な大きな声を出していないか。
- ④ 否定的な対応が多くないか。
- ⑤ 幼児に対することばかけや態度など接し方について、命令や指示が多くないか。
- ⑥ 子供の行動や欲求に、分かりやすいことばで、穏やかに語りかけ、応答的に関わっているか。
- ⑦ 想像させること、教えることを区別しているか。
- ⑧ 混合学級において「区別」する意識をもっているか。
 - ・製作内容
 - ・表現方法
 - ・保育者
 - ・〇歳DAYをつくる 等
- ⑨ 毅然さを持ち合わせているか。
特に命に関すること。
- ⑩ 時間意識を育てているか。(キッチンタイマー)
- ⑪ 感情体験（挨拶）
 - ・気持ちが伴う反応をしているか。
保育者「気持ちのいい挨拶だね」
子供「こういうことが気持ちいいのか」
- ⑫ 問題が発生した際、解決しようと焦っていないか。
解決できなくていい。そういう体験が大事。周りでフォローしてくれる子も出てくる。
- ⑬ 「ことば」の意味を実感させているか。
例「力を合わせて」

- ⑭ 何せ褒めているか。
「先生に褒められた」と家と言えるように。
- ⑮ 少人数だからこそ育てられるものを想定しているか。
- ⑯ 話を聞く姿勢を育てているか。
ときに難しいことばでもよい。感覚的に分かることもある。
- ⑰ 「書かせる」場をつくるなら、「持ち方」は正確に指導しているか。
- ⑱ 「生活の基盤を育てる」との意識で保育に臨んでいるか。
例 片付け……「色分け」「同じ形」「最後まで」等
- ⑲ 年齢が上がるにつれて、「ことばの指示」で対応できるよう配慮しているか。
- ⑳ 基本的な生活指導（例 左右正しく靴をはく、傘の始末）をしているか。
- ㉑ 関わり方・援助の仕方・ことばがけが、その状況や場面に合っているか。
- ㉒ 子供の願いや発想が違ってきた場合、環境を再構成しているか。どのように再構成しているか。
- ㉓ 子供へのことばがけが指示や命令、許可になっていないか。
- ㉔ 来園者に対して、笑顔で挨拶できているか。
- ㉕ 子供と信頼関係を築いているか。（表情・笑顔、ことばのやりとり、ことばがけ）
- ㉖ 幼児の発達や生活の連続性に配慮した保育活動をしているか。
- ㉗ 保育の中で、幼児の変容を捉え、よりよいものにするために、保育を振り返り、反省・改善に努力しているか。
- ㉘ 幼児の主体性を大切にし、幼児自らが気づき、感じ、考え、判断できるような指導を行っているか。
- ㉙ 保育者は、学級全体を見て指導しているか、特に支援を要する幼児や遊び込めていない幼児への配慮は適切か。
- ㉚ 保育者の発問やことばがけは、子供の目線で対応しているか。
- ㉛ 保育をするにあたって、ふさわしい服装や身だしなみをしているか。（髪は束ねる、アクセサリなど幼児に対して衛生面、安全面を考慮する。）
- ㉜ 個人差や体調にも配慮しながら、楽しく食事ができているか。
- ㉝ 一人一人の幼児の姿を理解し、その関わり方の工夫や教師の感性や特性を生かした援助がなされているか。
- ㉞ 幼児の興味・関心・育ちに合った自由な保育の展開や豊かな発想が生かされているか。
（想像力、創造力、発想の転換、柔軟な心と動き）
- ㉟ 応答しやすい振り返り方をしているか。
- ㊱ 保育記録には、今週を終えての課題が書かれているか。
次週のスタートの足場になる。
- ㊲ 「できたこと」を褒めているか。
- ㊳ 「達成する」ことを第一義としていないか。
- ㊴ 指示語を多用していないか。
- ㊵ 月末には教育課程の見直しをしているか。
- ㊶ 「やり続けよう」とする気持ちを育てているか。（結果主義ではこうはいかない。）

- ④② 「次への課題を実感できるよう」「前の自分と比べて目標を設定できるよう」配慮しているか。
- ④③ 子供の頑張りをその場で記録するなどして、意欲づけにつなげているか。
- ④④ 口調が強くないか。
- ④⑤ 「どうやったら子供の笑顔が見えるか」を考えて保育に取り組んでいるか。
- ④⑥ トラブルの際、「こんなこと言われるとどう思う」等、全体に取りあげ、考える場に誘っているか。
- ④⑦ 文字について、4歳以前でも、「書きたい」なら、「文字を書く」機会も取り入れるとのスタンスでいるか。
- ④⑧ 4歳以前なら、「(取り組んでみての)心地よさ」を大事にしているか。
例 かけっこであれば、「○周」の正確性にこだわらない。申告を信じてやり、頑張っ「体力がついたこと」「気持ちがいいこと」を認める。
- ④⑨ 「少人数は、遊びだそうとする力が弱くなりがち」という側面があることを踏まえ、援助を考えているか。
例 作業をかえる、目新しいものを置く等、アイデアを巡らせ、何かを準備する。
- ⑤⑩ 行事から遊びの要素を考えているか。
- ⑤⑪ 椅子に座らせて話を聞かせているか。
- ⑤⑫ ほめるポイントは適切か。
例 「最後までしたのね。偉いね。」
- ⑤⑬ 保育者として、「よき理解者」「協同作業者」「モデル」「遊びの援助者」「精神的な拠り所」の役割を使い分けているか。
- ⑤⑭ 発達に即したことばがけができているか。
例 (2歳に)「おぎょうぎがいいね」、「何の絵が描いてある？」
- ⑤⑮ 子供から意見を引き出して返しているか。
- ⑤⑯ 「結果」より、「やってきたこと(経過)」を評価しているか。
例 「あきらめなかった」「投げなかった」「がんばった」等
- ⑤⑰ くやくして泣いていることを評価しているか。(貴重な感情体験)
- ⑤⑱ 保育者が感情表現をしているか。
- ⑤⑲ 子供に頼るようにして、子供にさせているか。
- ⑥⑰ 保育記録について、「遊びの続き具合」を書いているか。
例 遊びのつながり、継続して何をしたか、「かかわり」「環境」
- ⑥⑱ 人権に配慮した言動をとっているか。
例 「男子は○色、女子は▲色」「男子は力持ちで、女子は……」等決めつけていないか。
- ⑥⑲ 公民館等、近くの施設に園だよりを届けているか。
- ⑥⑳ 成功体験をさせているか。
- ⑥㉑ 当番活動をさせているか。
- ⑥㉒ 自然体験をしているか。
- ⑥㉓ 地域の人と関わっているか。
- ⑥㉔ 子供に伝える場合、保育者の顔が見える形態にしているか。

⑥7 結果を焦って結論を言わず、子供に考えさせているか。

例 「先生はこう思うけれど、みんなどう思う？」

⑥8 自分の思いを受け止めてもらえる体験をさせているか。

そうしてもらえば、人の気持ちをよく聞く。

2 【安全管理】

① その日、そのときの子供の様子や保育における安全管理について職員同士がお互いに声をかけあい、組織的に保育をしているか。

② 事故の可能性を想定しているか。

例 置いた遊具のすき間

③ 危機管理の意識が行動に表れているか。

④ ブランコの所には、事故防止の柵にあたるものはあるか。(例 プランター)

⑤ 死角がないか。

⑥ 大きな石は落ちていないか。

⑦ ラインの先に障害はないか。

3 【資質や専門性向上】

① 職員室に「教育目標」「めざす幼児像」は掲示されているか。

② 話し合いにおいて泣かないか。

③ 先輩の知識・技術を「盗んで」いるか。教えてもらうことを「待つて」いないか。

④ 研修等で仕入れた情報を共有する場を設けているか。

⑤ 子供の発達について勉強しているか。

例 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記述（子供の発達・指導計画等）が参考になる。

例 3歳児と4・5歳児に対する指示の違い

例 （賞賛すべき）何気ない姿を見落としていないか。

例 年齢による遊ぶ姿の違い

例 3歳児にはマットが有効

4 【指導案等計画】

① 筋が通った指導案を書いているか。

・「幼児の実態」と「ねらい」が連動しているか

・遊びを細かく捉えているか

② 指導案の中に書く「課題のある子供」について、その背景を探っているか。

③ 指導案の「本日のねらい」は、そのときでないと味わえない表記にしているか。

④ 幼児の実態のとらえ方、観察力、発達の見極めが、週や本日のねらいと合っているか。(それを思考する癖がついているか)

⑤ ねらいと幼児の活動、保育者の配慮等が合っているか。

- ⑥ 指導案と保育が合っているか。
- ⑦ 前回の指導が、次回に活かされているか。
- ⑧ 本日のねらいの達成に、適した工夫や援助か。
- ⑨ 本日のねらいの達成に適切な環境構成か。
- ⑩ 指導案の「幼児の実態」と「ねらい」及び「評価」が連動しているか。
- ⑪ 指導案の「本日のねらい」は、そのときでないと味わえない表記にし、「ねらい」にそった指導内容・環境の構成・留意点が表記され、指導しているか。
- ⑫ 幼児が夢中になる保育計画が立案できているか。
- ⑬ 指導案に沿った、幼児への発問がされているか。
- ⑭ ねらいを「習得」にしていないか。
- ⑮ 実態には、表面的なものだけでなく、内面の心の動きにまでふれているか。
- ⑯ 「熱心」「仲よく」など、意味を十分に考えず多用していないか。
- ⑰ 「子供の事例」「教師の手立て（援助）」「教師の願い」を書いているか。
- ⑱ 実態に「作業の速さ」を入れていないか。（人それぞれゴールが違う。）
- ⑲ 「教師のねがい」を欲張っていないか。その分、事例を膨らませよ。
- ⑳ 記録部分には、「こう読み取って、こう対応した」ということが書かれているか。
- ㉑ 教師の理屈で書いていないか。
例 「作業の速さについていけない…」
- ㉒ ここまでの遊びの変遷を書いているか。この先どうしたいかを書いているか。
- ㉓ 「人に認めてもらう」一面をねらいに入れているか。
- ㉔ 協同的学びに向かう姿（実態）を詳しく書いているか。
- ㉕ 「こういう課題がある」について、先生がどうしたか、どうするかを書いているか。
- ㉖ 「イメージに近づく」ではなく、「イメージをふくらませる」とのスタンスか。
- ㉗ 協同的な学びの場の設定をしているか。
- ㉘ 「支援を要する子」「異年齢児との交流」について触れているか。

5 【自然環境】

- ① 自然環境を多様に育てているか。
- ② 一人一鉢はあるか。
- ③ 草花が数多く植えられているか。
- ④ 自然環境に根拠があるか。
例 虫を育てるための草むら、色水の色が出やすい花
- ⑤ 実体験ができる自然環境を多様に育てているか。
例 バッタ、ミノムシ、ままごと等に使える草花、実のなる木
- ⑥ 園の自然環境が季節を感じられるような草花・野菜・樹木などが栽培されているか。
- ⑦ 飼育物や栽培物の世話を幼児が主体的にかかわれるようになっているか。
- ⑧ 飼育動植物の世話等興味や関心がもてるような環境ができているか。
- ⑨ 園舎内外に季節感があるか。

- ⑩ 地域・園・幼児の実態を生かした環境の工夫の場はどこか。
- ⑪ 遊びに使える花はあるか。
例 トレニア，ペチニア，マリーゴールド等
- ⑫ 野菜は育てているか。

6 【園内環境】

- ① 生き物の飼育観察ケースは，単に置いてあるだけでなく，幼児の生活の中に取り入れられているか。幼児が興味をもって関わるような手立て・工夫ができていないか。
- ② 生き物の飼育観察ケースが置いてある場所は，幼児の目線を考えた位置であるか。
- ③ トレイのスリッパが並べられているか。
- ④ 子供が触れる部分にほこりがたまっていないか。
- ⑤ 子供が安全・快適に生活できるために清掃・整理ができていないか。
例 床が砂でざらついていないか。手の届くロッカー等の上に物を置いていないか。
- ⑥ 日々の保育を保護者と共有できるように掲示板に写真等分かりやすく伝えられているか。
- ⑦ 整理された環境になっているか。
- ⑧ その日・その週に生かすための環境となっているか。
- ⑨ クラス日より，園日より，おたより帳はどうか。
- ⑩ 子供・保育者・物的環境・人的環境が合わさって出てくる雰囲気（空気），園の中（雰囲気）の日常的なものはどうか。
- ⑪ 何を大切にしている園か分かりやすいか。
- ⑫ 保育室や園庭の用具や素材等が幼児の心を動かし，使いたくなるように，種類や数量など整備されているか。
例 砂場用具，ままごと道具，楽器，ボールなどの教材
- ⑬ 園内，保育室の掲示物がその時期にあったものか。
例 文化・季節を感じられるもの
- ⑭ 園内の表示物が幼児の目線にあった位置に貼ってあるか。
- ⑮ 絵本コーナーが季節や行事，発達段階を考慮し，整理されているか。
- ⑯ 園庭の砂場は軟らかく，遊び道具も豊富にあるか。
- ⑰ 当日の保育に使われる教材や用具が幼児がワクワクするように準備されているか。
例 色水遊びをする場合，花や道具等材料が十分に用意できているか等。
- ⑱ 園庭での遊びの配置が，ねらいに合っているか。
- ⑲ 安全面で配慮されているか。
- ⑳ 遊具や樹木が教育に活用されているか。
- ㉑ 掲示物等も含めて，環境が，子供の興味・関心に合い，子供に分かりやすく，一人一人が安心し，安定して生活できる環境になっているか。
- ㉒ 地域・園・幼児の実態を生かした遊具の配置や準備はあるか。
- ㉓ 子供の生活とつながったものを貼っているか。
- ㉔ （片付けられる遊具について）雨風にさらすようなことはしていないか。

- ②⑤ 遊具は豊富にあるか。
- ②⑥ ぶつかって怪我をさせないように等、「幼児の空間認知力」を踏まえた場づくりをしているか。
- ②⑦ 月が変われば、即環境を変えているか。
- ②⑧ 遊具の夜露を拭き取っているか。
- ②⑨ 乗り物を置く場所の絵表示をしているか。

7 【保育室環境】

- ① 掲示を整然としようとしていないか。
- ② 黒板がすっきりしているか。
例 本日の予定（文字の大きさ、写真等）
例 「集中する」習慣づけ
- ③ 当番表を文字だけにしていないか。
例 顔写真
- ④ 読み聞かせの環境にも配慮できているか。
例 黒のボードの前で読む。
- ⑤ 文字の大きさに配慮しているか。
- ⑥ 階段にも環境の工夫はしているか。
- ⑦ 保育室の壁面環境（幼児の作品）が幼児の生活や体験とつながった作品であるか。
例 見たこともない触ったこともない興味もない作品を作らせていないか
- ⑧ 保育室の整理・整頓がなされ、幼児の生活や遊びの動線が考慮されているか。
- ⑨ 必要でない掲示物は外してあるか。
- ⑩ 整理整頓ができており、子供たちが片付けやすく工夫されているか。
- ⑪ 季節にあった保育環境ができているか。
- ⑫ 掲示物が適切で、気が散るような掲示をしていないか。
- ⑬ 製作コーナーでは、その時期、遊びを考慮した材料が用意されているか。
- ⑭ 製作コーナーでは、年齢を考慮した材料が用意されているか。
- ⑮ 製作コーナーでは、材料の出し方を考えているか。
- ⑯ 子供たちが遊び込むことができる時間と空間への配慮はあるか。
- ⑰ 自由な遊びコーナー等、子供の自主性や子供同士の関わり遊びが豊かに展開されるよう工夫されているか。
- ⑱ 発達に応じた関わりや教材、道具、用具が用意されているか。
- ⑲ 日常的に幼児が関わると思われる絵本コーナー、楽器遊びコーナー、折り紙等の教材や道具が十分にあり整理整頓されているか。
- ⑳ 幼児の作品や部屋の壁面は季節にあった掲示等がされているか。
- ㉑ 花が枯れていないか。
- ㉒ 掃除が行き届いているか。（安全面・衛生面）
- ㉓ 作品を何もかもラミネートにして掲示していないか。
- ㉔ 目に優しい色（例 淡い色 黄緑・オレンジ等）が使われているか。

- ②⑤ 呼びかける掲示に否定語を使っていないか。
- ②⑥ 「数の記録」は、「正確性」より、「頑張った自分」に重きを置いているか。
- ②⑦ 読み聞かせる場合、示した（絵）本を動かしていないか。
- ②⑧ 「心を耕す」本を集めているか。
- ②⑨ 「その子に合った本」という視点から、選書しているか。
- ③⑩ 教師が手を加えすぎているか。
- ③⑪ 用具の片付けの絵表示をしているか。

8 【遊び】・【教材研究】

- ① ピアノを弾いているか。
生活の中で、音との出会いを豊かにする。
「歌う」ことがもつ「気持ちを落ち着かせる」「家庭とのつながりを深める」「安心感を高める」効果等
- ② 材料を豊富に用意しているか。
- ③ 多様な材料を用意しているか。
例えば、それ自体、或いは二つつなげただけで、何か連想できるか。
- ④ 子供だけで遊べる環境構成をしているか。
例 「先生、先生」と言われないように。
- ⑤ 「自由遊び」と「設定保育」が相互補完されているか。
例 「設定保育」で生まれた興味・関心が継続できる環境構成を。
例 十分達成できなかったことを「設定保育」で。
- ⑥ 子供の遊ぶ姿に追随していないか。
- ⑦ 試行錯誤させているか。
例 「こうやったらこうなる。こうやったらこうなる。どっちにする？」
- ⑧ 保育者が受け止めたことを子供に返しているか。
- ⑨ 遊びの区切りを子供に決めさせているか。
例 「もう、これでいい？」
- ⑩ 子供の世界を大切にしているか。
- ⑪ 待ち時間が長くなっていないか。
- ⑫ 外遊び……汚れることを厭わない子供を育てているか。
- ⑬ 全ての指を使うように、遊びが仕組まれているか。
- ⑭ 遊びの種類を増やすより、しているものの中で考えることをさせているか。
- ⑮ 個別の遊びの対応は易しいが、集団遊びの難しさを自覚しているか。
- ⑯ 遊びへの対応が「巡回」になっていないか。
- ⑰ 子供と「共に遊びを創って」いるか。
- ⑱ 砂場を頻繁に掘りおこしているか。
- ⑲ 製作した満足度を高める反応ができているか。
例 砂団子を作った子に……「置き皿を渡す」……並べたくなる……飾りたくなる

- ⑳ イメージに「のっかる」環境構成をしているか。
例 池…青いビニール
- ㉑ 「次」を意識できる環境構成や意識づけがなされているか。
例 遊びの続き
例 (共にしていた場合) 年少に教える 等
- ㉒ 保育者が入っていくべきタイミングと子供に任せるタイミングを区別しているか。
- ㉓ 生き生きと遊んでいるか。
- ㉔ 保育者の表情はどうか。
- ㉕ 保育者のことばがけはどうか。
- ㉖ 子供たちが自発的に目的をもって遊びに取り組み、楽しんでいるか。
- ㉗ 遊びが見つからず、一人で過ごしている幼児への配慮や援助ができていますか。
- ㉘ 振り返りが形式的になっていないか。
順番に延々と発言させるかたちになっていないか。
- ㉙ 振り返らせる際、努力を認める反応ができていますか。
- ㉚ 賞賛する際、ねらいに応じた評価言を返していますか。
- ㉛ その日の体験(遊び・生活)が、家庭や次の日の園生活へつないでいくことができるような工夫をしているか。
例 帰りの会・家庭との連携・柔軟性のある保育計画等
- ㉜ 子供が考える場や、試行錯誤する場があるか。
- ㉝ 年齢に配慮した砂場及び用具等が準備されているか。
例 3歳……滑らかな状態
4, 5歳……起伏に富んだ状態
例 3歳……使いかけのような状態(使い方のイメージがわくように)
4, 5歳…収納箱等に入れられた状態
- ㉞ フルーツバスケットでは、「色別」に分かれて、「色カード」をもたせて取り組む等の配慮をしていますか。
- ㉟ 事前に製作をして確かめているか。
- ㊱ 用具等を雑に扱わせていないか。(一つ一つが命)
- ㊲ 目的を与えることばがけをしていますか。
例 (砂場での山づくりにて)「どっちが高い山？」
- ㊳ ブランコの補助に入ったときに、前後に揺すっていないか。
- ㊴ 「先生にひきつける」のではなく、「子供がし始めたことに寄っていき、みんなに広げているか。」先生の指導性の中で楽しませてはいけない。
- ㊵ 次々と考えてくる遊びを整理しているか。
そのときに、指導性を入れているか。
- ㊶ 「先生—子供」の関係を、「子供—子供」にしていっているか。
- ㊷ 遊びの中のどこで「ルールが生まれるか」を見抜いているか。
- ㊸ 遊びを教えているか。

- ④④ 遊びの中で、人と人とをヨコにつなげているか。
- ④⑤ 異年齢児の交流の場合、上の学年に「やさしさ」「思いやり」が育つよう援助をしているか。
- ④⑥ この遊びが、小学校の何につながるか考えて関わっているか。
- ④⑦ 自然物とふれあう遊びを取り入れているか。
- ④⑧ ことばの数を増やす手立てが盛り込まれているか。
- ④⑨ 「自分のことは自分でする」ことになっているか。
- ⑤⑩ 遊びが深まることばがけができていないか。
- ⑤① 室内の遊びを屋外に出す工夫をしているか。
- ⑤② 製作をする場合、普段の遊びの中で似たものを作って、イメージをわかせているか。
- ⑤③ 自由にさせるばかりではなく、「選ばせる」ことをしているか。
例 好きな長さに切る ⇒ 長い・中間・短いもの3種類を用意して選ばせる。
- ⑤④ 製作において、「し直し」ができる工夫があるか。
- ⑤⑤ 遊びの残りを置いておくことができているか。「置いておくもの」「片付けるもの」の区別ができていないか。
- ⑤⑥ よく体を動かさせているか。

9 【子供の姿より】

- ① 教師に自分の思いをことばや態度で伝えることができているか。
- ② 環境に興味、関心をもってかかわり遊び込んでいるか。
- ③ どのようなところに心を惹かれ遊んでいるか。
- ④ 集中して遊びに取り組んでいるか。
- ⑤ 遊びがその日限りの活動か、連続した遊びになっているか。
- ⑥ 座ってて股を開いていないか。⇒体幹が弱い。
- ⑦ スムーズに遊んでいるか。
- ⑧ ひとりぼっちの子がいないか。
- ⑨ 子供が次々と要求しているか。(対応していると出てくる)
- ⑩ やりたい遊びができているか。

10 【幼児理解】

- ① 全体・個々双方で、子供たちを理解し、指導できているか。
- ② 子供との結びつきはあるか。(例えば「笑顔」)
- ③ 子供の行動の意味を理解しているか。
例 何に興味をもっているか。
例 何を表現しようとしているか。
例 何を感じているか。 等
- ④ 挨拶に「自己」が現れていることを自覚し、心理を読もうとしているか。
- ⑤ 子供の目線に合わせて対応しているか。
- ⑥ 幼児の行動や声をしっかり聞いたり見たりして、一人一人の実態を把握し、指導に臨んでい

るか。

- ⑦ 幼児の言動や表情から、思いや考え方などを理解しようと努めているか。
- ⑧ 気になる子供はいないか。その子供への関わりを多くの先生方が知って対応しているか。その子の良いところを見て、クラスがまとまっているか。
- ⑨ 「教えよう」とする思いをおさえ、その場その場で幼児の思いを汲み取ろうと努力し、思いを共感・共有したりしているか。一番の理解者でいようとしているか。
- ⑩ 「心で聞く」…そのような言い回しも織り交ぜているか。
- ⑪ 《教師のかかわり》一人一人の幼児理解に努め、一人一人の良さを認めることばや、その子その子に合ったことばがけ、「やってみよう」と意欲がもてるようなことばがけができているか。

- 姿勢保持能力
筋緊張, 姿勢背景運動 (姿勢のセット)
- 巧緻動作
眼球運動 (視線), 手指機能 (書画等), 構音 (発音等)
- 粗大運動
協調運動, 順応性の動作, 模倣
- 感覚調整
覚醒水準, 注意, 感覚刺激に対する低反応か過反応性
- 認知特性
言語及び視知覚能力
- 社会性
共感性, 社会的認知と自己調整能力
- 教師または保育士の認知スタイルと感覚特性
児の特性とマッチしているか。

- a 子供の発達の状態。言語・身体・社会性などが年齢集団として対応できる状態かどうか。
- b 言語に関してはコミュニケーションがとれるのか、とろうとする意欲があるのか。
- c 言語面では発音がどうか。
- d 身体に関しては、手の使い方、目と手の協調運動、バランス、リズムなどがどうか。
- e 社会性に関しては、相手の意図をどの程度理解しているのか。
- f 基本的な生活習慣をどの程度身に付けているか。
- g 人間関係に関しては、初対面にもかかわらず関わりを持とうとする行動が強い子供に関して、主として以下の内容 (a～f) について、特に気にして観察をする。
(観察した後) 特に教育的ニーズの高い子供のための保育環境がどうか。何かを利用する工夫があるか。

- ⑫ この子が何をして遊びたいか把握しているか。

11 【個に応じた対応】

- ① 特別に支援を要する子供に対する環境構成に配慮しているか。
- ② 支援の先生との連携、特にアイコンタクトをしているか。

- ③ 「人に譲れない」子に対して、譲るタイミングを自分で決めさせているか。
- ④ 先生によって態度を変える子供に対して、感情を出して接しているか。
- ⑤ 成長の早い子には、「その子に合う子」を探しているか。
- ⑥ 拗ねる子に対して、自分のことばで言えるようにしているか。
- ⑦ 相手が固定化する子供に対して、手を打っているか。
例 保護者と連携をとっているか。先生が入り、他の子も引き入れる等の働きかけをしているか。
- ⑧ 「集中力の乏しい子」に対して、「短い指示」「その日の保育の流れを伝える」「一対一で話す」「絵表示など視覚的に配慮する」等をしているか。
- ⑨ 友達に対して意地悪をした際、「～されたら辛いよ」等、された方の心情を代弁して伝えているか。
- ⑩ 支援を要する子の態度に対して、ねらいと連動した対応をしているか。
例 歌う時、机の下に入る子に、「そこで音を出してくれてたのね」と、あくまでねらいに沿った対応をする。
- ⑪ 「集中力の乏しい子」に対して、ときには「気分転換」も提案しているか。本人に決めさせているか。
- ⑫ 「～したい」と先をとる子に対する対応ができてきているか。
例 「どんなにしたら仲よく遊べるか。」と問い、みんなと考える場を設定する。
- ⑬ 粗暴な子供に対する対応ができてきているか。
例 一人の保育者がついて、いいところを見つけ続ける。
- ⑭ トラブルの際、分析をしているか。
例 「取り合い」か？ 「考え方の違い」か？
- ⑮ 「最後までさせる」ことにこだわっていないか。気がそれたら仕方がない。
「みんなと同じときに、同じことをさせる」と考えない。
- ⑯ 両手でのりづけしている子に、適切なことばがけをしているか。
例 「このおててだけで、のりつくよ。」
- ⑰ 曲に合わせて踊らない子に、適切なことばがけをしているか。
例 どうしてこの曲を使うか話しているか。
- ⑱ 明日の遊びへの見通しをもたせているか。
例 「明日は～を使って、こうして、～を作るよ。」
- ⑲ その子が楽をする支援をしていないか。
その子がどこまでできて、どこまでできないかを把握してから補助をしているか。
- ⑳ 話し方がたどたどしい子に「吹く経験」をさせているか。
- ㉑ 「少し手伝って、残りをさせる」の危険性を考えているか。
その分しかできないようになる危惧もある。手を添えてでも、自分でさせたい。
- ㉒ トラブルの際、「どうすればよいか」を教えているか。
- ㉓ ポジティブ支援をしているか。(できているときに関わってやる。)
- ㉔ 暴力をふるう子に対して、「我慢できている」ときに褒めているか。

話をきいてやっているか。

他の教員の前でそうになって、対応に困ったときは、止めておいて、他の子に担任の先生を呼んでもらう。

- ②⑤ 配慮することは、先に保護者に伝えているか。

保護者に伝える場合、他の子からシビアな反応が返ってくることも前もって言うしておく。

「親は乗り越えなければならぬ」「周りも乗り越えなければならぬ」

- ②⑥ 特別に支援を要する子供の場合、「決められた遊びの方が落ち着く」一面があるということを知っているか。

12 【保護者対応】

- ① 保護者に対して、「すみません」を多用していないか。

- ② 保護者も褒めているか。

例 「お弁当おいしそう」「よく働いている」等

- ③ 「できていないこと」だけを伝えているか。

例 「今まで謝れていなかったのに、今日は言えたのよ。」……今までできていなかったことをさりげなく伝える。

- ④ 園で対応したことを、家庭で繰り返さない配慮をしているか。

例 「幼稚園で言っているから、家では怒らないでね。本人が言ってきたら聞いてやって。」

- ⑤ 自分の保育観をしっかりとって、保護者に伝えたり、学級経営に生かしたりしているか。

13 【職員間】

- ① コミュニケーション力をもって、共通理解ができているか。

- ② 報告・連絡・相談ができているか。

- ③ 若い先生、パートの方、給食担当の方々が生き生きとしているか。

- ④ 保育者同士の人間関係がうまくいっているか。

- ⑤ 保育者同士が自然な会話をして、よい雰囲気か。

- ⑥ 協力体制や学びの姿勢が生かされている場面はどこか。

・研修体制 ・職場での学びリーダーの育ち ・個々の学びへの意識の高まり
個々自らの気付き→必要感→学びへの意識の高揚→学びの成果と定着

14 【預かり保育】

- ① 預かり保育の意義・効果を理解して臨んでいるか。

(保護者)

- ・我が子に対して穏やかになれる。
- ・自分のために使う時間が増える。
- ・周囲の人に感謝するようになる。 等

(子供)

- ・家庭にない遊びができ、生活の幅が拡大する。

- ・異年齢との関わりが経験できる。
- ・精神的に安定し、積極性や自信が生まれる。
- ・通常の保育において見られなかった違う一面が伸びる。 等

- ② 保護者が安心して仕事に打ち込んでいるか。
- ③ 担任や友達関係が変わっても、人との関わり方が豊かになっているか。

3. 「Q & A集（仮題）」作成に向けて

アドバイザー・スーパーバイザーの経験・識見により、現場の困り感を軽減し、要望に応える「Q & A集（仮題）」の作成を計画している。今年度は、現場における問題意識の内実の把握に努めた。

例えば、県教育委員会主催の研修会等において、アンケートを実施した。集まった内容を経験年数別に挙げると、次のようになる。

○…指導法・知識	●…環境	◎…個に応じた対応
△…連携・接続	□…保護者対応	◇…その他

(1) 経験年数 1 ～ 5 年

- 制作や描画活動について学びたい。
- 集団遊びについてもっといろいろな種類を知り、身に付けたい。
- いろいろな集団遊びについて知りたい。
- 遊びと、そこから学ぶもの、幼児の体の発達、そこへのアプローチ方法などについて学びたい。
- 遊びや声かけのバリエーションを増やしたい。
- 製作遊びやリズム遊びをもっと知りたい。
- 実技で園生活に生かせることを学びたい。
- いろいろなごっこ遊びについて知りたい。
- 遊びや声かけのレパートリーを増やしたい。
- 現場ですぐに使える製作や造形遊びについて知りたい。
- 子どもとのそうじの仕方いろいろな技法などについて知りたい。
- 子ども一人ひとりに対応や保育をする時と、全体や集団で保育をする時の切り替えの仕方やコツについて知りたい。
- 製作活動の過程を知りたい。
- 絵画の深さを子供達にどのように伝えるか、絵で、表現させるか。
- 子供達と製作をしていく上での技法について知りたい。
- 環境設定の具体についてもっと勉強したい。
- 季節・時期ごとの環境設定を実際に見せてほしい。
- 壁面環境について知りたい。
- 環境構成について勉強したい。
- ◎ 特別支援のことについて、もっとじっくり知りたい。

- ◎ 特別支援について、もっと詳しく勉強したい。
- ◎ 不安で、造形遊びに加わりにくい子どもが楽しめるような造形遊びについて知りたい。
- ◎ 年齢に合った遊び。
- ◎ 年齢に応じた遊び。
- ◇ 子ども主体にするためには、どうすればよいかもっと知りたい。
- ◇ 日々の保育準備にどのような変化・発展をつけていくべきか。

(2) 経験年数6～10年

- リズム・表現遊び・ピアノ伴奏を教えてほしい。
- 集団遊び・手遊び・製作・リズム劇などについて知りたい。
- 保育の実践事例などの具体的なことを知りたい。
- おすすめのリズム遊びや運動遊びについて知りたい。
- 遊びに生かせる栽培物や植物について知りたい。
- 集団遊び・表現について知りたい。
- 様々な集団遊びについて知りたい。
- 年少向けで実際の保育に生かせる実技を知りたい。
- ◎ 各年齢に合った集団遊び・工作遊び・伝承遊びについて知りたい。
- ◎ 特別支援教育について、もっと勉強したい。
- ◎ 支援が必要な子どもの集団生活について知りたい。
- △ 具体的に接続に向けて何をすればよいのか知りたい。
- △ 「10の姿」の具体的な捉え方について勉強したい。
- △ 小学校の先生方との交流や研修の機会があれば、もっと連携・接続について見えてくるのではないか。
- 保護者対応について勉強したい。
- ◇ 最近接領域などの知識を現場の人間という立場でもう一度学び直したい。
- ◇ 保育者としての、保育についての考え方や心構えの身に付け方について学びたい。
- ◇ それぞれの園での保育案や環境作りについて情報交換したい。
- ◇ 新教育要領についてもっと勉強したい。
- ◇ 木下先生（徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー，鳴門教育大学院教授）の保育現場の事例や記録の取り方，まとめ方を学びたい。
- ◇ 行事に追われ、子どもが主体的に遊ぶ時間の確保ができない。時間の使い方について教えてほしい。

(3) 経験年数11～19年

- 手遊びや絵本について学びたい。
- ◎ 保護者・地域への発信の仕方について具体的に知りたい。
- △ 具体的な記録の方法について知りたい。
- △ 連携と接続を詳しく学びたい。

- ◇ 辻本先生（鳴門教育大学附属幼稚園教頭）の事例や動画を見てみたい。
- ◇ 新教育要領について研修したい。
- ◇ 子ども主体の進め方や方法について見返す機会をもちたい。
- ◇ 保育カンファレンスについてもっと学びたい。

(4) 経験年数20年～

- △ 子供達の姿を深く読み取る力をもちたい。
- △ 記憶を記録に残すことをもっと学びたい。
- △ 記録の取り方について学びたい。
- △ 小学校への接続について、どう変えていけばよいのかももっと考えたい。
- ◇ 臨時教員や職員への伝え方について学びたい。

経験年数1～5年では、指導法やそれに関わる知識・情報（○印）が最も多く、個に応じる保育のあり方（◎印）についても問題意識が多いと見受けられる。そして、経験を重ねるうちに、分野が広がり、教職20年を超えると、連携・接続に関わる内容（▲印）や園の運営に関わる内容のみとなり、傾向が変わっている。このような傾向の推移も踏まえ、いずれの経験年数の保育者の問題意識にも対応するよう準備を進めることが求められる。

また、訪問指導の際、各現場から求められた応じた協議事項を、大まかに分類し、以下に挙げる。これらの内容も参考資料としたい。

【指導案】【保育記録】

- 指導案の書き方（経営方針や保育観・幼児観の書き方）は。
- 子供の姿が見えてくるような指導案の書き方とは。
- 「ねらい」「姿」「援助」「反省」を分かりやすく配した週録の書き方とは。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、指導計画や記録等に生かせる表記方法は。

【遊び】【環境の構成】【保育者の対応】

- 環境構成（製作の際の材料、材料の置き方、素材の大きさ、机の配置等）は。
- 「子供と遊びをつくる」とは。
- 保育者に必要な力とは。
- 学級活動を選ぶ際の観点は。
- 子供同士の遊び（のイメージ）をつないだり、遊びを広げたり、考えを引き出したりするような言葉がけは。
- 集団で遊ぶことに誘う工夫は。
- 子供の心情を育てる言葉がけとは。
- 共に遊ぶときの保育者のスタンスは。
- 遊具の準備数についての配慮事項は。

- 子供が「待つ」、子供を「待たせる」ことについて留意しておくことは。
- 言葉の発達を促すためには。
- 異年齢児が合同で遊んだり活動している場合の留意点は。
- 製作の場合に生じる時間差への対応は。
- 健康な体づくりにおいて留意すべきことは。
- 製作の際の安全な動線とは。
- 製作の際の言葉がけとは（技術的な指導に終始することなく、意欲を高める言葉がけとは）。
- 「はさみ」や「のり」を使用する際の配慮事項は。
- 製作において必要なこと（場の設定、保育者の対応等）は。
- 遊びの中で生じた「文字」「数」の違いへの対応は。
- 遊びの延長としての片付け方とは。
- 片付けやすい環境の構成とは。
- 子供のコミュニケーション能力を育てるには。
- 幼児が見通しをもって生活するようになるには。
- 「遊び」の中の「学び」とは。
- 望ましい絵本の読み聞かせ方は。
- 幼児の主体性と教師の指導性のバランスとは。
- 遊びの中で子供が目標を設定できるような工夫は。
- ルールのある遊びにおける配慮事項は。
- 遊びの中で起こる争いの捉え方及び対応は。
- 成功体験と失敗体験の捉え方について。
- 様々な感情体験に対する捉え方は。
- 幼児間の力関係の固定化への対策は。
- 年齢を考慮した野菜の栽培とは。
- 掲示をする際の留意点は。
- 飼育動物について。

【気になる子供への対応】

- 「入園当初から全く言葉を発しない幼児」への関わり方は。
- 「幼児同士或いは大人の関わりにおいて受け答えしない幼児」への関わり方は。
- 「活動が中途半端に終わる幼児」の対応は。
- 「集団行動が苦手な気になる子供」の対処方法は。
- 「こだわりがあり、集団で行動することが難しい、思い通りにならないと癇癢を起こす幼児」への指導方法は。
- 「児童養護施設から登園しており、人の気を引くような言動をとったり、不安定になって泣き出したりする幼児」への対応は。
- ドキュメンテーションとは。
- 「依頼心が強い幼児」への指導方法は。

- 「特定の友達とトラブルになる幼児」の援助の仕方とは。
- 「一人遊びが多く、友達の遊びに入ってもすぐに離れてしまう幼児」の援助の仕方とは。
- 支援学級と協力学級の関係において留意すべきことは。
- 支援を必要とする幼児の保護者との連携の仕方とは。
- ことばの教室の指導案の書き方は。
- 自尊感情が低い子供への対応は。

【連携】

- 保育所との連携について留意することは。
- 認定こども園として、4歳児、5歳児を小学校へどのようにつなげていけばよいか。

【幼稚園教育要領等】

- 新幼稚園教育要領等を踏まえた教育計画や日々の保育の留意点は。
- 幼稚園教育要領等について、新旧の相違点は。
- カリキュラム・マネジメントの具体例は。
- 幼児期にふさわしい生活とは（小学校の準備期間と混同しないためには）。

【研修】

- 経験の浅い職員構成に対する園内研修のもち方や職員研修は。

【保護者対応】

- 保護者の幼稚園教育に対する関心を高めるためには。
- 基本的な生活習慣や生活リズムへの大切さについて、家庭への啓発の仕方とは。
- ことばの教室における保護者の対応は。
- 「幼稚園での様子を細かく知りたい」保護者への対応は。

【子育て支援】

- 預かり保育の意義とねらいとは。
- 子育て支援のありかたとは。

【園の実態】

- 少人数園の利点は。
- 混合クラスの経営の留意点は。
- 教員が少人数の園における危険等発生時の対応は。

4. 安心できるアドバイザー業務のために

アドバイザーからは、年3回の一堂に会するアドバイザー会議・研修会の際に、意見をうかがった。慣れない場所・面識のない園・保育者を相手に1日過ごすことも多いため、身体的・精神的負担は常に気にするところであった。いただいた意見は、保育・幼児教育センターの運営上の課題であり助言であることも多い。迅速な対応をとることができたものもあるが、今後の課題として積み残したものもある。アドバイザーに安心して業務に取り組んでいただくうえで、貴重な資料となった。

(1) アドバイザーの業務の中で実感したこと

- 一人に対する指導が、周囲の先生への刺激となったり、園全体（園長からの相談も含めて）に良い影響をもたらすこと。
- 指導に汎用性があること。行かなくても、考え方・見方を指導する。
- 事前の詳しい説明がほしい。
- 指導者から話を聞くだけでなく、各自が意見を出し合うような形態でもよいのでは。
- 様々な変化の時代であっても、「このような先生であってほしい」「このように関わってほしい」という思いをもって、教師の姿勢について伝えていきたい。
- 各クラスや職場の職員間のコミュニケーションが円滑であることが、共通理解や協働性を高め、互いに支え合い、日々創意工夫しながら取り組むことが、若い方々の向上心につながっていく。
- まずは現場に、アドバイザー業務を理解していただくのが重要ではないか。
- 保幼小と地域の連携がスムーズにいくようネットワークづくりのお手伝いができる。
- 質問を受けたときに、質問者の気持ちになって、ほっとしたり、安心できるようなアドバイスをする力が必要だ。
- 一度の出会いでは緊張しているため、複数回通うことが望ましい。
- 子供の育ちや保護者をめぐる環境が変化している中、新規採用教諭への助言を通して、園の役割や機能を再認識したり、保育内容全般の改善充実につながっている。
- 現場に対して、幼児教育の大切さや保護者の指導者としての意識を高めることの必要性を感じた。
- 発達或いは子供の特性をどう捉えるか。
- アドバイザーの発言は参考であり、各幼稚園の学びの実態を受け止め、認めながら、更に、園の学びの自立に向けて方向性を示唆できるようにしたい。

(2) アドバイザー業務に必要と感じたこと

- 文部科学省や全国規模の大きな大会への参加しての勉強。
- 法令・資料等を早めに手にしたり、見に行き研修できるような段取りやお知らせを手に入れたりすること。
- 幼稚園教育要領等の勉強。
- 人の心を揺り動かす説得力。
- 心に残り、気を付けて実践していこうという気持ちにさせる力。
- 現場の苦勞を理解し、励まし、幼児教育を子供とともに楽しむ日々を過ごせるように願う姿勢。
- 一方的な指導で展開されるものではなく、気付きを促し、学ぶ姿勢を引き出せるように心がけることを基本とし、不安や悩みを聞く力と、保育スキルを分かりやすく気付かせる保育の資質と「今」の状況を把握し、時代の流れも理解できる能力。
- 知識を専門的に広く深くもつこと。
- 人間性を高めること。

- ありのままを自然に受け止める目と姿勢をもつこと。全面的に受容する心。
- 的確にアドバイスをするための自主勉強。
- 幼児教育の動向や現状を知ること。
- アドバイザーを園サイドが活用しやすくするためには、どうすればよいかに対する案。
- 各年齢に合わせてできる助言。
- 何をどのように伝えるかに配慮した伝え方。
- 相手が「明日から頑張ろう」と思える指導。
- 指導者としての保育内容全般への観察眼と指導力。
- 保育経験者としての失敗談や成功事例等を通しての説得力。
- 地域性を意識した保育についての知識。
- 発達のマイルストーンをおさえた説明。
- 姿勢、運動発達、認知・言語発達、社会性の発達について、標準化された検査の結果を、日常の活動の中で評価・説明できること。
- 一人一人の標準は違うことに注意すること。

(3) アドバイザーの業務に必要な資料

- 市町村の特徴を反映した成果の上がっていると思われる行事や遊び。
- 望ましい指導案の書き方
- スピーチの考え方&実例
 - 具体例 ・子供たちに向けて ・保護者に向けて ・地域に向けて
- 環境等、他園でのよいところ・特徴を参考にできるように、写真等で紹介し、情報交換ができる手立て。
- 各アドバイザーからの声をまとめたもの。
- 教育と保育の違いなど理解できる資料（幼稚園と保育園の共通理解強化のため）
- 分かりやすい危機管理とリスクマネジメントに関する資料
- 遊びの事例集
- 保・幼・認定こども園の保育実践の集録
- 園内研修会の持ち方についての資料

成果と課題

【成果】

1. 訪問指導先の施設の拡大

昨年度にはなかった私立幼稚園、私立幼保連携型認定こども園、保育所型の認定こども園にも訪問の機会をいただいた。このような訪問施設の拡大には、本事業の広報の場をくださり、さらには案内・アンケート等の配布にその都度御尽力くださった徳島県保育事業連合会の支えが大きい。また、徳島市私立認可保育園連盟園長会のように、「もっと詳しい話を聞かせてほ

しい」と改めて場をくださる団体もあった。県内「全ての幼児に提供される質の高い幼児教育」実現のために、所管をこえた連携に理解・協力してくださる方々に多く出会うことができ、今後の連携強化への明るい材料となった。

2. 市町村教育委員会との連携

各市町村教育委員会には、前年度同様、案内配布やアンケート配布・取りまとめの作業に協力をいただいた。さらには、指導主事をはじめとした幼児教育担当の方々には、事業を一早く利用する、保育・幼児教育センターの業務に新しい提案をする、地域の要請等について情報をくださるなど、積極的な御協力をいただいた。

3. アドバイザー・スーパーバイザーによる訪問指導の効果の明確化

前掲のように、昨年度の訪問園と今年度の訪問園に対して、アンケートを実施した。前者に対しては、昨年度の訪問が今年度の園運営や保育のどの部分に生かされているか、後者に対しては、訪問後の園運営や保育等について確認を図った。その結果、訪問指導により、保育者に、自らの保育に対する意味づけがなされ、望ましい保育のありようを知り、自信を強めたことが明らかになった。

4. 訪問に対する園長・所長の意識の変化

園内・所内において外部から保育を見られることへのためらいもあるなか、自らの専門性を向上させるためにと判断した所長・園長のリーダーシップにより訪問が実現した経緯を多く耳にした。また、訪問を経験した園長・所長が、会合等の場で、訪問の効果や意義を積極的に話題にしてくださったことが新たな要請につながるなど、「口コミ」により、訪問の話がまとまる場合もあった。

また、ある特定の個人への指導が訪問要請の目的であったが、せっかくの機会だからと、他の保育者も参加ができるよう勤務に配慮を加えてくださる園長も見られた。

5. アドバイザーによる訪問（指導）形態等の多様化

要請に対して、どのアドバイザーを派遣するかも悩むところであるが、要請のあった地元出身のアドバイザーに依頼することにより、次のような効果も見られた。

- ① 訪問の際に、身近な園にも参加をよびかけて合同で勉強する場に誘う。
- ② 訪問で気になった案件について、その後、何度か訪問（数時間単位）し、保育の様子や子供の姿の変容等から、指導内容の効果を確認し、継続的に関わっていく。

これらの事例に見られるように、アドバイザー自らが訪問園に働きかける新たな指導形態も実現した。地元出身のアドバイザーの場合、訪問園の者と旧知であるため、提案もしやすい。また、②の場合だと、訪問される側は、「続けて見てほしい」と気安くお願いできる。

6. アドバイザーのヨコの連携

今年度、アドバイザーを17名増員した。初めての業務に不安を口にする方もおり、事務局

が手厚い対応をしなければならないところであるが、昨年度からのアドバイザーが新アドバイザーの相談に応じたり、ときには共に訪問指導に行ってくださいたりするなど、ヨコの連携が見られた。

7. アドバイザー・スーパーバイザーの指導内容の蓄積

前述のように、来年度作成を目指し、「訪問指導の手引（仮題）」「Q&A集（仮題）」の基礎資料として、アドバイザー・スーパーバイザーの指導内容と随時蓄積することができた。

8. 大学・附属幼稚園等との連携

スーパーバイザーは、県内教員養成大学の教員5名と国立大学附属幼稚園長の6名で構成した。徳島県幼児教育推進連絡協議会（徳島県幼児教育振興アクションプラン推進連絡協議会）委員、徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員等を務め、もとより、本県の幼児教育振興に協力いただいていた方々である。本調査研究において、さらに次のことにも御尽力いただいた。

- ① アドバイザー研修における講話・示範等
- ② 保幼小連携推進モデル事業における訪問指導・協議会運営
- ③ 情報収集に足を運び、最新の情報の提供
- ④ スーパーバイザー会議において、幼稚園等教員育成指標の作成、本調査研究を検証するためのアンケート作成・結果分析 等

このように、さらに連携が強化された。

【課題】

1. 市町村との連携

【成果】2で述べたように、本調査研究を進めるにあたり、各市町村教育委員会は協力的である。ただ、アドバイザー事業については、保育・幼児教育センターから明確な協力内容を示し、依頼することができなかった。

そのような状況のなか、ある教育委員会では、担当指導主事・地元出身のアドバイザー・園がつながった事例が報告された。訪問においてアドバイザーが把握した状況を、担当指導主事に伝えることにより、今後の行政面からの支援を考察する際の参考とすることができる。昨年度の場合、幼稚園の訪問に関しての気づきは、年度末の県教育委員会学校教育課による各市町村教育委員会訪問の際の伝達事項に折り込んでいたが、スピード感に欠ける事務的な伝達に終わっていた。前述の事例の迅速性には学ぶところが多い。このように、市町村教育委員会との連携のかたちを多様化する必要がある。

2. アドバイザー研修の充実

保育現場からの多岐にわたる質問にアドバイザーは対応しなければならない。例えば、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領への理解や、多様化する子供・保護者への対応、ICTを取り入れた保育等、新たに学ばなければならない内容が急

増している。そのために、アドバイザー会議・研修の場を設定したが、アドバイザーの人数が多いため、一堂に会することが昨年度以上に困難になった。事務局が資料を作成し、会議で配布したり、送付したりすることも行ったが、安心して業務をしていただけるだけのサポートができなかった。アドバイザーの負担に配慮したサポートを模索している。

3. アドバイザーの人選

地理的なバランスを考慮しつつアドバイザーを増員したことにより、遠距離の移動を依頼することは減少した。また、専門的な知識・技能をもっているアドバイザーを増員したため、訪問先の要請に応じることも可能となってきた。しかし、訪問先の要請と、近くに住むアドバイザーがもつ専門的な知識・技能が必ずしも一致するわけではない場合もあった。「移動への負担より要請に応じる専門的な知識・技能」を重視した人選とするか、「要請に応じる専門的な知識・技能より移動への負担」を重視するかは判断が難しい。後者の対策としては、アドバイザー研修の充実となるが、そうすると、【課題】2と重なってくる。

4. アドバイザーの補充

アドバイザーを多数とした背景には、【課題】3に挙げた意図の他に、本調査研究終了後を見据えての意図もある。各地域における、保育・教育の経験豊富な方々に対して、指導的役割を担うための研修を積んでいただけておくことは、各地域の人材活用に資するものと考えている。しかし、本調査研究において、保育士出身のアドバイザーの確保は課題となっている。これまでは、スーパーバイザー・アドバイザーの人脈を頼りに人数を増やしてきた。

今年度、こども園や保育所の訪問に際し、幼稚園教諭出身のアドバイザーと保育士出身のアドバイザー両者に依頼したことがあり、互いに得るものがあったとの感想をいただいていた。このように、別の視点で保育を見つめ、意見を交流することも意義深いことである。その意味でも、保育士出身のアドバイザーの確保は急務である。

5. 「訪問指導の手引（仮題）」の内容の精選

【成果】7で述べたように、「訪問指導の手引（仮題）」は、訪問指導におけるアドバイザーの指導言を基礎資料としているが、限られた訪問時間のなかで発せられたものだけに、保育全般をまんべんなく網羅した内容という点では課題が残る。

6. 本調査研究の検証

今年度は2回のアンケートを実施した。

1 度目……県下全施設に対し、「幼児教育推進体制構築事業」の認知度について

2 度目……昨年度・今年度の訪問園に対し、訪問指導後の園運営・保育等について

2 度目について、大まかな質問項目に対して、それぞれ5段階で回答を求め、さらに自由記述を依頼した。質問項目が適切であったかとの検証と自由記述の分析が不十分であったことは否めない。

■ 推進事業の資料

資料 1 徳島県における幼児教育の状況

徳島県における幼児教育の状況

〔乳幼児数の変化〕

H29.4 確認統計戦略課「年齢別推計人口」(人)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
0歳児	5,852	6,038	5,865	5,813	5,720	5,822	5,767	5,505	5,446	5,462	5,211	5,216
1歳児	6,135	5,964	6,146	6,013	5,973	5,589	5,965	5,889	5,699	5,572	5,165	5,345
2歳児	6,328	6,153	5,930	6,139	6,021	5,722	5,595	5,979	5,896	5,701	5,222	5,159
3歳児	6,605	6,331	6,131	5,928	6,140	5,845	5,773	5,615	6,006	5,893	5,366	5,214
4歳児	6,380	6,597	6,333	6,123	5,925	5,989	5,838	5,784	5,621	6,018	5,516	5,373
5歳児	6,996	6,870	6,577	6,302	6,141	5,818	6,001	5,846	5,744	5,598	5,606	5,518
計	38,796	37,953	36,982	36,318	35,920	34,785	34,939	34,618	34,412	34,244	32,086	31,825

〔保育所設置状況・入所園児数(0歳～5歳)〕

H29.4 次世代育成・青少年課調べ

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
施設数(園)	223	220	217	214	213	214	216	214	209	198	188	180
入所園児数(人)	13,979	13,706	13,590	13,579	13,821	13,961	14,327	14,523	14,821	13,861	13,172	12,651

※平成27年度からは、幼保連携型認定こども園を除く。保育所型認定こども園を含む。

〔幼稚園の設置状況〕 ※休園数は含まない

H29.5 学校教育課調べ(園)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
国立	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
公立	166	162	157	153	150	148	141	142	138	123	117	113
私立	12	12	12	12	12	12	12	12	11	10	9	9
計	179	175	170	166	163	161	154	155	150	134	127	123

※平成26年度までは、幼保連携型認定こども園を含む。

〔幼稚園児数〕

H29.6 教育創生課「学校基本統計」(人)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
3歳児	627	594	515	495	544	513	544	500	433	596	515	218
4歳児	3,707	3,650	3,617	3,359	3,172	3,301	3,196	3,211	3,077	2,796	2,606	2,272
5歳児	4,834	4,770	4,506	4,443	4,174	3,904	4,016	3,851	3,839	3,307	3,233	2,908
計	9,168	9,014	8,638	8,297	7,890	7,718	7,756	7,562	7,349	6,699	6,354	5,398

※平成26年度までは、幼保連携型認定こども園を含む。

〔就園率〕 ※小学校1年生の児童数に対する幼稚園修了者数の割合(全国)

H29.8 文部科学省「学校基本調査」(%)

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
全国	57.7	57.2	56.7	56.4	56.2	55.3	55.1	54.8	54.2	53.3	48.4	46.5
徳島県	68.6	68.6	68.1	67.5	68.3	65.8	66.0	65.4	64.4	64.2	57.7	55.5

〔認定こども園設置予定・実績〕

〔認定こども園児数〕

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成29年度
幼保連携型認定こども園(公立)	3	7(10)	1(11)	0(11)	2(13)	2(15)	1,281
幼保連携型認定こども園(私立)	1	2(3)	9(12)	7(19)	6(25)	8(33)	2,248
幼稚園型認定こども園(公立)	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0
幼稚園型認定こども園(私立)	0	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0
保育所型認定こども園(公立)	5	11(16)	▲1(15)	▲1(15)	0(15)	0(15)	981
保育所型認定こども園(私立)	0	1(1)	0(1)	0(1)	0(1)	0(1)	85
地方裁量型認定こども園(公立)	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0
地方裁量型認定こども園(私立)	0	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0
計(公立)	8	18(26)	0(26)	1(26)	2(28)	2(30)	2,262
計(私立)	1	3(4)	9(13)	7(20)	7(27)	8(35)	2,333
合計	9	21(30)	9(39)	8(46)	9(55)	10(65)	4,595

※()内は累計数

園児数：H29.4 次世代育成・青少年課調べ(人)

【 主な研修 】

	事業・研修名	目的	日数 主な研修内容	* 対 象				備 考	担当課
				幼	保	保教	他職種		
1	〔基本研修〕 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅰ 4/4 5/25 7/4 7/26～28 7/31 8/8 8/10 8/18 12/25	職務の遂行に必要な事項に関する研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得られるようにする。	園内研修10日 園外研修10日	○必 ●希		○必 ●希	○必	* 教諭・保育教諭として新たに採用された者を対象とする。 * 特別支援学校幼稚園教員も対象となる。	学校教育課
2	〔基本研修〕 幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ 第1回：4/25 5/2 第2回：12/8 12/15	職務の遂行に必要な事項に関する研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得られるようにする。	年間3日（複数回設定） ①講義・演習 ②保育参観・協議 ③講義・演習	○必 ●希		○必 ●希		* 教諭・保育教諭として採用された者の内、保育士としての勤務経験を有する者を対象とする。	学校教育課 次世代育成・青少年課
3	〔基本研修〕 幼稚園教諭10年経験者研修 共通：4/5 8/8 8/16 1/4 保育専門研修：7/21 8/1 8/8 8/10	幼稚園教育の課題解決に向けた研修及び学級経営・指導力向上に関する研修を行い、資質の向上を図る。	授業期間中研修10日（所属園） 休業期間中研修8日	○必 ●希		○必 ●希	○必	* 教職9年を終了した教諭・保育教諭を対象とする。	学校教育課
4	〔推薦研修〕 徳島県幼稚園教育課程研究協議会 8/9	幼稚園教育課程の編制及び実施に伴う指導上の諸問題について協議し、教員の指導力を高め、幼稚園教育の改善・充実を図る。	1日 ○講演 ○研究発表・研究協議 * 教育課程の編成及び実施に伴う指導上の諸課題についての内容	○割 ●割	○希 ●希	○割 ●希	○希	* 研究課題作成に係る自主勉強会を実施する。 * 講演会は参加自由にする。	学校教育課
5	〔推薦研修〕 保育技術協議会 8/2	幼児一人一人を理解し、その発達や特性に応じた保育を進めるとともに、保護者との対応に必要なカウンセリングマインド等、保育の専門技術を身に付けられるようにする。	2日 ○講義・演習 ○実技講習 * 具体的な保育技術を中心とした内容	○割 ●割	○希 ●希	○割 ●希	○希	* 原則として、採用10年目までの者を対象とし、より実践的な保育技術についての研修を実施する。	学校教育課
6	〔推薦研修〕 幼稚園マネジメント研修 8/7 8/21	幼稚園教育要領・幼保連携型認定の理解推進を促し、幼稚園中堅教員の資質や指導力の向上を図る。	2日 ①講義・演習 ②講義・演習 * 園全体のマネジメントにかかわる内容	○割 ●割	○希 ●希	○割 ●希	○希	* 管理職、中堅職員を対象とし、園全体のマネジメントにかかわる研修を実施する。	学校教育課
7	〔職務研修〕 幼稚園長等運営管理協議会 (5/16 公立幼・幼こ のみ) 6/13	幼稚園の教育内容・指導方法及び運営・管理に関する専門的な講義や研究協議を行い、園長等の見識を高め、指導力の向上を図ります。	1.5日 ①講演 ②保育参観・協議 講義	○必 ●希	○希 ●希	○必 ●希		* 新任幼稚園長・幼保連携型認定こども園長を対象とする。 * 第2回は各施設園長・所長の参加希望も受け入れる。	学校教育課
8	〔職務研修〕 学力向上推進員研修会 6/8（板野）6/6（阿南）1/5	現在求められている学力についての説明や学力向上のための実践的取組や発表等を通して園内研修の充実及び指導方法の改善に資することを目的とする。	2日 ①説明・講義・演習 ②実践報告・協議	○必		○必	○希	* 「学校」としての位置付けをもつ施設は、学力向上推進員を置き、学力向上実行プランを作成し提出する。 * 希望参加：視覚聴覚支援学校幼稚園部	学校教育課
9	〔職務研修〕 特別支援コーディネーター研修 －1年目－ 第1回 6/2 又は 6/12 第2回 6/23 又は 7/5	特別支援教育推進の中心的役割を果たす特別支援教育コーディネーターの資質向上を図る。	2日 ①講義・演習 ②講義・演習 * 気になる子どもの理解と支援や指導計画に関する内容	○必 ●希	○希 ●希	○必 ●希		* 公立の「学校」としての位置付けをもつ施設は、特別支援コーディネーターを置き、研修に参加する。	特別支援・相談課
	〔職務研修〕 特別支援コーディネーター研修 －2年目－ 第1回 7/26 第2回 12/27		2日 ①講義・演習 ②講義・演習 * 関係機関との連携やソーシャルスキルトレーニング等に関する内容	○必 ●希		○必 ●希			特別支援・相談課
	〔職務研修〕 特別支援コーディネーター研修 －3～5年目－ 4日のうち1日を選択 7/21 8/9 8/16 8/23		1日 ①講義・演習 ②講義・演習 * 個別の教育支援計画等に関する内容	○必 ●希		○必 ●希			特別支援・相談課
10	〔特別研修〕 あわ人権講座 (校種別実践力向上講座) 7/21	各学校における人権教育を充実・推進するため、人権意識の高揚を図り、人権及び人権問題に関する理解・認識を深め、人権教育の指導力を高める。	1日 ○講義・演習 * 確かな人権教育の推進方法や指導方法	○必		○必		* 教職8年目の者を対象とする。	人権教育課
11	〔希望研修〕	総合教育センターの実施する希望研修（公立幼稚園・幼保こども園に講座要項を配付、希望申込み）		○希		○希			各担当課 (主：教職員研修課)
12	〔大学・研究機関等研修〕	総合教育センターの実施する希望研修（公立幼稚園・公立幼保連携型認定こども園に講座を配付、希望申込み）		○希 ●希	○希 ●希	○希 ●希		参加可能な講座のみ、	各実施機関 (主：学校経営支援課)

* (幼) 幼稚園教諭 (保) 保育士 (保教) 保育教諭 ○公立 ●私立 * (必) 必須参加 (割) 割当参加 (希) 希望参加

資料 3

「徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ」の進捗状況(本調査研究に関連する事項)

〔徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ〕 【基本方針 2】 保育者の資質・向上

○徳島県教育委員会実施研修〈県主催〉(内容・講師・参加者数) (H29年度実績)

	研修会名	受講者数	内 訳 (人)				
			国公幼	私幼	公こ	私こ	保
基本研修	幼稚園等新規採用教諭研修Ⅰ 外10日 内10日	36人	24	1	11		
	幼稚園等新規採用教諭研修Ⅱ 3日	22人	5		12	5	
	中堅教諭等資質向上研修 8日	8人	8		0		
職務研修	幼稚園長等運営管理協議会 1.5日	延べ151人	136	1	8	3	3
	特別支援教育コーディネーター研修(1年目)	38人	19	0	9	5	5
	〃 (2年目)	26人	24	2	0		
	〃 (3～5年目)	35人	31	0	4		
	徳島県学力向上推進員研修会 半日(2回)	延べ224人 県立2を含む	212		10		
推薦研修	徳島県幼稚園教育課程研究協議会 1日	133人 県立2を含む	90	12	6	17	6
	幼稚園等マネジメント研修会 1日(1日は中止)	42人 県立1を含む	23	1	3	8	6
	保育技術協議会 1日	43人 県立2を含む	22	0	3	11	5
希望研修	特別支援教育研究会「『読み書き算数』の発達の基礎」	1人	1	0	0	0	0
	特別支援教育研究会「発達障がい者が抱える課題とその対応」	1人	1	0	0	0	0
大学 研究 機関等 研修	「絵本とその読み聞かせで学力をつけ、いじめを防ぐ」	6人	0	0	0	5	1
	「野菜栽培管理技術の習得と農業教育の事例研究」	2人	0	0	0	2	0
	「教員のための博物館の日 in 徳島」	2人	1	0	0	1	0
	「実験で見る：南海トラフ巨大地震で電柱・薬品棚・本棚・ブロック塀の倒れる方向と倒れない方向」	1人	0	0	0	1	0
	「幼児の心理と教育方法」(大学)	6人	1	0	0	3	2

※平成27年度より、保育教諭を主たる受講者とした新規採用教諭研修Ⅱを開講した。

※平成27年度より、保育所・認定こども園からの希望参加数を拡大した。

○保育事業連合会実施研修〈徳島県保育事業連合会の主催研修〉 (H29年度実績)

研 修 名	受講者数(人)	
	H29年度	
現任保育士等研修	(県保連に委託)	
新任保育士研修 (1日)	111	
特別支援保育担当者研修 (1日)	126	
健康及び安全研修 (1日)	83	
アレルギー及び食育研修 (1日)	117	
保育実践研修 (1日)	119	
保育士給食担当者研修 (1日)	172	
乳児保育 (2日)	132	
幼児教育 (2日)	107	
保護者支援・子育て支援 (2日)	102	
マネジメント研修 (3日)	121	
小計	1,190	
県保連の自主事業	(自主事業)	
保育夏季大学(県保連) (2日)	186 216	
保育所研究発表大会	215	

※幼稚園からの希望参加数を拡大した。

〔徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ〕

【基本方針3】 発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の推進

重点目標(1) 小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる観点からの幼児教育の充実

重点目標(2) 小学校との連携・接続の推進

【県の取組】

- 保・幼・小連携に関する研修の実施
- 幼小中連携推進事業「『学びのかけ橋』プロジェクト」(再掲)
 - ・県教育委員会指定「幼小中連携推進事業『学びのかけ橋』プロジェクト」
 - 平成22・23年度 実施市町村：鳴門市
 - 平成24・25年度 実施市町村：藍住町（※国研教育課程研究指定校事業「幼小接続」を兼ねる）
 - 平成26・27年度 実施市町村：北島町 東みよし町
 - 平成28・29年度 実施市町村：東みよし町 椿町

【設置者の取組】 【各施設の取組】

○幼小連携の状況

- ・小学校との連携の実施状況

H30.2 学校教育課調べ

	公立幼稚園数 (実施率)	公立幼保連携こども園数 (実施率)
実施している	113園 (100%)	11園 (100%)

※公立幼稚園・幼保連携型認定こども園が回答

- ・教師間の交流状況 (複数回答)

H30.2 学校教育課調べ

	公立幼稚園数 (実施率)	公立幼保連携こども園数 (実施率)
①保育・授業参観, 授業研究会 (市町村内含)	85園 (75%)	9園 (82%)
②合同の会議や研修会	100園 (89%)	9園 (82%)
③情報交換	111園 (98%)	11園 (100%)
④小学校入学に当たっての担当者会議等	107園 (95%)	11園 (100%)

- ・小学校児童と園児の交流状況 (複数回答)

①合同行事等	109園 (97%)	10園 (91%)
②園庭・校庭の相互開放	4園 (74%)	5園 (46%)
②情報交換	81園 (72%)	8園 (73%)
④保育・授業への相互参加	97園 (86%)	10園 (91%)

- ・小学校と園の保護者間の交流状況 (複数回答)

①合同行事の際の交流	105園 (93%)	7園 (64%)
②合同の保護者会・講演会・シンポジウム等	79園 (70%)	5園 (46%)
③情報交換	78園 (69%)	5園 (45%)
④PTA活動	98園 (87%)	3園 (27%)

重点目標(3) 幼稚園・保育所・認定こども園等の連携の促進

【設置者の取組】

○保幼人事交流・合同研修の状況

- ・市町村における人事交流の状況

H30.2 学校教育課調べ

	市町数
幼稚園教員と保育所保育士の人事交流を実施している。	8市町
幼稚園教員と保育所保育士の人事交流を実施していない。	9市町

※幼稚園及び保育所を設置している17市町が回答

- ・人事交流を実施している場合の平成29年度における対象人数

H30.2 学校教育課調べ

項目	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6~10名
幼稚園教員が保育所へ (市町)	3	2	1	1	0	1	0
保育所保育士が幼稚園へ (市町)	6	1	0	0	0	0	0

※人事交流を実施しているのは5市町

・市町（教育委員会・首長部局）が主催する合同研修の実施状況 H30.2 学校教育課調べ

項目	市町数
幼稚園教員と保育所保育士の合同研修を実施している。	8市町
幼稚園教員と保育所保育士の合同研修を実施していない。	9市町

※幼稚園及び保育所を設置している17市町が回答

【各施設の取組】

○保幼連携の状況

・公立幼稚園と保育所との連携の実施状況 H30.2 学校教育課調べ

	公立幼稚園数(実施率)
実施している	105園(93%)

・保育士と教員間の交流状況（複数回答）

交流内容	公立幼稚園数(実施率)
①保育研究会等（市町村内含）	90園(86%)
②合同の会議や研修会	88園(84%)
③情報交換	99園(94%)
④幼稚園入園に当たっての担当者会議等	76園(72%)

・保育所児と幼稚園児の交流状況（複数回答）

①合同行事等	58園(55%)
②園庭の相互開放	42園(40%)
③情報交換	57園(54%)
④保育への相互参加	59園(56%)

〔徳島県幼児教育振興アクションプランⅡ〕

【基本方針5】家庭や地域社会との連携の推進

重点目標(1) 子育て支援活動の充実

【県の取組】

○家庭や地域の教育力向上のための支援

・研修及び講座 (H29年度実績)

研修・講座名	参加者数
徳島県PTA会長・指導者講習会	600人
「とくしま親なびげーたー」養成講座 3日	40人
とくしま家庭教育のつどい	500人

- ・ホームページによる情報の提供
<http://syougai.tokushima-ec.ed.jp>
- ・家庭や教育力向上のための資料の提供
 - ・とくしま親なびプログラム集
 - ・徳島子ども読書ネットワークホームページ
 - ・「とくしまの子どものためのブックリスト100！」
 - ・「とくしまの赤ちゃんのためのぶっくりすと100！」

【設置者の取組】【各施設の取組】

○公立幼稚園等における子育て支援

・実施園数 H29.9 学校教育課調べ

実施している(割合)	実施していない(割合)
102園(90.3%)	11園(9.7%)

実施内容	実施園数 (実施率)	実施内容	実施園数 (実施率)
子育て相談（教職員）	85園 (83%)	子育て情報の提供（情報誌・紙）	82園 (80%)
子育て相談（外部人材）	28園 (27%)	子育て情報の提供（インターネット）	25園 (25%)
子育て井戸端会議	34園 (33%)	子育て講座・講演会（教職員）	13園 (13%)
未就園児の保育	50園 (49%)	子育て講座・講演会（外部人材）	58園 (57%)
園庭・園舎の開放	70園 (69%)	保護者の保育参加	83園 (81%)
子育てサークル等支援	3園 (3%)	父親に重点をおいた保育参加	4園 (4%)

※預かり保育実施幼稚園102園が回答（複数回答）

重点目標(3) 家庭・地域社会との連携の充実

【県の取組】

○地域ぐるみで家庭教育を支援する基盤形成

・文部科学省補助事業「ほのほの家庭教育づくりプログラム事業」

平成25年度 「子どもとふれあう孫育て講座」（家庭教育学習機会の提供）

「父親カルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）

「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」

（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

平成26年度 「子どもとふれあう孫育て講座」（家庭教育学習機会の提供）

「父親カルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）

「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」

（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

平成27年度 「子どもとふれあう孫育て講座」（家庭教育学習機会の提供）

「父親カルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）

「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」

（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

平成28年度 「孫育て楽しみ隊講座」（家庭教育学習機会の提供）

「父親カルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）

「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」

（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

平成29年度 「孫育て楽しみ隊講座」（家庭教育学習機会の提供）

「父親カルネサンス推進講座」（父親の家庭教育・地域教育参画推進）

「高校生による子ども・家庭教育支援アクション」

（高校生と乳幼児・小学生の交流機会提供）

○徳島県生涯学習指導者情報システム「まなびひろば」の活用促進

<http://syougai.tokushima-ec.ed.jp>

★マークのしかた



徳島県幼児教育推進体制構築事業に関する調査ご協力をお願い

本調査は、文部科学省委託「幼児教育の推進体制構築事業」の一環として実施するものです。つきましては、その資料にしたいのでアンケート調査にご協力くださいますようお願いいたします。

本調査は、園長・施設長など代表者にご回答ください。ただし、この調査に協力するか否かは自由意志で決定してください。協力されなくても不利益をうけることはありません。調査の結果は研究目的以外に使用いたしません。記名式ですが、またすべて統計的に処理するので、園名や個人名が特定されることはありません。報告書等を通じて個人情報を守秘されます。なお、調査から得られた情報はすべてパスワードを付すなど厳重に保管し、外部へは漏洩しません。この調査用紙は、集計後に破棄します。

貴重な時間をお借りし、ご負担をおかけしますが、みなさまのご協力をお願いいたします。

徳島県教育委員会学校教育課内 徳島県保育・幼児教育センター

TEL 088-621-3196 (直通) FAX 088-621-2882

E-mail yoneda_naoki_1@pref.tokushima.jp

園内研修（保育カンファレンス・研究保育等含む）について

- (1) 貴園の種類について、ひとつだけ選んでマークしてください。
 幼稚園 保育所 認定こども園
- (2) 貴園の設置形態について、ひとつだけ選んでマークしてください。
 公立 私立
- (3) 貴園では、園内研修をどの程度行っていますか。ひとつだけ選んでマークしてください。
 年に1回以下 各学期に1回以上 月に1回以上 週に1回以上
- (4) 貴園では、園内研修をどのような単位で行っていますか。いくつ選んでもかまいません。
 していない 全職員で 各学年で 各個人で
- (5) 貴園では、園内研修をどのように工夫して行っていますか。いくつ選んでもかまいません。
 事例を用いて ビデオを用いて 写真を用いて 付箋を用いて
- (6) 園内研修ではどんなことを研修していますか。いくつ選んでもかまいません。
 最新の保育動向（新幼稚園教育要領等） 教育課程・指導計画（長期・短期）
 環境構成 教材研究・技術向上
 給食指導・食育指導 特別な配慮を必要とする子どもへの指導
 小学校との交流や接続 幼稚園・保育所・認定こども園との交流や接続
 家庭・地域との連携 その他（ ）
- (7) その他、園内研修で工夫していることがあれば、具体的に教えてください。

徳島県幼児教育推進体制構築事業に関する調査のまとめ

(1) 調査目的

本調査は、徳島県幼児教育推進体制構築事業に関する調査の一環として、徳島県内の全幼稚園、保育所、認定こども園を対象に実施した悉皆調査である。徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業についての認知度や利用状況を理解するとともに、園内研修の実施状況や実施内容の実態を把握し、今後の本事業に活かすことを目的としている。

(2) 調査方法

2017年9月～10月に実施した。調査対象は、表1のとおり、徳島県内の幼稚園121園、保育所122園、認定こども園34園、計277園である（回収率90%）。郵送及び市町村の教育委員会をとおして、各園に調査用紙を配布し、園長・施設長など代表者に回答してもらい、郵送やファックスによって回収した。

表1 調査対象園

公立			私立			全体		
幼稚園	保育所	認定こども園	幼稚園	保育所	認定こども園	幼稚園	保育所	認定こども園
113園	69園	18園	8園	53園	16園	121園	122園	34園
200園			77園			277園		

(3) 調査内容

園内研修（保育カンファレンス・研究保育等含む）について、園内研究の頻度、園内研修の単位、園内研修の工夫、園内研修の内容について尋ねた。「徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業」については、事業内容の認知度、事業の利用状況、事業の支援内容について尋ねた。倫理的配慮：研究目的、プライバシーの保護と管理、研究成果の公表、調査協力の自由意志等を明記した。

(4) 結果概要

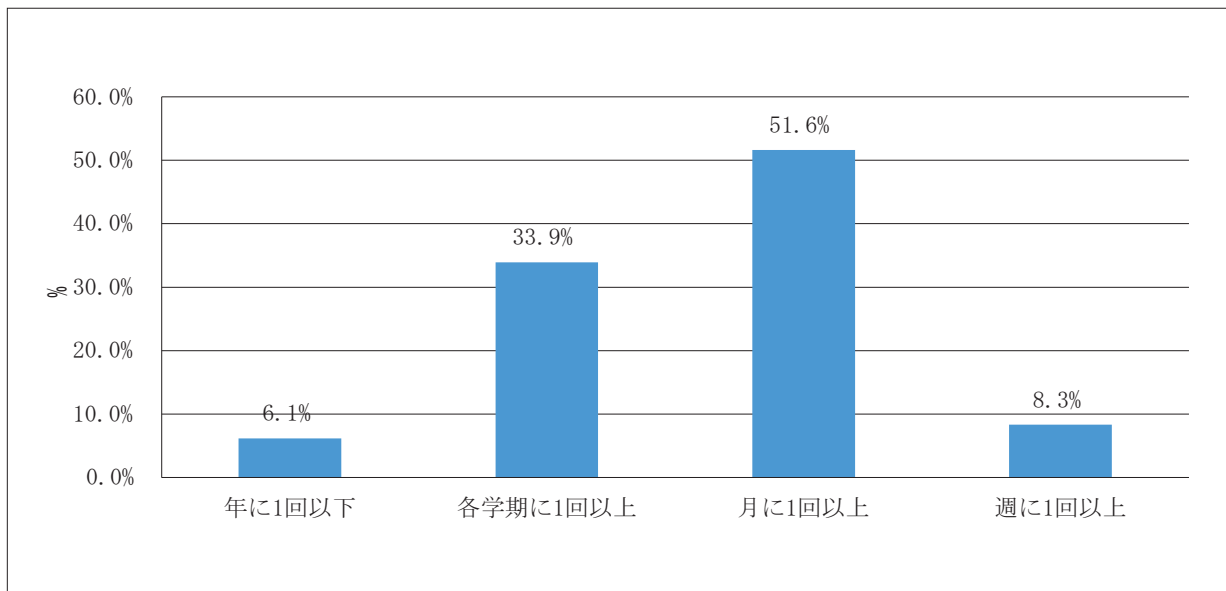
① 園内研修（保育カンファレンス・研究保育等含む）について

まず園内研修の頻度を尋ねたところ、「月に1回以上」が約半数で最も多かった（図①-1）。幼稚園では「週に1回以上」「月に1回以上」と高かった（表2）。

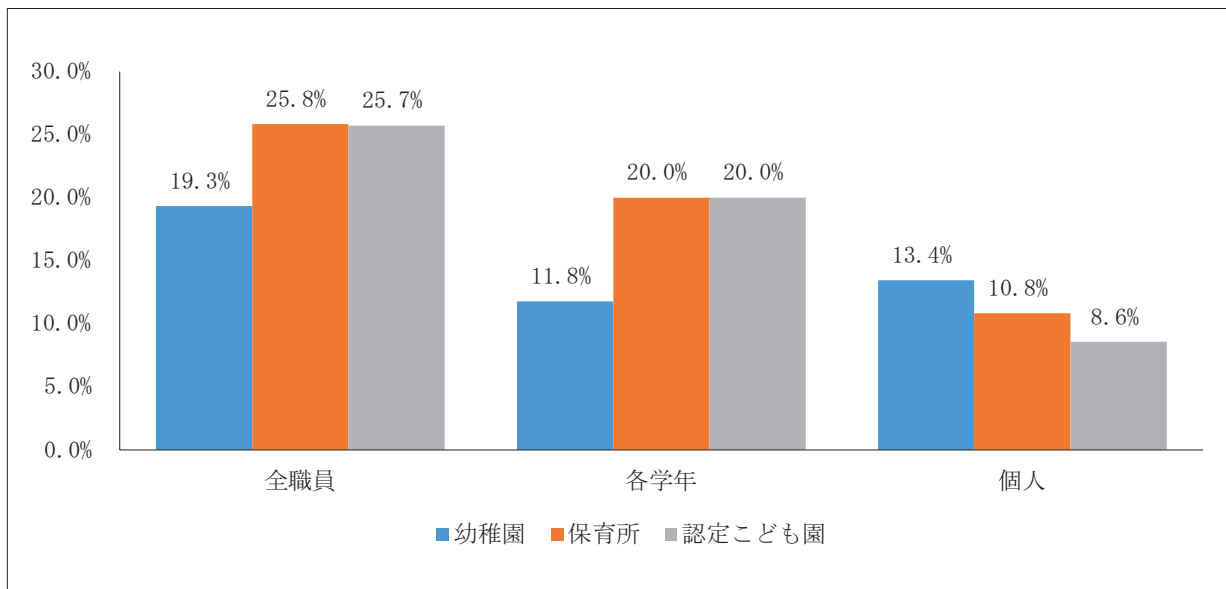
つぎに、「園内研修をどのような単位で行っているか」と尋ねたところ、「全職員」で行う割合が23.0%と最も高かった（表2）。

園内研修の工夫では「事例を用いて」行う割合が19.3%と最も高かった（表2）。保育所では「写真を用いて」が5.2%と低かった（図①-3）。

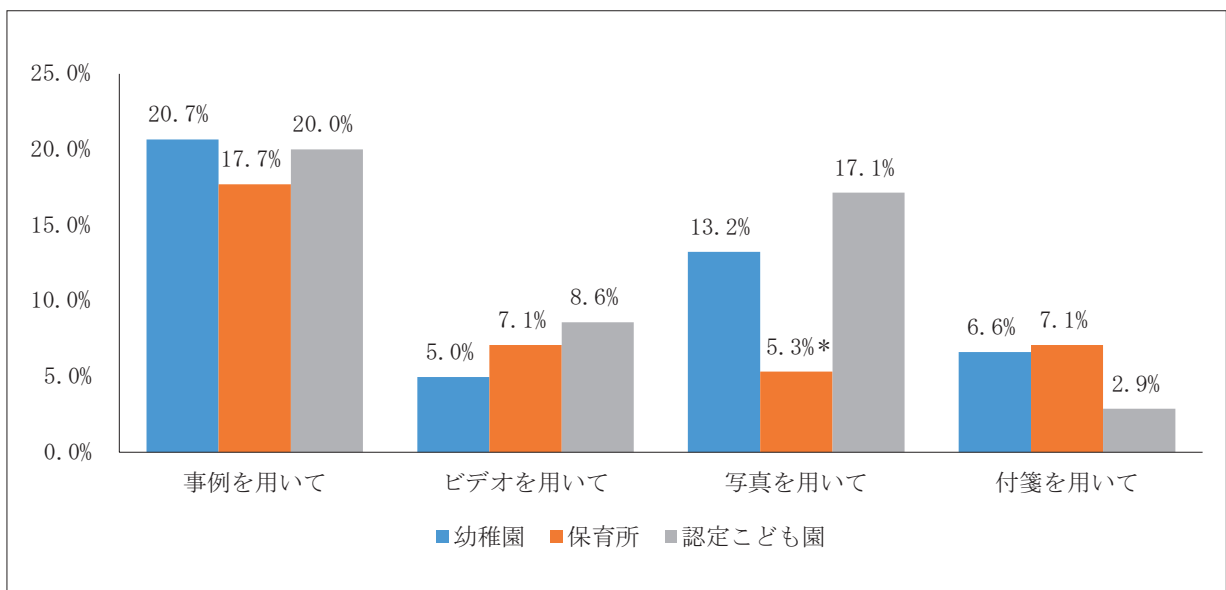
園内研修の内容では、「最新の保育動向（新幼稚園教育要領等）」36.1%が最も高く、30%を超えているのは「教育課程・指導計画（長期・短期）」32.9%、「環境構成」31.1%、「特別な配慮を必要とする子どもへの指導」30.4%であった（表2）。「その他」には、人権、危機管理、



図①-1 園内研修をどの程度行っているか



図①-2 園内研修をどのような単位で行っているか



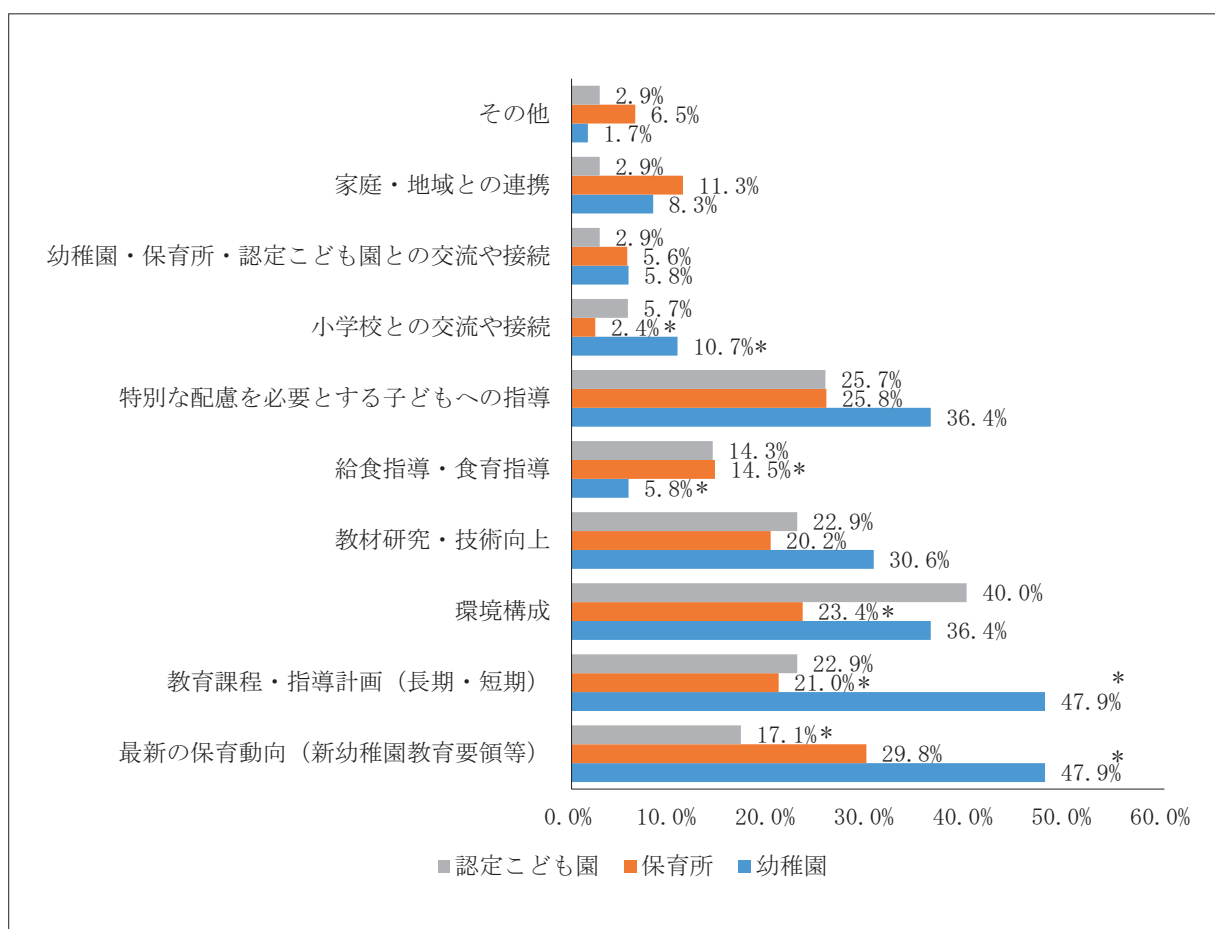
図①-3 園内研修をどのように工夫して行っているか

* 残差分析 $p < .05$

救急救命，交通安全，防災，ヒヤリハット，保護者対応，事例研究，自己評価，外部講師講話などがあつた。

「最新の保育動向(新幼稚園教育要領等)」は幼稚園が47.9%に対して認定こども園は17.1%,「教育課程・指導計画(長期・短期)」は幼稚園が47.9%に対して保育所は21.0%,「給食指導・食育指導」は保育所が14.5%に対して幼稚園は5.8%,「環境構成」は保育所が23.4%,「小学校との交流や接続」は保育所2.4%,認定こども園5.7%に対して幼稚園は10.7%と、幼稚園、保育所、認定こども園で差が見られた(図①-4)。「徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業」を「利用・利用予定」の園は「最新の保育動向(新幼稚園教育要領等)」の割合が高く、園内研修の頻度が「月に1回以上」では「最新の保育動向(新幼稚園教育要領等)」「教育課程・指導計画(長期・短期)」の項目が高かつた(表3)。

自由記述では、「進行役交代制」「1部・2部制」「文書連絡や記録での伝達」「小学校との合同研修」「短い時間、少人数での研修」「新任・中堅・リーダー毎」「テーマに応じて」「休憩を兼ねて」「新規採用教諭研修を兼ねて」「事前の資料配付など時間の効率化」「エピソード記録を保護者と共有」「ドキュメンテーション」「保育時間中、各保育室へ伝言(掲示)」「降園後の片付け準備中のカンファレンス」「研修会報告」「マナー」「外部講師の指導」など様々な工夫が見られた。



図①-4 園内研修ではどんなことを研修しているか

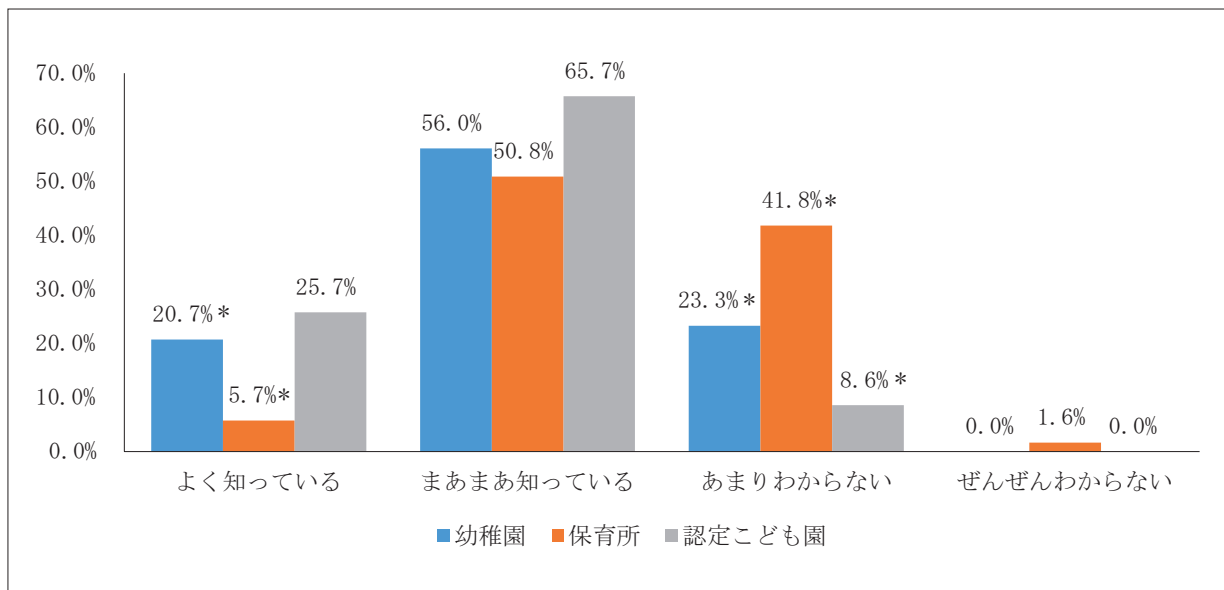
*残差分析 $p < .05$

② 「徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業」について

「徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業」について、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせると69.6%と約7割の認知度であった（表2）。幼稚園では「よく知っている」20.7%が高かったが、保育所は「あまりわからない」が41.8%であった（図②-1）。

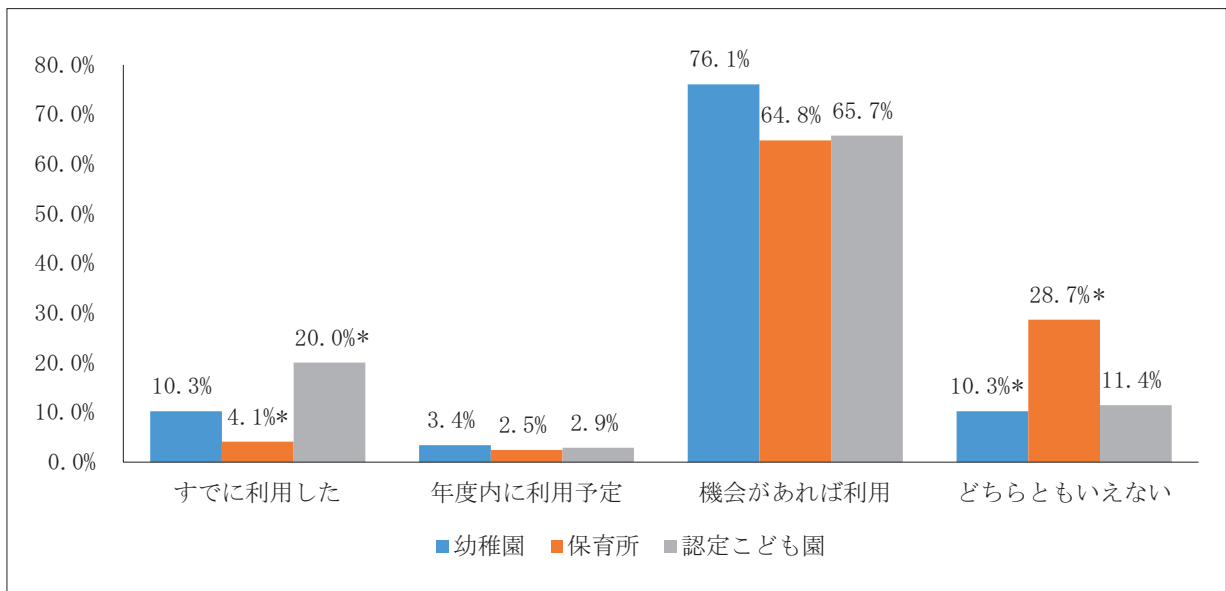
「徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業」を利用したいと思っているか尋ねたところ、7割近くが「機会があれば利用したい」（69.7%）と思っていることが明らかになった（表2）。認定こども園は「すでに利用した」が20.0%と高く、幼稚園では「どちらともいえない」10.3%、保育所は「すでに利用した」4.1%、「どちらともいえない」28.7%であった（図②-2）。

「徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業」にどのような支援をしてほしいか尋ねたところ、「最新の保育動向」、「教育課程・指導計画」、「特別支援」の順に割合が高かった（表2）。「最新の保育動向」は幼稚園59.8%、保育所30.8%、「教育課程・指導計画」については幼稚園34.2%、保育所17.1%、「環境構成」は幼稚園24.8%、「教材研究・技術向上」は幼稚園24.8%、保育所9.4%という結果であった（図②-3）。「徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣事業」を「利用・利用予定」の園は「教育課程・指導計画」の割合が高く、園内研修の頻度が「月に1回以上」では「最新の保育動向（新幼稚園教育要領等）」が高かった（表3）。



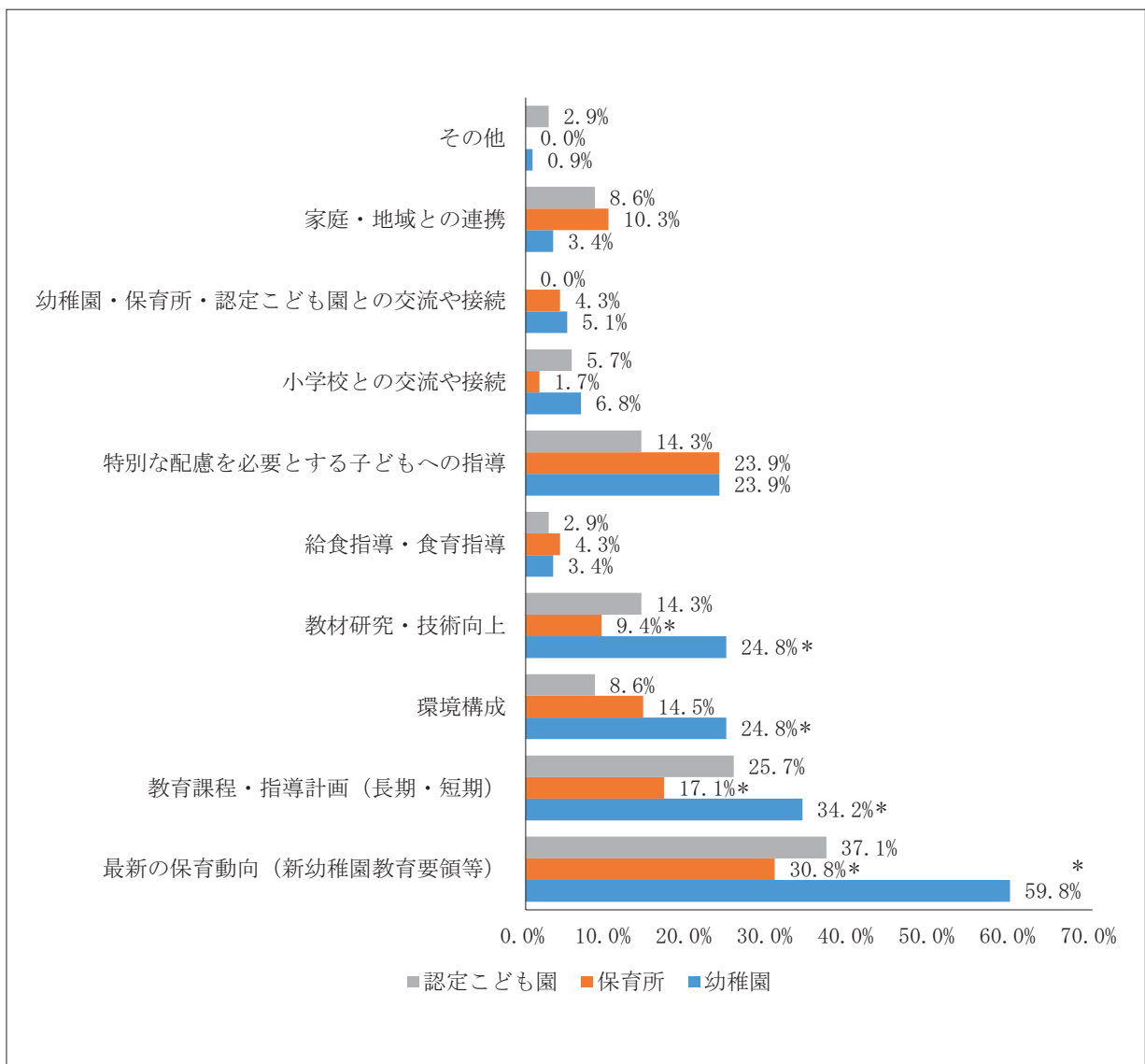
図②-1 本事業の内容についてどの程度知っているか

* 残差分析 $p < .05$



図②-2 本事業を利用したいと思っているか

*残差分析 $p < .05$



図②-3 事業を利用したいと思っているか

*残差分析 $p < .05$

表2 単純集計表（公立・私立、幼稚園・保育所・認定こども園別）

項目		公立				私立				合計
		幼稚園	保育所	認定こども園	計	幼稚園	保育所	認定こども園	計	
園内研修 頻度	年に1回以下	1.8%	14.5%	5.6%	6.5%	0.0%	7.5%	0.0%	5.2%	6.1%
	各学期に1回以上	21.2%	49.3%	33.3%	32.0%	50.0%	34.0%	50.0%	39.0%	33.9%
	月に1回以上	61.1%	34.8%	55.6%	51.5%	37.5%	54.7%	50.0%	51.9%	51.6%
	週に1回以上	15.9%	1.4%	5.6%	10.0%	12.5%	3.8%	0.0%	3.9%	8.3%
園内研修 単位	全職員	20.7%	23.9%	21.1%	21.8%	0.0%	28.3%	31.3%	26.0%	23.0%
	各学年	12.6%	16.4%	21.1%	14.7%	0.0%	24.5%	18.8%	20.8%	16.4%
	個人	14.4%	11.9%	5.3%	12.7%	0.0%	9.4%	12.5%	9.1%	11.7%
園内研修 工夫	事例を用いて	20.4%	14.3%	5.3%	16.9%	25.0%	22.0%	37.5%	25.7%	19.3%
	ビデオを用いて	4.4%	4.8%	0.0%	4.1%	12.5%	10.0%	18.8%	12.2%	6.3%
	写真を用いて	13.3%	3.2%	5.3%	9.2%	12.5%	8.0%	31.3%	13.5%	10.4%
	付箋を用いて	5.3%	6.3%	0.0%	5.1%	25.0%	8.0%	6.3%	9.5%	6.3%
園内研修 内容	最新の保育動向	48.7%	30.4%	21.1%	39.8%	37.5%	29.1%	12.5%	26.6%	36.1%
	教育課程・指導計画	48.7%	15.9%	26.3%	35.3%	37.5%	27.3%	18.8%	26.6%	32.9%
	環境構成	37.2%	20.3%	36.8%	31.3%	25.0%	27.3%	43.8%	30.4%	31.1%
	教材研究・技術向上	31.0%	21.7%	10.5%	25.9%	25.0%	18.2%	37.5%	22.8%	25.0%
	給食指導・食育指導	6.2%	11.6%	21.1%	9.5%	0.0%	18.2%	6.3%	13.9%	10.7%
	特別支援等	37.2%	29.0%	26.3%	33.3%	25.0%	21.8%	25.0%	22.8%	30.4%
	小学校交流等	10.6%	4.3%	10.5%	8.5%	12.5%	0.0%	0.0%	1.3%	6.4%
	幼保認交流等	6.2%	8.7%	5.3%	7.0%	0.0%	1.8%	0.0%	1.3%	5.4%
	家庭・地域連携	8.8%	8.7%	5.3%	8.5%	0.0%	14.5%	0.0%	10.1%	8.9%
その他	1.8%	7.2%	0.0%	3.5%	0.0%	5.5%	6.3%	5.1%	3.9%	
事業 認知度	よく知っている	21.6%	7.4%	31.6%	17.7%	0.0%	3.7%	18.8%	6.7%	14.7%
	まあまあ知っている	55.9%	51.5%	57.9%	54.5%	60.0%	50.0%	75.0%	56.0%	54.9%
	あまりわからない	22.5%	41.2%	10.5%	27.8%	40.0%	42.6%	6.3%	34.7%	29.7%
	ぜんぜんわからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	2.7%	0.7%
事業 利用状況	すでに利用した	10.7%	2.9%	15.8%	8.5%	0.0%	5.6%	25.0%	9.3%	8.8%
	年度内に利用予定	3.6%	2.9%	5.3%	3.5%	0.0%	1.9%	0.0%	1.3%	2.9%
	機会があれば利用	77.7%	70.6%	63.2%	73.9%	40.0%	57.4%	68.8%	58.7%	69.7%
	どちらともいえない	8.0%	23.5%	15.8%	14.1%	60.0%	35.2%	6.3%	30.7%	18.6%
事業 支援内容	最新の保育動向	60.7%	36.4%	36.8%	50.3%	40.0%	23.5%	37.5%	27.8%	44.2%
	教育課程・指導計画	34.8%	21.2%	31.6%	29.9%	20.0%	11.8%	18.8%	13.9%	25.7%
	環境構成	24.1%	12.1%	5.3%	18.3%	40.0%	17.6%	12.5%	18.1%	18.2%
	教材研究・技術向上	25.0%	13.6%	21.1%	20.8%	20.0%	3.9%	6.3%	5.6%	16.7%
	給食指導・食育指導	3.6%	6.1%	0.0%	4.1%	0.0%	2.0%	6.3%	2.8%	3.7%
	特別支援等	24.1%	28.8%	10.5%	24.4%	20.0%	17.6%	18.8%	18.1%	22.7%
	小学校交流等	7.1%	1.5%	0.0%	4.6%	0.0%	2.0%	12.5%	4.2%	4.5%
	幼保認交流等	5.4%	6.1%	0.0%	5.1%	0.0%	2.0%	0.0%	1.4%	4.1%
	家庭・地域連携	3.6%	9.1%	15.8%	6.6%	0.0%	11.8%	0.0%	8.3%	7.1%
その他	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	6.3%	1.4%	0.7%	

表3 単純集計表（事業利用、園内研修頻度別）

項目		事業利用		園内研修頻度	
		利用・利用予定	それ以外	各学期に1回以上	月に1回以上
園内研修頻度	年に1回以下	3.2%	6.6%	15.2%	0.0%
	各学期に1回以上	38.7%	32.0%	84.8%	0.0%
	月に1回以上	54.8%	52.5%	0.0%	86.4%
	週に1回以上	3.2%	9.0%	0.0%	13.6%
園内研修単位	全職員	21.9%	23.8%	18.2%	26.1%
	各学年	15.6%	17.1%	12.7%	18.8%
	個人	9.4%	12.1%	8.2%	13.9%
園内研修工夫	事例を用いて	21.9%	18.7%	14.4%	22.9%
	ビデオを用いて	9.4%	5.5%	5.8%	6.6%
	写真を用いて	12.5%	9.8%	5.8%	12.7%
	付箋を用いて	6.3%	6.8%	4.8%	8.4%
園内研修内容	最新の保育動向	53.1%	33.3%	22.3%	45.6%
	教育課程・指導計画	37.5%	32.1%	16.1%	44.4%
	環境構成	21.9%	31.7%	27.7%	33.1%
	教材研究・技術向上	25.0%	24.4%	19.6%	29.0%
	給食指導・食育指導	6.3%	11.8%	10.7%	11.2%
	特別支援等	21.9%	30.9%	28.6%	31.4%
	小学校交流等	9.4%	6.1%	7.1%	5.9%
	幼保認交流等	0.0%	6.5%	4.5%	6.5%
	家庭・地域連携	6.3%	9.3%	5.4%	11.2%
その他	3.1%	3.7%	2.7%	4.7%	
事業認知度	よく知っている	50.0%	9.8%	9.3%	17.4%
	まあまあ知っている	43.8%	55.5%	57.9%	52.7%
	あまりわからない	6.3%	33.9%	31.8%	29.9%
	ぜんぜんわからない	0.0%	0.8%	0.9%	0.0%
事業利用状況	すでに利用した	75.0%	0.0%	10.3%	7.1%
	年度内に利用予定	25.0%	0.0%	1.9%	3.6%
	機会があれば利用	0.0%	79.4%	65.4%	73.2%
	どちらともいえない	0.0%	20.6%	22.4%	16.1%
事業支援内容	最新の保育動向	56.3%	43.2%	36.8%	49.4%
	教育課程・指導計画	46.9%	22.8%	22.6%	27.4%
	環境構成	25.0%	17.8%	16.0%	20.7%
	教材研究・技術向上	28.1%	14.9%	11.3%	20.1%
	給食指導・食育指導	9.4%	3.7%	3.8%	4.3%
	特別支援等	25.0%	22.4%	20.8%	23.8%
	小学校交流等	9.4%	3.7%	2.8%	5.5%
	幼保認交流等	3.1%	3.7%	3.8%	4.3%
	家庭・地域連携	3.1%	7.5%	5.7%	7.9%
その他	0.0%	0.8%	0.9%	0.6%	

徳島県保育・幼児教育アドバイザー派遣のご案内

徳島県保育・幼児教育センターでは、保育・教育の充実を支援するため、保育や教育の専門家で、経験・知識とも豊富な【保育・幼児教育アドバイザー】を派遣する事業を開始します。

アドバイザーの派遣先

幼稚園，保育所，認定こども園です。（私立・公立は問いません。）

一緒に考え
ましょう！

費用について 交通費・謝礼等は必要ありません。

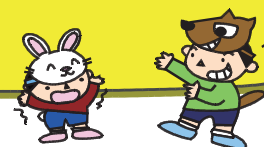
具体的な支援内容(例)

- ①子どもにふさわしい環境の構成や援助
- ②子どもに必要な〇〇遊び
- ③子ども理解と発達
- ④特別な支援を要する子どもとの接し方
- ⑤保護者との関係づくり
- ⑥保幼小の連携
- ⑦必要な情報 等



支援の場(例)

- 実際の保育を見ながら
- 幼保・幼小・保小の交流研修会に（違った立場からの情報がほしい 等）
- 保護者との会に（〇〇について話をしてほしい）
- 他園同士・他所同士との合同研修会に
- 小学校（幼稚園・保育所・こども園）のことが知りたいとき 等



保育・幼児教育アドバイザーの申込手続き

- ① 訪問の希望を保育・幼児教育センターに連絡する。（電話，FAX，メールいずれも可）
- ② 希望の日時や内容をセンターと相談する。
- ③ 必要なら，園・所とアドバイザーで，訪問内容を調整する。
- ④ 派遣終了後，実施報告書（簡易なものです）を提出する。（FAX 或いはメールで）

連絡先 徳島県教育委員会学校教育課内

徳島県保育・幼児教育センター（米田・吉本）

電話：088-621-3196 ファクシミリ：088-621-2882

E-mail:yoneda_naoki_1@pref.tokushima.jp



まずは、お電話ください。

↑
半角数字の 1

スーパーバイザー一覧（業務の対象は、主に県単位あるいは市町村単位）

1		国立大学法人鳴門教育大学教授
2		国立大学法人鳴門教育大学教授
3		国立大学法人鳴門教育大学特命准教授
4		国立大学法人鳴門教育大学附属幼稚園長
5		徳島文理大学准教授
6		学校法人四国大学講師

アドバイザー一覧（注 研修指導員 = 県幼稚園等新規採用教諭研修指導員）

1		・ 研修指導員 ・ 県学校訪問指導員 ・ 元公立幼稚園長
2		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
3		・ 元公立保育所長
4		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
5		・ 徳島文理大学短期大学部保育科講師 ・ 元公立保育所長
6		・ 福祉専門学校教員 ・ 元公立保育所長
7		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
8		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
9		・ 元県教育委員会幼稚園担当指導主事 ・ 元公立幼稚園長 ・ 元私立大学講師（兼 同大学附属幼稚園長）
10		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
11		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
12		・ 特定非営利活動法人こどもの発達研究室理事長 ・ 日本感覚統合学会インストラクター ・ 言語聴覚士 ・ 社会福祉士 ・ 特別支援教育士 ・ 臨床発達心理士 ・ 知的障害福祉士
13		・ 元公立保育所長
14		・ 研修指導員 ・ 県学校訪問指導員 ・ 元公立幼稚園長
15		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
16		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
17		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
18		・ 元公立保育所長
19		・ 元公立保育所長
20		・ 研修指導員 ・ 元鳴門教育大学附属幼稚園教諭
21		・ 家庭児童相談員 ・ 元公立保育所長及び私立保育所長 ・ 元市民福祉部福祉事務所児童課保育指導係
22		・ 県特別支援教育巡回相談員 ・ 公立小学校指導教諭 ・ 元県教育委員会特別支援教育課指導主事及び特別支援・相談課指導主事
23		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長
24		・ 研修指導員 ・ 元市教育委員会指導主事
25		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長 ・ 元県教育委員会幼稚園担当指導主事 ・ 市教育支援調査員
26		・ 研修指導員 ・ 県学校訪問指導員 ・ 元公立幼稚園長
27		・ 県学校訪問指導員 ・ 元公立幼稚園長 ・ 元市教育委員会指導主事
28		・ 研修指導員 ・ 元公立幼稚園長 ・ 元市教育委員会指導主事
29		・ 県教育委員会生活科担当指導主事
30		・ 県教育委員会幼稚園担当指導主事

徳島県保育・幼児教育センターQ & A

Q 1 訪問の際、アドバイザーは、どんなことをするのですか。

A 1 (昨年度の取組より)

① 保育中の訪問の場合

- ・参観をしながら、保育者から質問があれば答えたり、求めに応じて保育に参加したりします。保育・教育について、気軽に思いを出し合う座談会の時間をとっていただければ、より意義ある研修の場となります。

② 保育時間外の訪問の場合

- ・園内研修（研究保育、悩みごとへの対応、実技演習等）の講師。
- ・保護者への講話。 等

③ 市町村主催のイベント等の場合

講師 等

名称はアドバイザーですが、一方的に指導するのではなく、先生方が、御自身の保育・教育に自信をもち、「明日の保育・教育が楽しみになる」ことを一番の目的としています。先生方の保育・教育を意味づけ、課題に対して共に考え、ヒントやアイデアを手引きすることができることを大切にします。

Q 2 訪問時間は長いのですか。

A 2 御相談ください。園の事情を優先してください。

Q 3 (保育中の) 訪問に際して、特別な準備は必要ですか。

A 3 指導案を書いたり、特別に環境を整えたりする必要はありません。日頃の保育の様子をそのまま見せてください。ただ、訪問要請の理由に「指導案の書き方」がある場合には、御準備いただけると、具体的な話がしやすくなります。

また、訪問終了後には、アンケートにお答えいただいております。今後、調査への御協力を依頼するかもしれませんが、御負担の重いものではありません。

Q 4 小学校の研修会においても、訪問要請は可能ですか。

A 4 可能です。

- ・幼稚園・保育所・こども園との合同研修の場。
- ・小学校の校内研修（全体或いは小集団）において、幼児教育の立場からの意見を必要とするとき。 等

Q 5 アドバイザーを選ぶことはできますか。

A 5 人選は、センターが行うことを基本としています。「要請の理由とそれに答える専門性」と「訪問先までの距離」を条件に人選しております。

Q 6 要請を複数回することはできますか。

A 6 できます。短時間でもかまいませんので、複数回訪問していただくことにより、実態に応じたよりの的確な助言をいただいたり、園や保育者の変容を見ていただいたりします。

29年度前半期，訪問先の声より

- ・〇〇アドバイザーの助言が一つ一つの確で，すぐにでも保育に取り入れられ，また園児理解の視点に立ったすばらしいものであった。園長兼任園として常に課題に挙げられる保育の質の向上に，この機会は欠かせないと痛感する。また，園内研修の折にもこの事業を是非活用させていただきたい。(幼稚園長)
- ・日々の教育・保育に意味づけ・価値づけをしていただき，教員は自信をもったり勉強させていただいたりしました。(幼稚園長)
- ・園全体で課題を感じていた特別に支援が必要な幼児への関わり方や保護者との信頼関係の築き方など，具体的に指導していただいたことで，共通理解することができ，今後の意欲につながった。(幼稚園長)
- ・写真をスクリーンに映しての協議では，保育をしていると見ることでできない幼児の姿も見ることができた。また，具体的に指導していただいたことで，職員間で幼児の育ちや環境構成・教師の関わりについて学ぶことができた。(幼稚園長)
- ・今日は，小学校の目線で見てください，何の教科につながるか，小学校のポイント，グループ活動，評価等とどうつながっているか教えてください。なめらかな接続になっていることが実感でき，うれしかった。(幼稚園長)
- ・マイナスばかりで考えることなくプラスを考える，視点を変えてみることでよい方向にいくなど，改めて考えることができた。ほめていただくこともあり，職員の気持ちも楽になったり，意欲につながったりした。(保育園長)
- ・保育を実際に見ていただき，指導を受ける機会がなかったので，職員一同とても刺激になり，たいへん勉強になりました。(こども園長)
- ・新教育要領を保育の中にどのように取り入れていけばよいか，詳しくご説明いただき，とても勉強になりました。(〇〇郡市幼稚園・こども園教育研究協議会長)

FAX送信票（そのままお使いください）

徳島県教育委員会学校教育課内 保育・幼児教育センター 行

保育・幼児教育アドバイザーの訪問を希望します。

園名 所名		園長 所長	
住所	〒		
電話		FAX	

※ 折り返し，御連絡させていただきます。

